Canon

EOS R5

詳細ガイド

J

CT2-D090-A

© CANON INC. 2020

目次

はじめに. 9
カメラと主な付属品. 10
使用説明書について. 12
すぐ撮影するには. 13
このガイドについて. 17
使用できるカードについて. 19
安全上のご注意. 20
取り扱い上のご注意. 23
各部の名称. 26
ソフトウェア. 39
準備と基本操作. 43
バッテリーを充電する. 44
バッテリーを入れる／取り出す. 47
カードを入れる／取り出す. 50
モニターを使う. 56
電源を入れる. 58
RFレンズを取り付ける／取り外す. 62
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す. 66
ファインダーを使う. 70
基本操作. 71
メニュー機能の操作と設定. 86
クイック設定. 92
画面にタッチして操作する. 93
撮影モード. 95
A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）. 96
A+：全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）. 100
Fv：フレキシブルAE撮影. 103
P：プログラムAE撮影. 106
Tv：シャッター優先AE. 108
Av：絞り優先AE. 111

M：マニュアル露出. 115
BULB：長時間露光（バルブ）撮影. 118
撮影. 122
静止画撮影. 123
メニュー目次：静止画撮影. 125
記録画質. 131
DPRAW設定. 137
静止画クロップ／アスペクト. 139
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影. 143
静止画のISO感度を設定. 145
HDR PQ設定. 153
オートライティングオプティマイザ. 157
高輝度側・階調優先. 159
フリッカーレス撮影. 160
外部ストロボ撮影. 162
ストロボ機能の設定. 166
ホワイトバランス. 179
ホワイトバランスの補正. 187
色空間. 191
ピクチャースタイルの選択. 192
ピクチャースタイルの調整. 196
ピクチャースタイルの登録. 200
明瞭度. 203
レンズ光学補正. 204
長秒時露光のノイズ低減. 210
高感度撮影時のノイズ低減. 212
ダストデリートデータ取得. 214
多重露出撮影. 218
HDRモード. 227
フォーカスBKT撮影. 232
インターバルタイマー撮影. 236
シャッター方式. 240
カードなしレリーズ. 242

手ブレ補正（IS機能）設定. 243
タッチシャッターで撮影する. 246
撮影画像の確認. 248
高速表示. 251
測光タイマー. 253
露出Simulation. 254
撮影情報表示設定. 255
ファインダー表示形式. 265
撮影画面表示設定. 266
測光モードの選択. 267
自分の好みに露出を補正する. 269
露出を固定して撮る／AEロック撮影. 271
静止画撮影全般. 273
動画撮影. 276
メニュー目次：動画撮影. 278
動画撮影. 282
動画記録画質. 298
動画クロップ撮影. 310
録音. 311
Canon Log設定. 315
HDR動画撮影. 322
タイムラプス動画. 324
動画セルフタイマー. 337
手ブレ補正（IS機能）設定. 338
動画撮影時シャッターボタンの機能. 342
ゼブラ設定. 344
タイムコード. 347
その他のメニュー機能. 354
動画撮影全般の注意事項. 364
AF／ドライブ. 367
メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）. 368
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）. 372
AF動作. 375

AF方式の選択. 379
コンティニュアスAF. 398
動画サーボAF. 399
タッチ&ドラッグAF設定. 401
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）. 404
サーボAF特性. 412
AF機能のカスタマイズ. 423
ドライブモードの選択. 436
セルフタイマー撮影. 439
リモコン撮影. 441
再生. 446
メニュー目次：再生タブ. 448
画像の再生. 451
画像の拡大表示. 457
インデックス表示（複数画像表示）. 460
音声メモを記録／再生. 463
動画の再生. 469
動画の前後部分のカット. 472
4K動画／8K動画からフレーム切り出し. 475
テレビで見る. 477
画像プロテクト. 479
画像消去. 483
静止画の回転. 490
動画の回転情報の変更. 492
レーティング. 494
画像コピー. 502
印刷指定／DPOF. 510
フォトブック指定. 515
RAW現像（RAW & DPRAW）. 519
DPRAW現像. 528
JPEG/HEIF画像のリサイズ. 535
JPEG/HEIF画像のトリミング. 537
HEIF画像をJPEG画像に変換. 540

スライドショー. 542
画像検索の条件設定. 545
メイン電子ダイヤルでの画像送り. 548
メイン電子ダイヤルとサブ電子ダイヤル2の入れ換え. 550
RATE/音声ボタンの機能. 551
再生する情報の設定. 553
ハイライト警告表示. 556
AFフレーム表示. 557
再生時のグリッド. 558
動画再生カウント. 559
HDMI HDR出力. 561
無線通信機能. 562
メニュー目次：無線通信機能タブ. 563
Wi-Fi/Bluetooth接続. 565
スマートフォンと通信. 567
パソコンとWi-Fi接続. 609
Webサービスへ画像を送信. 625
FTPサーバーへの画像転送. 632
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続. 656
ワイヤレスリモコンと接続. 664
2回目以降のWi-Fi接続. 668
複数の接続設定の登録. 670
機内モード. 671
Wi-Fi設定. 672
Bluetooth設定. 673
ニックネーム. 674
GPS機器の設定. 675
接続設定の変更／削除. 680
通信の設定初期化. 683
情報表示画面. 684
仮想キーボードの操作方法. 685
エラー表示の対応. 686
無線通信機能での注意事項. 700

セキュリティーについて. 701
ネットワークの設定を確認する. 702
無線通信機能の接続状態. 703
機能設定. 705
メニュー目次：機能設定タブ. 706
記録・再生するカードを選択する. 709
フォルダの設定. 716
画像番号. 720
ファイル名の設定. 725
カード初期化. 728
縦位置画像回転表示. 731
動画縦位置情報の付加. 733
日付／時刻／エリア. 735
言語. 739
ビデオ方式. 740
ヘルプ機能. 741
電子音. 744
ヘッドフォン音量. 745
節電. 746
エコモード. 747
画面の表示先設定. 748
モニターの明るさ. 750
ファインダーの明るさ. 751
モニター／ファインダーの色調. 752
ファインダーの色調微調整. 753
メニュー画面の拡大. 754
HDMI出力解像度. 755
タッチ操作. 756
マルチ電子ロック. 757
電源オフ時のシャッター状態. 758
センサークリーニング. 759
カメラの初期化. 764
カスタム撮影モード（C1-C3）. 766

バッテリー情報. 769
著作権情報. 776
その他の情報. 779
カスタム機能／マイメニュー. 780
メニュー目次：カスタム機能タブ. 781
カスタム機能で変更できる内容. 784
メニュー目次：マイメニュータブ. 811
マイメニューの登録. 812
資料. 819
パソコンへの画像の取り込み. 820
USB電源アダプターを使って充電／給電する. 824
バッテリーグリップを使う. 827
故障かな？と思ったら. 838
エラー表示. 856
システム図. 857
動画撮影時のISO感度. 860
情報表示. 861
12コマ／秒の連続撮影が可能なEFレンズ. 875
主な仕様. 877
商標・ライセンスについて. 896

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに安全上のご注意、および取り扱い上のご注意をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本製品）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

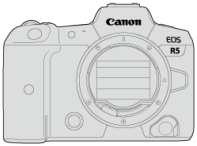
あなたがカメラ（本製品）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

周辺機器との接続について
カメラをパソコンなどと接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（）。

- カメラと主な付属品
- 使用説明書について
- すぐ撮影するには
- このガイドについて
- 使用できるカードについて
- 安全上のご注意
- 取り扱い上のご注意
- 各部の名称
- ソフトウェア

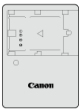
カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（ボディキャップ付き）

バッテリーパック LP-E6NH
（保護カバー付き）



充電器 バッテリーチャージャー LC-E6

ストラップ

インターフェースケーブル IFC-100U

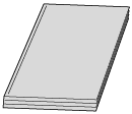
ケーブルプロテクター

- メモリーカード（）、HDMIケーブルは付属していません。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェアのCD-ROMは付属していません。ソフトウェア（）は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

注意

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（）。
  なお、レンズの使用説明書（PDFファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。

- **詳細ガイド**
  すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
  最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。
  https://cam.start.canon/C003/

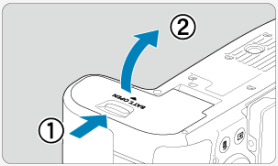
- **レンズ／ソフトウェア使用説明書**
  下記のサイトからダウンロードしてください。
  https://cam.start.canon/

参考

- ［**：使用説明書・ソフトウェア URL**］を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

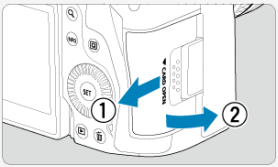
すぐ撮影するには

1. バッテリーを入れる（ ）



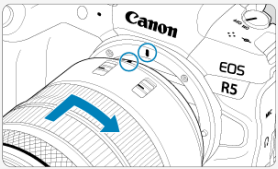
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください（ ）。

2. カードを入れる（ ）



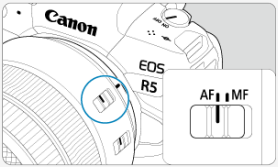
- カードを2枚入れることができます。

3. レンズを取り付ける（ ）

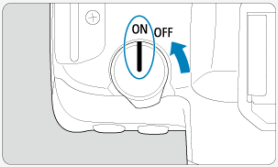


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

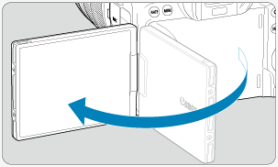
4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（）



5. 電源スイッチを〈ON〉にする（）



6. モニターを開いてセットする（）

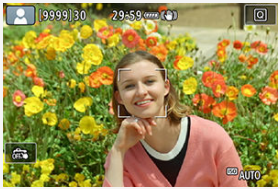


- モニターに日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、日付／時刻／エリアを参照してください。

7. 撮影モードを［A+］にする（）

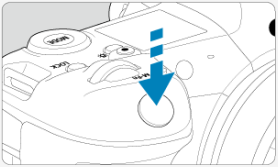
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉を回して［A+］を選びます。
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

8. ピントを合わせる（）



- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム［ ］が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

9. 撮影する（）



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

10.撮影した画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（）。

このガイドについて

本文中の絵文字について

操作説明の前提と作例写真について

本文中の絵文字について

〈 〉	メイン電子ダイヤルを示しています。
〈 〉	サブ電子ダイヤル1を示しています。
〈 〉	サブ電子ダイヤル2を示しています。
〈 〉	マルチコントローラーを示しています。
〈 〉	レンズのコントロールリングを示しています。
〈SET〉	設定ボタンを示しています。
*1	操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用	タイトル右の 応用 は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
?	困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉、マルチ電子ロック機能がオフになっていることを前提に説明しています（,）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、RF24-105mm F4 L IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（ ）。**

- **CFexpressカード**
  ＊Type-B 対応
- **SD/SDHC/SDXCメモリーカード**
  UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適応する性能（書き込み／読み取り速度）を備えたカードを使用してください（ ）。

このガイドでは、CFexpressカードを「CFexpressカード」、SD/SDHC/SDXCメモリーカードを「SDカード」、メモリーカードの総称を「カード」と表記しています。
*画像を記録する**カードは付属していません。**別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠警告　死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

● 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
● 指定外の電源は使わない。
● 分解や改造をしない。
● 強い衝撃や振動を与えない。
● 破損したときは、内部に触れない。
● 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
● アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
● 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
● 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
感電、破裂、火災の原因となります。
● レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
● 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。
● バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
- 指定外の製品で使わない。
- 熱したり、火中投入しない。
- 指定外の製品で充電しない。
- 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 液漏れしたものは使わない。
- 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
● バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
- 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
- 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。

● 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
● 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
● コードを引っ張って電源プラグを抜かない。

● 電源に長時間つないだままにしない。
● 5℃～40℃の範囲外で充電しない。
感電、破裂、火災の原因となります。
● 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
● 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

● ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
● 長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。
● ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
● 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
● ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
● レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
けがやカメラの故障の原因となります。
● 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
● カメラを三脚につけたまま移動しない。
けがや事故の原因となります。
● 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。
● 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー収納部ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダーなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニター、ファインダー、および表示パネルについて

- モニターおよびファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

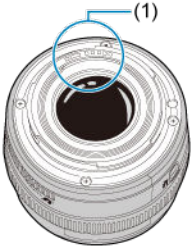
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点（1）やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

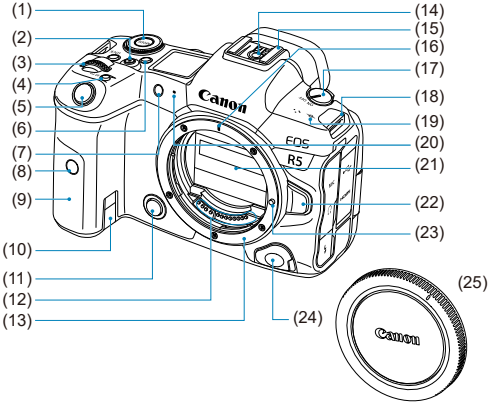
バッテリーについて

バッテリーと充電器の上手な使い方

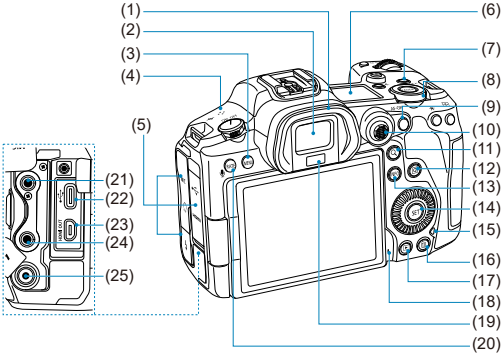
- 風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 長期間保管する場合、1年に1回程度充電してください。
- 充電するときの充電状態はフル充電ではなく、50%程度を目安としてください（）。
- 使い切ったバッテリーを50%程度充電するために必要な時間は、常温（＋23°C）で約60分です。なお、充電時間は周囲の温度によって大きく異なります。
- カメラから取り外していてもバッテリー内部では微小の電流が流れていますので、長期間放置しておくと過放電状態になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。

各部の名称

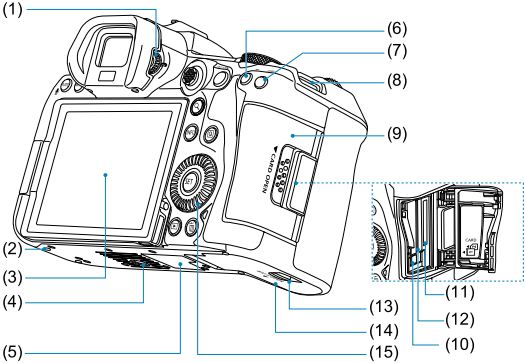
- ストラップ（吊りひも）の取り付け方
- ケーブルプロテクターの使い方



(1)	〈MODE〉ボタン
(2)	動画撮影ボタン
(3)	〈 〉メイン電子ダイヤル
(4)	〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
(5)	シャッターボタン
(6)	〈 〉表示パネル情報切り換え／照明ボタン
(7)	セルフタイマーランプ／AF補助光
(8)	リモコン受信部
(9)	グリップ（バッテリー室）
(10)	DCカプラーコード通し部
(11)	絞り込みボタン
(12)	接点
(13)	レンズマウント
(14)	シンクロ接点
(15)	アクセサリーシュー
(16)	RFレンズ取り付け指標
(17)	電源スイッチ
(18)	ストラップ取り付け部
(19)	〈 〉撮像面マーク
(20)	マイク
(21)	シャッター幕／撮像素子
(22)	レンズロック解除ボタン
(23)	レンズロックピン
(24)	リモコン端子
(25)	ボディキャップ


(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
(12)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(19)
(20)
(21)
(22)
(23)
(24)
(25)

(1)	アイカップ
(2)	ファインダー接眼部
(3)	〈MENU〉メニューボタン
(4)	スピーカー
(5)	端子カバー
(6)	表示パネル
(7)	〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン
(8)	〈 〉サブ電子ダイヤル2
(9)	〈AF-ON〉AFスタートボタン
(10)	〈※〉マルチコントローラー（中央押しあり）
(11)	〈Q〉拡大／縮小ボタン
(12)	〈Q〉クイック設定ボタン
(13)	〈INFO〉インフォボタン
(14)	〈SET〉設定ボタン
(15)	アクセスランプ
(16)	〈🗑〉消去ボタン
(17)	〈▶〉再生ボタン
(18)	音声メモ用マイク
(19)	ファインダーオンセンサー
(20)	〈RATE〉レーティング／音声メモボタン
(21)	〈MIC〉外部マイク入力端子
(22)	〈 〉デジタル端子
(23)	〈HDMI OUT〉HDMIマイクロ出力端子
(24)	〈 〉ヘッドフォン端子
(25)	〈⚡〉シンクロ端子

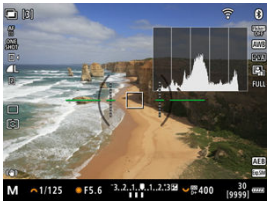


(1)	視度調整つまみ
(2)	アクセサリー位置決め穴
(3)	モニター
(4)	三脚ねじ穴
(5)	シリアル番号（機番）
(6)	〈✱〉AEロックボタン
(7)	〈⊞〉AFフレーム選択ボタン
(8)	ストラップ取り付け部
(9)	カードスロットカバー
(10)	カード取り出しボタン
(11)	カードスロット2
(12)	カードスロット1
(13)	バッテリー収納部ふたロック
(14)	バッテリー収納部ふた
(15)	〈◎〉サブ電子ダイヤル1

表示パネル表示例

カメラの状態により表示される内容が異なります。表示されるマークについては、情報表示を参照してください。

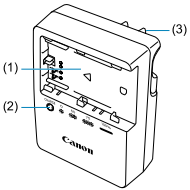
ファインダー内表示例



カメラの状態により表示される内容が異なります。

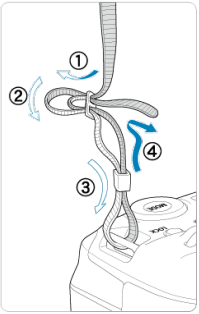
バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6の充電器です（）。



(1)	バッテリー取り付け部
(2)	充電ランプ
(3)	電源プラグ

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



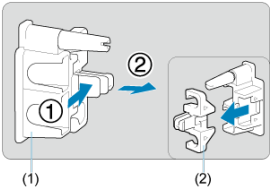
ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ケーブルプロテクターの使い方

カメラとパソコンを接続するときは、**付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。**
また、**カメラにインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。**ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

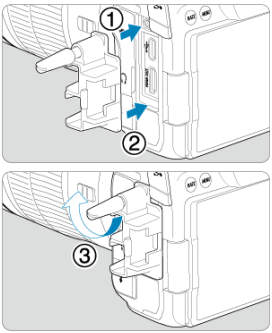
付属インターフェースケーブル／市販のHDMIケーブル使用時

1.



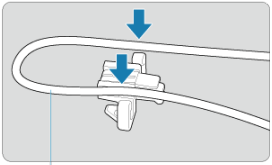
（1）プロテクター本体
（2）クランパー部

2.

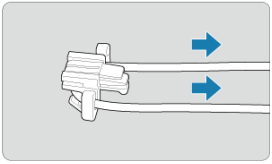


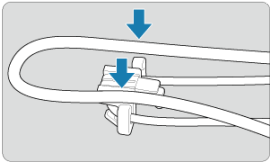
3.

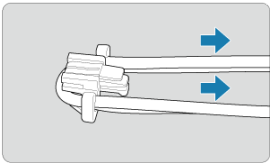
細いケーブルを使用する場合



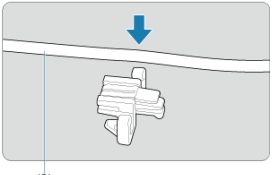
(3)



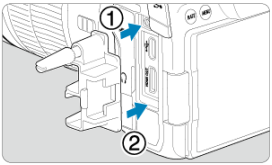




太いケーブルを使用する場合



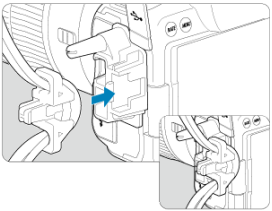
(3)



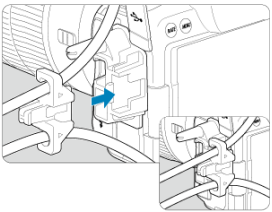
（3）付属インターフェースケーブル

4.

細いケーブルを使用する場合

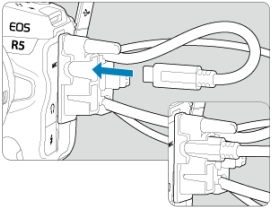


太いケーブルを使用する場合

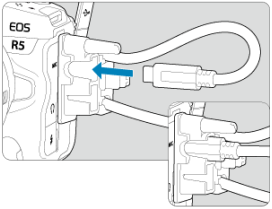


5.

細いケーブルを使用する場合

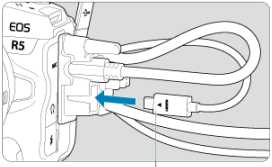


太いケーブルを使用する場合

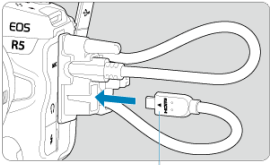


6.

細いケーブルを使用する場合

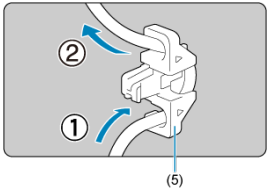


太いケーブルを使用する場合



（4）HDMIケーブル（別売）

別売の純正インターフェースケーブル使用時



別売のキヤノン純正インターフェースケーブルを使用するときは、図のようにケーブルをクランパー部（5）に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

注意

- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

参考

- カメラとテレビを接続するときは、市販のHDMIケーブルを使用してください。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

ソフトウェア

- ソフトウェアの概要
- EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード／インストール
- ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェアの概要

EOS用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのダウンロード／インストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロード／インストールはできません。

EOS Utility（イオスユーティリティ）

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。

Digital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル）

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。

Picture Style Editor（ピクチャースタイルエディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

GPS Log File Utility（ジーピーエスログファイルユーティリティ）

GPSログファイル（.LOG）をKMZファイル形式に変換するためのソフトウェアです。

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード／インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

注意

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
  https://cam.start.canon/

- ソフトウェアをダウンロードします。
- ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラの底面に記載されています。
- パソコン上で解凍します。

  - **Windows**
    表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

  - **macOS**
    dmgファイルが生成／表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

    1.dmgファイルをダブルクリックする

    - デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
      インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

    2.インストーラーファイルをダブルクリックする

    - インストーラーが起動します。

2. 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

● ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト

https://cam.start.canon/

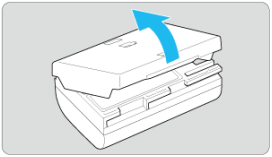
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

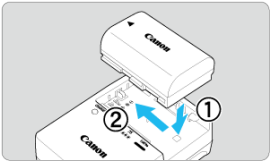
- バッテリーを充電する
- バッテリーを入れる／取り出す
- カードを入れる／取り出す
- モニターを使う
- 電源を入れる
- RFレンズを取り付ける／取り外す
- EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す
- ファインダーを使う
- 基本操作
- メニュー機能の操作と設定
- クイック設定
- 画面にタッチして操作する

バッテリーを充電する

1. **付属の保護カバーを外す**

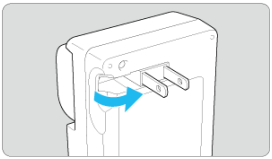


2. **バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける**

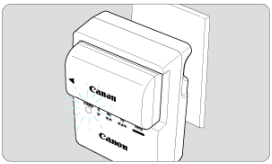


- 取り外しは逆の手順で行います。

3. **電源プラグを起こす**



4. **電源プラグをコンセントに差し込む**



- 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（＋23°C）で約2時間30分です。**なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5°C～+10°C）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みのバッテリーに付属の保護カバーを取り付けるときは、バッテリーの青いシールに保護カバーの窓〈 〉が重なるようにします。使用済みのバッテリーのときは、180度回して取り付けます。

- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
  バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
  バッテリーの劣化度を確認した上で（ ）、新しいバッテリーをお買い求めください。

注意

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量（）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

バッテリーを入れる／取り出す

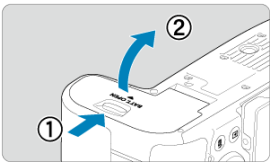
入れ方

取り出し方

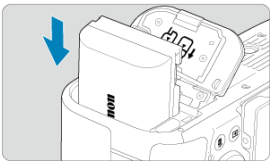
充電したバッテリーパック LP-E6NH（またはLP-E6N、LP-E6）をカメラに入れます。

入れ方

1. **バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける**

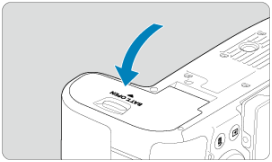


2. **バッテリーを入れる**



- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3. ふたを閉める



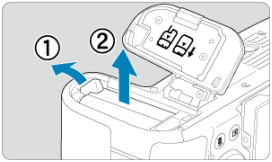
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

注意

- バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方

1. **ふたを開けて、バッテリーを取り出す**



- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー（ ）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

入れ方

カードを初期化する

取り出し方

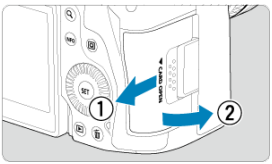
このカメラは、カードを2枚入れることができます。**どちらかのスロットにカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**
カードを2枚入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（）。

注意

- **SDカードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。**

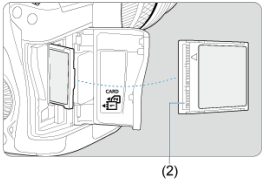
入れ方

1. **カバーをスライドして、開ける**

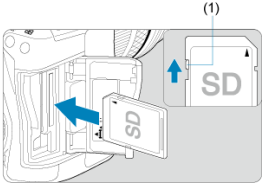


2. カードを入れる

カード1（CFexpressカード）

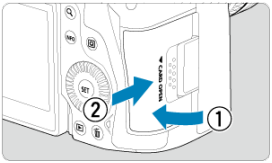


カード2（SDカード）



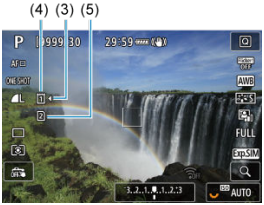
- カメラの背面側に入れたカードが［1］（CFexpressカードJ）、前面側に入れたカードが［2］（SDカード）になります。
- CFexpressカードは、カードの表を手前にして、溝（2）がある方を奥にして差し込みます。**入れる向きを間違えるとカメラが壊れることがあります。**
- カード取り出しボタン（灰色）がせり出します。
- SDカードは、カードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

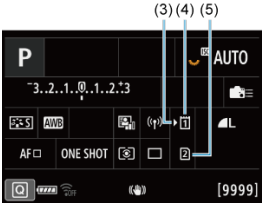
3. カバーを閉める



- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。

4. 電源スイッチを〈ON〉にする（）





(3) カード選択マーク
(4) カード1（CFexpressカード）
(5) カード2（SDカード）

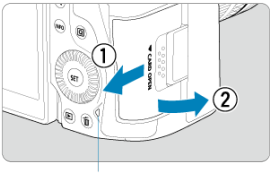
- 〈INFO〉ボタンを押して表示される撮影画面（）やクイック設定画面（）に、装填したカードが表示されます。**[▶] マークが付いているカードに画像が記録されます。**

カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（🔗）。

取り出し方

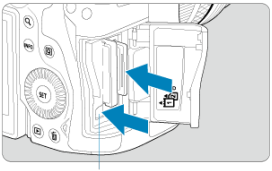
1. カバーを開ける



(1)

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプ（1）が消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- モニターに［**書き込み中...**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。

2. カードを取り出す



(2)

- CFexpressカードは、カード取り出しボタン（2）を押し込むと、カードが出てきます。
- SDカードは、カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

注意

撮影時に画面に赤い［⚠］が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈OFF〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- ［**：カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（）。

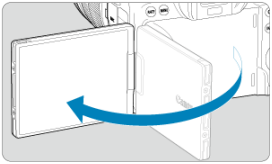
注意

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **カードを取り出す**
  - **バッテリーを取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **電源コードの抜き差しを行う**
    （家庭用電源アクセサリー（別売）使用時）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、（microSDカードからSDカードへの）変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。
  UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

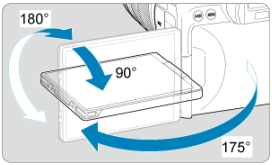
モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1. モニターを開く

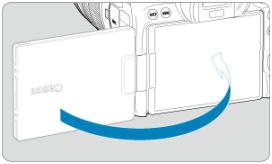


2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

注意

- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

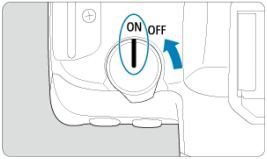
電源を入れる

日付／時刻／エリアを設定する

表示言語を変更する

撮像素子の自動清掃

バッテリー残量表示について



- 〈ON〉
  カメラが作動します。

- 〈OFF〉
  カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[**書き込み中...**] が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

日付／時刻／エリアを設定する

電源スイッチを入れたときに、日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、日付／時刻／エリアを参照して日付／時刻／エリアを設定してください。

表示言語を変更する

表示言語を変更するときは、言語を参照してください。

撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに［ ］が表示されます。電源スイッチを〈ON〉にしたときにも、撮像素子の自動清掃が行われるようにしたい場合は、［ : **センサークリーニング**］で設定することができます（ ）。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、［ ］が表示されないことがありますが、故障ではありません。

バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。

表示						
残量（%）	100～70	69～50	49～20	19～10	9～1	0

参考

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- [**：バッテリー情報**] でバッテリーの状態を確認することができます（）。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

RFレンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

取り外し方

注意

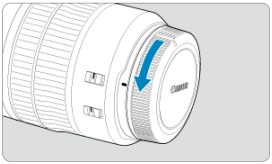
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

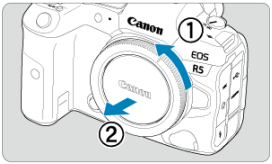
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

取り付け方

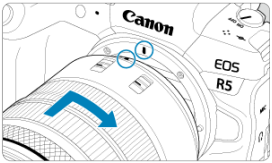
1. キャップを外す





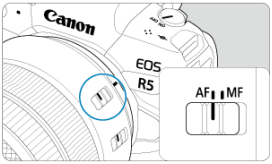
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける



- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



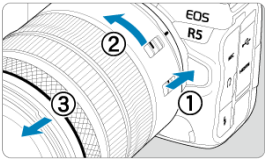
- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

- RFレンズにフォーカスモードスイッチがないときは、カメラのメニュー［**AF**：**フォーカスモード**］で［**AF**］［**MF**］を設定します。

4. レンズキャップを外す

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

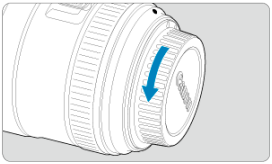
取り付け方

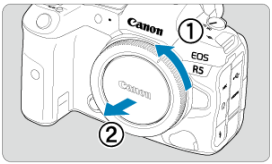
取り外し方

別売のマウントアダプター EF-EOS Rを使用すると、すべてのEFレンズ、 EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方

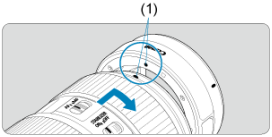
1. **キャップを外す**

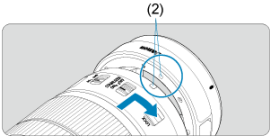




- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2. アダプターにレンズを取り付ける



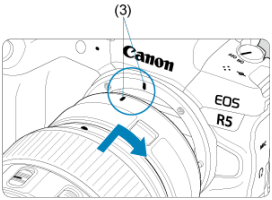


- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

（1）赤い指標

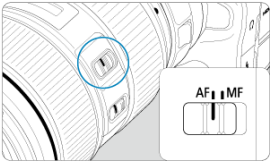
（2）白い指標

3. カメラにアダプターを取り付ける



- アダプターとカメラの赤いレンズ取り付け指標（3）を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

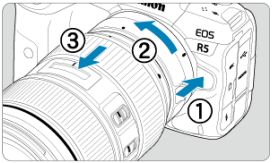


- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

5. レンズキャップを外す

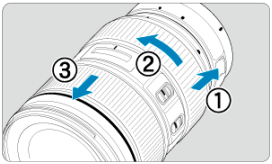
取り外し方

1. レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

2. レンズをアダプターから取り外す



- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

注意

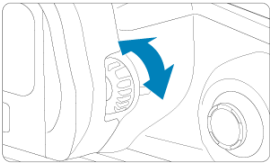
- レンズに関する注意事項は、RFレンズを取り付ける／取り外すをご確認ください。

ファインダーを使う

ファインダーをのぞくと、ファインダーに画面が表示されます。画面の表示先を固定することもできます（）。

ファインダーの調整

1. **視度調整つまみを回す**



- ファインダー内の表示が鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

注意

- ファインダーとモニターを同時に表示することはできません。
- アスペクト比の設定によっては、左右または上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影されません。

基本操作

- カメラの構え方
- シャッターボタン
- 〈 〉 メイン電子ダイヤル
- 〈 〉 サブ電子ダイヤル1
- 〈 〉 サブ電子ダイヤル2
- 〈 〉 マルチコントローラー
- 〈MODE〉ボタン
- 〈M-Fn〉：マルチファンクションボタン
- 〈AF-ON〉：AFスタートボタン
- 〈LOCK〉：マルチ電子ロックボタン
- 〈 〉表示パネル情報切り換え／照明ボタン
- 〈 〉 コントロールリング
- 〈INFO〉：インフォボタン

カメラの構え方

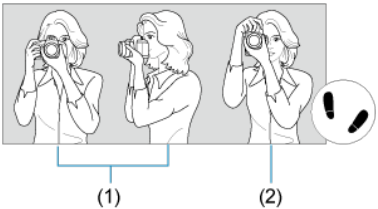
● モニターを見ながら撮影

モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくはモニターを使うを参照してください。

（1）通常のアングル
（2）ローアングル
（3）ハイアングル

● ファインダーを見ながら撮影

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



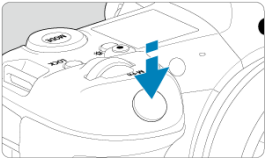
（1）横位置
（2）縦位置

1.右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
2.左手でレンズを下から支えるように持ちます。
3.右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
4.脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
5.片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
6.カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

シャッターボタン

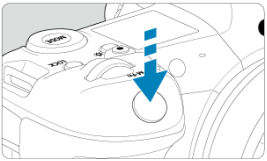
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニター、ファインダー内、または表示パネルに8秒間表示されます（測光タイマー／⏱8）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

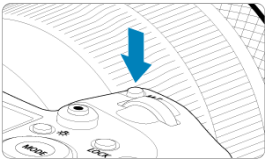
- カメラの構え方のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

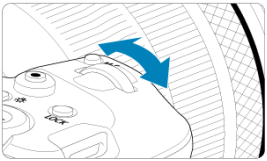
参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈 〉 メイン電子ダイヤル

（1）ボタンを押したあと〈 〉を回す

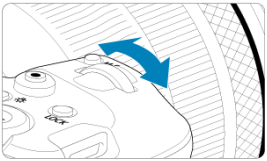




〈MODE〉〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈 〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ISO感度、ドライブモード、AF動作、ホワイトバランス、調光補正の設定などに使用します。

（2）〈 〉のみを回す



モニター、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

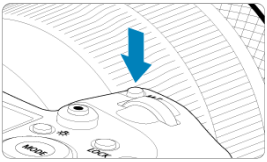
- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

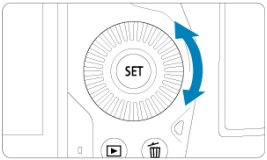
参考

- （1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（ ）でも行うことができます。

〈◎〉 サブ電子ダイヤル1

（1）ボタンを押したあと〈◎〉を回す

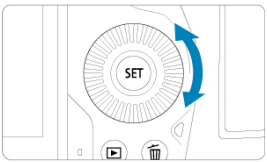




〈MODE〉〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈◎〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ISO感度、ドライブモード、AF動作、ホワイトバランス、調光補正の選択などに使用します。

（2）〈◎〉のみを回す



モニター、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

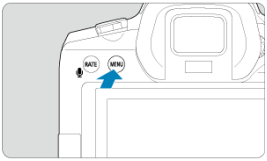
- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

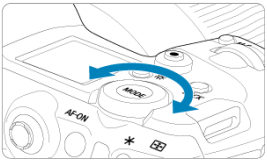
参考

- （1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（）でも行うことができます。

〈 〉 サブ電子ダイヤル2

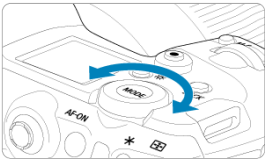
（1）ボタンを押したあと〈 〉を回す





〈MENU〉ボタンなどを押したあと、〈 〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
● メニュー画面のメインタブ（系統）の切り換えなどに使用します。

（2）〈 〉のみを回す



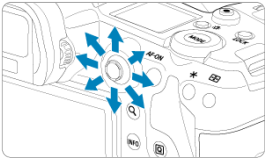
モニター、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
● ISO感度の設定などに使用します。

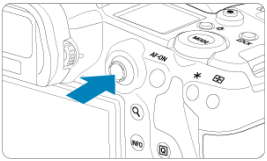
参考

● （1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（ ）でも行うことができます。

〈※〉 マルチコントローラー

〈※〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。親指の腹を軽くあてて操作します。

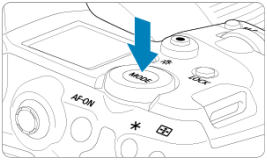




- ホワイトバランス補正、静止画撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。

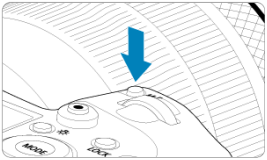
〈MODE〉ボタン

撮影モードを設定することができます。



- 〈MODE〉ボタンを押したあと〈 〉を回して、撮影モードを選択します。
- 〈MODE〉ボタンを押したあと〈INFO〉ボタンを押すと、静止画撮影と動画撮影を切り換えることができます。

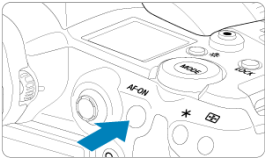
〈M-Fn〉：マルチファンクションボタン



〈M-Fn〉ボタンを押したあと〈◎〉を回すと、ISO感度（）、ドライブモード（）、AF動作（）、ホワイトバランス（）、ストロボ調光補正（）を設定することができます。測距エリア／AF方式を選ぶときは、〈⊞〉ボタンを押したあと（⏱6）、〈M-Fn〉ボタンを押します。

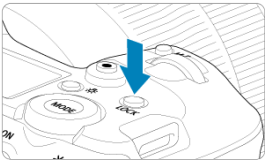
〈AF-ON〉: AFスタートボタン

シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます（[ ] モードを除く）。

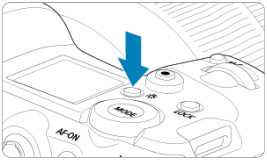


〈LOCK〉: マルチ電子ロックボタン

[: **マルチ電子ロック**] を設定し ( )、〈LOCK〉ボタンを押すと、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル1、サブ電子ダイヤル2、マルチコントローラー、コントロールリングが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。再度、〈LOCK〉ボタンを押すと、設定が解除されます。

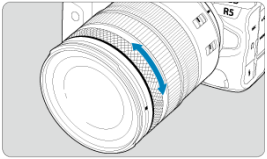


〈☼〉表示パネル情報切り換え／照明ボタン



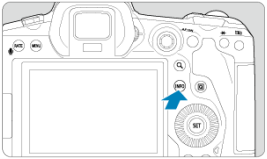
- 〈☼〉ボタンを押すたびに表示パネルの情報表示内容が切り換わります。
- 〈☼〉ボタンを長押しすると、表示パネルが点灯します（⏱6）。
- 再生画面で〈☼〉ボタンを押すと、［**モニターの明るさ**］の設定画面に切り換わります。

〈⓪〉コントロールリング

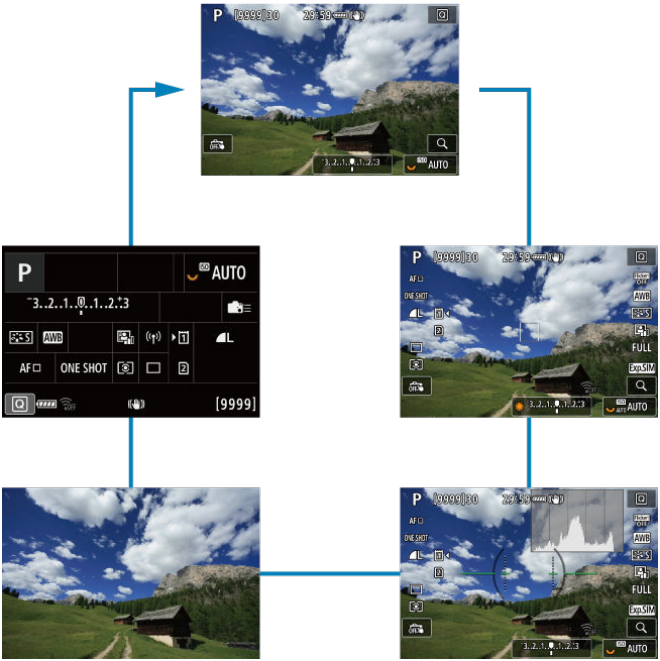


初期状態では、［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］モードのときに、シャッターボタンを半押しした状態で、RFレンズ、またはマウントアダプターのコントロールリングを回すと、露出補正を設定することができます。また、操作カスタマイズ機能の［ : **ダイヤル カスタマイズ**］で（ ）、コントロールリングに他の機能を割り当てることもできます。

〈INFO〉：インフォボタン

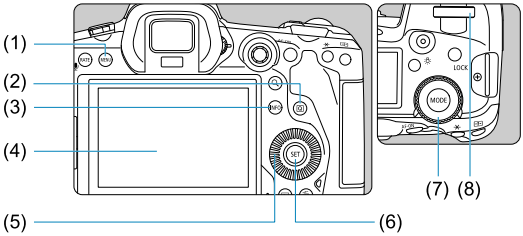


〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。



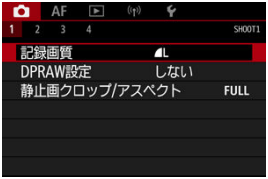
メニュー機能の操作と設定

- [A+] モードのメニュー画面
- [Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モードのメニュー画面
- メニュー機能の設定操作
- メニュー項目の灰色表示



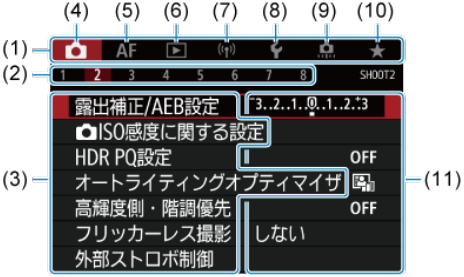
(1)	〈MENU〉ボタン
(2)	〈Q〉ボタン
(3)	〈INFO〉ボタン
(4)	モニター
(5)	〈◎〉サブ電子ダイヤル1
(6)	〈SET〉ボタン
(7)	〈 〉サブ電子ダイヤル2
(8)	〈 〉メイン電子ダイヤル

［A+］モードのメニュー画面



- ［A+］モードのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モードのメニュー画面



(1)	メインタブ
(2)	サブタブ
(3)	メニュー項目
(4)	📷：撮影
(5)	**AF**：AF
(6)	▶：再生
(7)	(ᵎ)：無線通信機能
(8)	🔧：機能設定
(9)	📷：カスタム機能
(10)	★：マイメニュー
(11)	設定内容

メニュー機能の設定操作

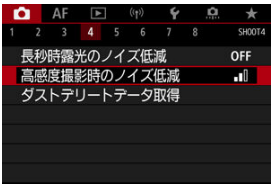
1. メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューが表示されます。

2. タブを選ぶ

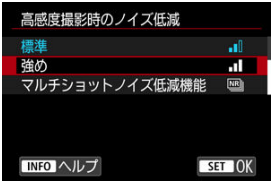
- 〈 〉を回すと、メインタブ（系統）が切り換わります。〈Q〉ボタンを押して切り換えることもできます。
- 〈 〉を回してサブタブを選びます。

3. 項目を選ぶ



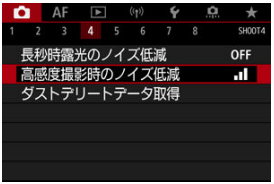
- 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4. 内容を選ぶ



- 〈◎〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5. 内容を設定する



- 〈SET〉を押すと設定されます。

6. 設定を終了する

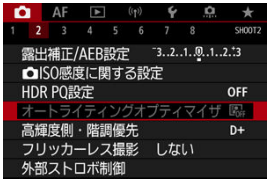
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

参考

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈✲〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。

灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

注意

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

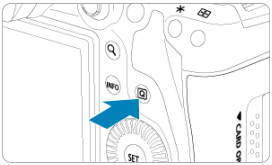
参考

- ［**：カメラの初期化**］の［**基本設定**］を選ぶと、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（）。

クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。

1. 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）



2. 項目を選び、内容を設定する

- 〈◎〉を回すか、〈✲〉の上下を押して項目を選びます。
- 〈⚙〉または〈⚙〉を回すか、〈✲〉の左右を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

- 上記の画面が表示されているときは、〈✲〉の上下左右を押して項目を選びます。
- 〈⚙〉または〈◎〉、〈⚙〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

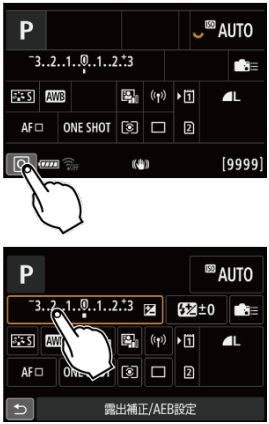
画面にタッチして操作する

タッチ

ドラッグ

タッチ

画面例（クイック設定）



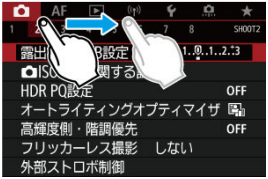
- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［↩］をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- ［**：電子音**］を［**入**］に設定すると、タッチ操作時に電子音を鳴らすことができます（）。
- ［**：タッチ操作**］でタッチしたときの反応を設定することができます（）。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

撮影モード

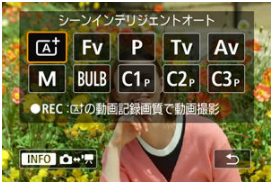
この章では、撮影モードについて説明しています。

- A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）
- A+：全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）
- Fv：フレキシブルAE撮影
- P：プログラムAE撮影
- Tv：シャッター優先AE
- Av：絞り優先AE
- M：マニュアル露出
- BULB：長時間露光（バルブ）撮影

A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）

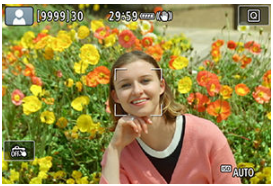
［A+］はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（）。

1. 撮影モードを［A+］にする



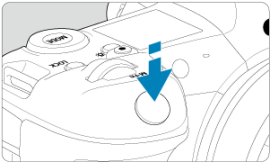
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉を回して［A+］を選びます。

2. カメラを被写体（写したいもの）に向ける



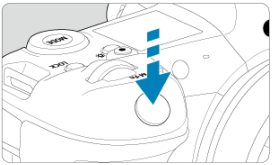
- 撮影条件により、被写体にAFフレームが表示されます。
- 画面にAFフレームが表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ［**AF**：**コンティニュアスAF**］［**しない**］設定時は、画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます。（タッチAF）
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（）が自動投光されます。
- 止まっている被写体のときは、 ピントが合うと、AFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。（＝ワンショットAF）
- 動いている被写体のときは、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。電子音は鳴りません。（＝サーボAF）

4. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 画面に撮影した画像が約2秒間表示されます。

注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

参考

- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。なお、撮影中にAF動作の切り換えは行われません。
- ［A+］モードで、自然や屋外シーン、またはタ景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］にして、［⊡A］以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（☞）。

ブレの少ない画像を撮影するには

- （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
- リモートスイッチ（別売／）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／）などの使用をおすすめします。

?こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯する）**
  明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **複数のAFフレームが同時に表示される**
  複数のAFフレームが同時に表示されたときは、表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体にAFフレームが表示されているときは、そのまま撮影してください。

- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**
  レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈AF〉（自動ピント合わせ）にしてください。

- **シャッタースピード（数字）が点滅している**
  光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL／EXスピードライト（別売／）を使用して撮影することをおすすめします。

- **外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった**
  レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

A+：全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

- 構図を変えて撮影する
- 動いているものを撮影する
- シーン判別アイコン

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。
止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

シャッターボタンを半押しし、青いAFフレームが表示されたときは、カメラが被写体の動きを認識し、サーボAFでピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン

カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、シーン判別アイコンを参照してください。

Fv：フレキシブルAE撮影

「①シャッタースピード」「②絞り数値」「③ISO感度」、①②③それぞれの「オート（自動設定）」と「任意設定」、および「④露出補正」を自由に組み合わせて撮影することができます。①②③④を任意にコントロールすることで、［Fv］モード1つで［P］［Tv］［Av］［M］の4つのモードに相当する撮影を行うことができます。
＊［Fv］はFlexible value（フレキシブルバリュー）の略です。

1. 撮影モードを［Fv］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［Fv］を選びます。

2. シャッタースピード／絞り数値／ISO感度を設定する

- 〈 〉を回して、設定する項目を選びます。選択している項目の左側に［ ］が表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈 〉ボタンを押すと、［**AUTO**］に設定（リセット）されます。

3. 露出補正量を設定する

- 〈 〉を回して、露出レベル表示を選びます。露出レベル表示の左側に［ ］が表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈 〉ボタンを押すと、［**±0**］に設定（リセット）されます。

［Fv］モードの機能組み合わせ一覧

シャッタースピード	絞り数値	ISO感度	露出補正	撮影モード
［**AUTO**］	［**AUTO**］	［**AUTO**］	可能	［P］相当
		任意設定		
任意設定	［**AUTO**］	［**AUTO**］	可能	［Tv］相当
		任意設定		
［**AUTO**］	任意設定	［**AUTO**］	可能	［Av］相当
		任意設定		
任意設定	任意設定	［**AUTO**］	可能	［M］相当
		任意設定	—	

注意

- 数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）、または露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで、露出調整を行ってください。
  ［Fv］モード時に［Av］［P］モード相当の状態で、［ **：外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を［**1/250-30秒自動**］（または［**1/200-30秒自動**］）に設定しても、（暗い場所で）スローシンクロ撮影は行われません。

参考

- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が［**AUTO**］に設定されているときは、各項目の数字の下にアンダーラインが表示されます。
- 手順2または3で〈🗑〉ボタンを長押しすると、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度をすべて［**AUTO**］、露出補正量を［**±0**］に設定することができます。

P：プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。
＊［P］はProgram（プログラム）の略です。
＊AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1. 撮影モードを［P］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［P］を選びます。

2. ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うとAFフレームが緑色で表示されます（ワンショットAF時）。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まります。

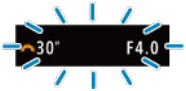
3. 表示を確認する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

注意



- シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

- シャッタースピードの「**1/8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

参考

[P] と [A+] モードの違いについて

- [A+] モードのときは失敗を防ぐために、AF方式や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して [P] モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF方式や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- [P] モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで〈 〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッター優先AE

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

＊［Tv］はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いスピード：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いスピード：1/2000秒）

---

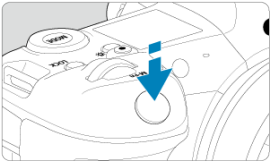
1. 撮影モードを［Tv］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［Tv］を選びます。

2. シャッタースピードを設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

注意

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。

- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

参考

シャッタースピードの表示について

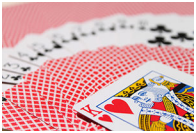
- 例えば「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。
- 表示パネルに表示される「**8000**」から「**4**」までのシャッタースピードは、分数の分母を表しています。

Av：絞り優先AE

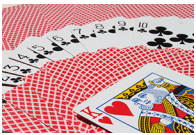
ピントの合う範囲を確認する

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊［Av］はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

---

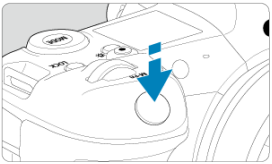
1. 撮影モードを［Av］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［Av］を選びます。

2. 絞り数値を設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。

4. 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

注意

- シャッタースピードの「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

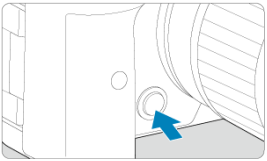
- シャッタースピードの「**1/8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**F00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

参考

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなります。
- 映像を見ながら、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M：マニュアル露出

ISOオート設定時の露出補正

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。
＊［M］はManual（マニュアル）の略です。

1. 撮影モードを［M］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［M］を選びます。

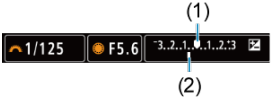
2. ISO感度を設定する（ ）

- 〈 〉を回して設定します。
- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます（ ）。

3. シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードは〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク［▌］で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

5. 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を［**AUTO**］に設定したときは、以下の方法で露出補正（）を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- ［：**露出補正/AEB設定**］
- クイック設定画面
- シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す

注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

参考

- カメラの設定が［M］モード＋ISOオート＋［⊙］（評価測光）で、［📷：**合焦後AEロックする測光モード**］の設定が初期状態のときは（⊘）、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定（ロック）されます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- ［P］［Tv］［Av］モードで露出補正（⊘）を行っていたときは、［M］モード＋ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に［📷：**露出設定ステップ**］を［**1/2段**］に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

BULB：長時間露光（バルブ）撮影

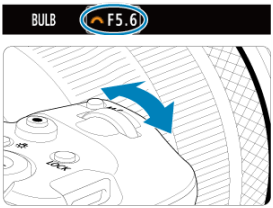
バルブタイマー 応用

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. 撮影モードを［BULB］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［BULB］を選びます。

2. 絞り数値を設定する



- 〈 〉を回して設定します。

3. 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。
- セルフタイマーを併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。

参考

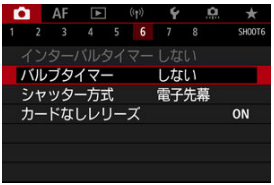
- ［**：長秒時露光のノイズ低減**］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。
- リモートスイッチ TC-80N3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（）。
- リモートコントローラー RC-6（別売）、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのレリーズ（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

バルブタイマー

応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。
なお、バルブタイマーは、［BULB］（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。

1. ［：バルブタイマー］を選ぶ



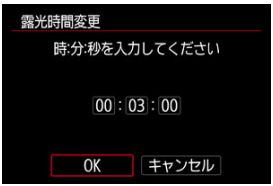
2. ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈SET〉を押して［⊕］の状態にします。
- 数値を設定し、〈SET〉を押します（［□］の状態に戻ります）。

4. ［OK］を選ぶ



5. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、設定した時間、バルブ撮影が行われます。
- バルブタイマー撮影中は、表示パネルに［TIMER］と露光時間が表示されます。
- 設定を解除するときは、手順2で［**しない**］を選びます。

注意

- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します（設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません）。
- 撮影モードを変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が［**しない**］になります）。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

- 静止画撮影
- 動画撮影

静止画撮影

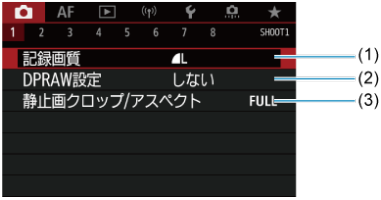
静止画撮影を行うときは、〈MODE〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押して、[**撮影モード**] の画面を図の状態にしてください。
タイトル右の 応用 は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。

- メニュー目次：静止画撮影
- 記録画質
- DPRAW設定
- 静止画クロップ／アスペクト
- 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用
- 静止画のISO感度を設定 応用
- HDR PQ設定 応用
- オートライティングオプティマイザ 応用
- 高輝度側・階調優先 応用
- フリッカーレス撮影 応用
- 外部ストロボ撮影 応用
- ストロボ機能の設定 応用
- ホワイトバランス 応用
- ホワイトバランスの補正 応用
- 色空間 応用
- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用
- 明瞭度 応用
- レンズ光学補正 応用
- 長秒時露光のノイズ低減 応用
- 高感度撮影時のノイズ低減 応用
- ダストデリートデータ取得 応用
- 多重露出撮影 応用
- HDRモード 応用

- フォーカスBKT撮影 応用
- インターバルタイマー撮影
- シャッター方式 応用
- カードなしレリーズ
- 手ブレ補正（IS機能）設定
- タッチシャッターで撮影する
- 撮影画像の確認
- 高速表示 応用
- 測光タイマー 応用
- 露出Simulation 応用
- 撮影情報表示設定
- ファインダー表示形式
- 撮影画面表示設定
- 測光モードの選択 応用
- 自分の好みに露出を補正する 応用
- 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用
- 静止画撮影全般

メニュー目次：静止画撮影

● 撮影1

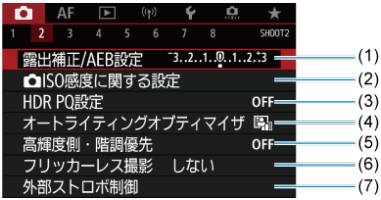


（1）記録画質

（2）DPRAW設定

（3）静止画クロップ/アスペクト

● 撮影2



（1）露出補正/AEB設定 応用

（2）ISO感度に関する設定 応用

（3）HDR PQ設定 応用

（4）オートライティングオプティマイザ 応用

（5）高輝度側・階調優先 応用

（6）フリッカーレス撮影 応用

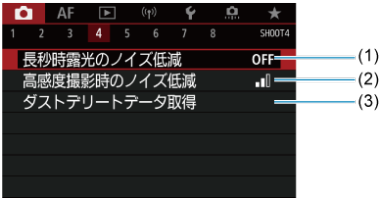
（7）外部ストロボ制御 応用

撮影3

（1）ホワイトバランス 応用
（2）MWB画像選択 応用
（3）WB補正/BKT設定 応用
（4）色空間 応用
（5）ピクチャースタイル
- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用

（6）明瞭度 応用
（7）レンズ光学補正 応用

撮影4



（1）長秒時露光のノイズ低減 応用
（2）高感度撮影時のノイズ低減 応用
（3）ダストデリートデータ取得 応用

● 撮影5

（1）多重露出 応用

（2）HDRモード 応用

（3）フォーカスBKT撮影 応用

● 撮影6

（1）インターバルタイマー

（2）バルブタイマー 応用

（3）シャッター方式 応用

（4）カードなしレリーズ

撮影7

（1）手ブレ補正（IS機能）設定

（2）タッチシャッター

（3）撮影画像の確認

（4）高速表示 応用

（5）測光タイマー 応用

（6）露出Simulation 応用

（7）撮影情報表示設定

撮影8

（1）ファインダー表示形式

（2）撮影画面表示設定

注意

- 手ブレ補正機能が搭載されたレンズ装着時、撮影モードが［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］［BULB］のときは、［：**手ブレ補正（IS機能）設定**］は表示されません。

［A+］モードのときは、以下の画面が表示されます。

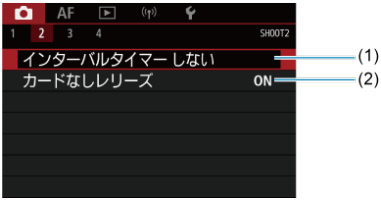
● 撮影1

（1）記録画質

（2）DPRAW設定

（3）静止画クロップ/アスペクト

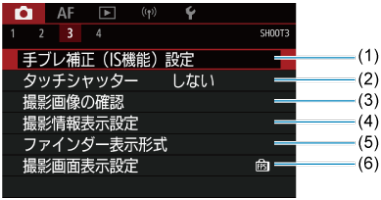
● 撮影2



（1）インターバルタイマー

（2）カードなしレリーズ

撮影3



（1）手ブレ補正（IS機能）設定
（2）タッチシャッター
（3）撮影画像の確認
（4）撮影情報表示設定
（5）ファインダー表示形式
（6）撮影画面表示設定

撮影4

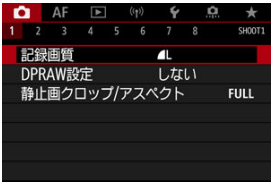
（1）動画記録画質
（2）録音

記録画質

- RAW画像
- 記録画質を選ぶときの目安
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像、HEIF画像の記録画質は、◢L/▟L/◢M/▟M/◢S1/▟S1/S2、RAW画像の記録画質は、RAW/CRAWのいずれかを設定することができます。

1. ［📷：記録画質］を選ぶ



- ［🔧：**記録機能とカード・フォルダ選択**］の［📷**記録機能**］の設定によって、表示される画面が異なります。

2. 記録画質を設定する

標準／カード自動切り換え／同一書き込み

- RAW画像は〈 〉、JPEG画像は〈 〉を回してサイズを選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

振り分け

- ［**：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは、〈 〉を回して［1］または［2］を選び、〈SET〉を押します。なお、RAW画像のときは、RAWとCRAWを振り分けることはできません。

- 表示された画面で記録画質を選び、〈SET〉を押します。

参考

- HEIF画像は、［📷：**HDR PQ設定**］の［**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます（✎）。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像の設定を両方［**—**］にしたときは、◢Lに設定されます。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、HEIF：.HIF、RAW：.CR3）で記録されます。
- S2は◢（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、HEIF（ヒーフ）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、CRAWから選ぶことができます。なお、CRAWはRAWに比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。
RAW画像は、[▶：**RAW現像（RAW & DPRAW）**] で現像処理を行い（🔗）、JPEG画像またはHEIF画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG/HEIF画像を何枚でも作ることができます。
また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（🔗）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）

撮影画面の左上、またはファインダー内の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

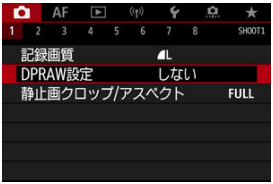
参考

- 連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、モニターに［**BUSY**］が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

DPRAW設定

DPRAW機能を設定してRAW、CRAW画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。
カメラでDPRAW画像の現像処理を行う際は、「ポートレートリライティング」（）「背景明瞭度」（）の補正を行うことができます。
また、EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。
なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

1. **［：DPRAW設定］を選ぶ**



2. **［する］を選ぶ**

3. **記録画質をRAWまたはCRAWに設定する**

- 記録画質をRAW、RAW＋JPEG、RAW＋HEIF、CRAW、CRAW＋JPEG、CRAW＋HEIFのいずれかに設定します。

4. **撮影する**

- デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

注意

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります（）。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ドライブモードの［］［］は選択できません。［］［］に設定されているときは、［］の設定で撮影されます。
- RAW画像、RAW＋JPEG画像またはRAW＋HEIF画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- 多重露出、HDR撮影、電子シャッター、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

参考

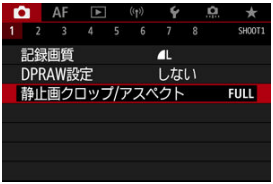
DPRAW機能の調整量・補正効果について

- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦／横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- 「ポートレートリライティング」、「背景明瞭度」の調整量、補正効果についてはポートレートリライティング、背景明瞭度を参照してください。

静止画クロップ／アスペクト

RFレンズ、EFレンズ使用時は、通常、撮像素子の約36.0×24.0mmの範囲が画像として記録されますが（フルサイズ撮影）、撮影画面中央の約1.6倍（APS-Cサイズ相当）の範囲のみを記録して、望遠レンズで撮影したような写真を撮影したり（クロップ撮影）、撮影画像の使用用途に応じて、あらかじめ画面のアスペクト（縦横）比を設定して撮影することができます。EF-Sレンズ使用時は、撮影画面中央の約1.6倍（APS-Cサイズ相当）の範囲のみが、アスペクト（縦横）比3：2で記録されます。

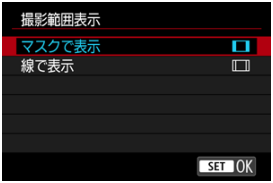
1. ［📷：静止画クロップ/アスペクト］を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- ［**フルサイズ**］［**1.6倍（クロップ）**］［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］から選びます。
- EF-Sレンズ使用時は、［**1.6倍（クロップ）**］に自動設定されます（選択できません）。
- 撮影範囲の表示方法を変更しないときは、〈SET〉を押して手順4に進みます。

3. 撮影範囲の表示方法を選ぶ



- 手順2の画面が表示された状態で〈INFO〉ボタンを押します。
- 表示方法を選び〈SET〉を押します。

注意

- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、記録画質◢M/▟M/◢S1/▟S1は選択できません。
- 記録画質を◢M/▟M/◢S1/▟S1に設定した状態で、［**1.6倍（クロップ）**］を行ったときは、順に◢L/▟L/S2/S2で記録されます。
- アスペクト比が［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］に設定された状態で、EF-Sレンズを装着したときは、設定が自動的に解除され、［**1.6倍（クロップ）**］、アスペクト比3：2での撮影になります。

4. 撮影する

設定例

FULL設定時

1.6設定時／EF-Sレンズ使用時

1:1・設定時

4:3・設定時

- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、約1.6倍に拡大された映像が表示されます。
- ［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］設定時は、黒くマスクされた部分の内側、または線の内側の範囲が画像として記録されます。

注意

- **［1.6倍（クロップ）］設定時、およびEF-Sレンズ使用時に、RAW画像を撮影したときは、撮影範囲のみ記録されます（クロップ領域外は記録されません）。**
- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびEF-Sレンズ使用時は［**撮影範囲表示**］の設定を行っても、表示は変化しません。
- ［**フルサイズ**］以外に設定されているときは、［**：トリミング情報の付加**］は設定できません。
- 外部ストロボ使用時に［**：静止画クロップ/アスペクト**］の設定に応じたストロボの自動ズーム（照射角の自動調整）は行われません。

参考

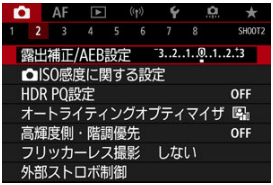
- クロップ／アスペクト撮影時の記録画素数については、静止画・記録画素数を参照してください。
- クロップ撮影時、アスペクト撮影時の視野率は、上下／左右とも約100%です。
- アスペクト設定時に、RAW画像を撮影したときは、フルサイズで記録され、アスペクト情報が画像に付加されます。RAW画像を再生したときは、撮影範囲が線で表示されます。ただし、スライドショーで再生を行ったときは、撮影範囲だけが表示されます。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

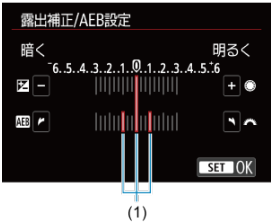
応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。
＊AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1. ［📷：露出補正/AEB設定］を選ぶ



2. AEBレベルを設定する



- 〈◎〉を回してAEBレベル（1）を設定します。〈◎〉を回すと、露出補正量を設定することができます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。
- メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

3. 撮影する

標準露出

マイナス補正

プラス補正

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

注意

- [: **オートライティングオプティマイザ**]（ ）が［**しない**］以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

参考

- AEB撮影中は、画面左下の［ ］が点滅します。
- ドライブモードが［ ］のときは、3回撮影してください。［ ］［ ］［ ］のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。［ ］［ ］のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、フォーカスBKT撮影、電子シャッター設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

静止画のISO感度を設定

応用

ISO感度の手動設定範囲

ISOオート時の自動設定範囲

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。［A+］モードのときは、ISO感度が自動設定されます。
なお、動画撮影時のISO感度については、動画撮影時のISO感度を参照してください。

1. ISO感度を設定する

- 画面に映像が表示された状態で、〈 〉を回して設定します。
- ISO100～51200の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- ［**AUTO**］を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。
- ISOオートの範囲については、静止画撮影のISO感度（推奨露光指数）を参照してください。

ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

参考

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押してISO感度の項目で設定することもできます。
- ［**：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度**］の画面で設定することもできます。
- ［**：ISO感度に関する設定**］の［**ISO感度の範囲**］で、ISO感度の手動設定範囲をL（ISO50相当）からH（ISO102400相当）まで拡張することができます（）。

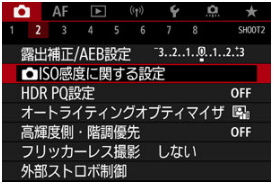
注意

- H（102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L（ISO50相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- ［**：高輝度側・階調優先**］を［**する**］［**強**］に設定すると（）、L（ISO50相当）、ISO100/125/160、H（102400相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

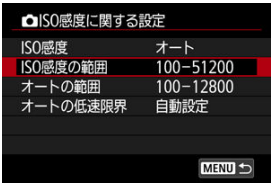
ISO感度の手動設定範囲

手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～51200、上限値はISO100～H（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。

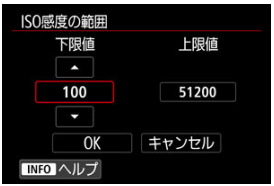
1. ［📷：📷ISO感度に関する設定］を選ぶ



2. ［ISO感度の範囲］を選ぶ

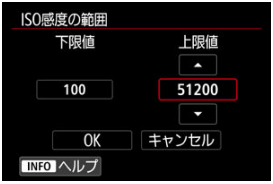


3. ［下限値］を設定する



- ［**下限値**］の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

4. ［上限値］を設定する



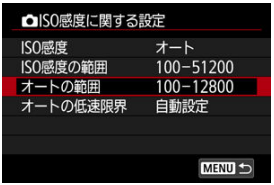
- ［**上限値**］の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

5. ［OK］を選ぶ

ISOオート時の自動設定範囲

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～51200の範囲で設定することができます。下限値はISO100～25600の範囲、上限値はISO200～51200の範囲で、1段ステップで設定することができます。

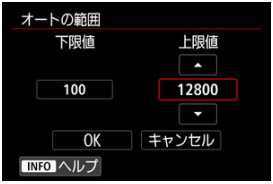
1. ［オートの範囲］を選ぶ



2. ［下限値］を設定する

- ［**下限値**］の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

3. ［上限値］を設定する



- ［**上限値**］の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

4. ［OK］を選ぶ

参考

- ［**下限値**］［**上限値**］は、ISO感度でセイフティシフト（）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

ISOオート設定時に、シャッタースピードが自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。
この機能は［P］［Av］モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

1. ［オートの低速限界］を選ぶ

2. 低速限界を設定する

自動設定

- ［**自動設定**］を選んだときは、〈 〉を回して標準設定からの度合い（**遅め／速め**）を設定し、〈SET〉を押します。

手動設定

- ［**手動設定**］を選んだときは、〈 〉を回してシャッタースピードを選び、〈SET〉を押します。

注意

- ［**オートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**オートの低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時は機能しません。

参考

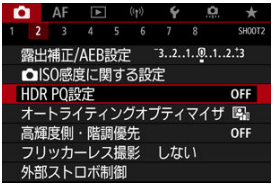
- ［**自動設定(標準)**］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、［**遅め**］から［**速め**］の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

HDR PQ設定

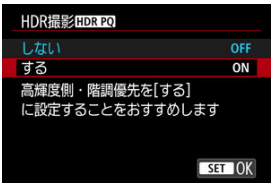
応用

HDR PQのPQはHDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブのことを指します。
HDR PQ設定は、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ規格に準拠したHDR画像を生成します。（実際に表示される画像は、モニター性能に依存します。）
撮影結果は、HEIF画像またはRAW画像で記録されます。
＊「HDR」はHigh Dynamic Rangeの略です。
＊「PQ」はPerceptual Quantizationの略です。

1. ［📷：HDR PQ設定］を選ぶ

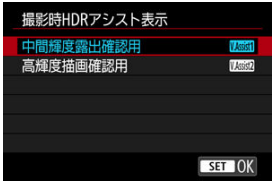


2. ［HDR撮影HDR PQ］を設定する



● ［**する**］を選びます。

3. ［撮影時HDRアシスト表示］を設定する

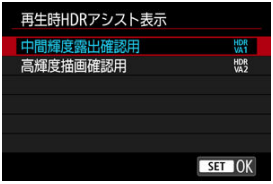


- HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換した画像がモニターに表示されます。
- ［**中間輝度露出確認用**］または［**高輝度描画確認用**］を選びます。

- **［V.Assist1］中間輝度露出確認用**
  中間輝度の被写体（人物など）の露出を優先した表示を確認することができます。

- **［V.Assist2］高輝度描画確認用**
  高輝度の被写体（空など）の階調を優先した表示を確認することができます。

4. ［再生時HDRアシスト表示］を設定する



- 再生時、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換した画像がモニターに表示されます。
- ［**中間輝度露出確認用**］または［**高輝度描画確認用**］を選びます。

- **［HDR VA1］中間輝度露出確認用**
  中間輝度の被写体（人物など）の露出を優先した表示を確認することができます。

- **［HDR VA2］高輝度描画確認用**
  高輝度の被写体（空など）の階調を優先した表示を確認することができます。

5. 記録画質を設定する

- 記録画質を参照してください。

参考

- ［**撮影時HDRアシスト表示**］の設定は、撮影直後にモニターに表示される画像にも反映されます。

注意

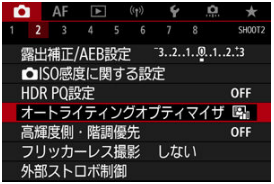
- 拡張ISO感度（L、H）でHDR撮影を行うことはできません。
- シーンによっては、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- ［**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］に設定したときのヒストグラムはアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- ［**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］に設定すると、［**：撮影画面表示設定**］は設定できません。［**なめらかさ優先**］に設定されます。
- ［**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］にして撮影した画像を、HDR対応ディスプレイで再生するときは、［▶：**HDMI HDR出力**］を［**入**］にしてください（）。なお、HDR対応ディスプレイでのライブビューの表示は、［**HDMI HDR出力**］の設定にかかわらず、HDR画像で行われます。

オートライティングオプティマイザ

応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。
[A+] モードのときは、[**標準**] に自動設定されます。

1. [: オートライティングオプティマイザ] を選ぶ



2. 補正内容を設定する

注意

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、[**弱め**] または [**しない**] に設定して撮影してください。
- [**しない**] 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**] に設定してください。

参考

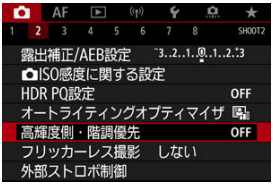
- RAWまたはCRAWで撮影した画像は、［▶：**RAW現像（RAW & DPRAW）**］で、顔ライティング補正をすることができます（）。
- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、［M］［BULB］モードでも［📷：**オートライティングオプティマイザ**］が設定できるようになります。

高輝度側・階調優先

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. ［📷：高輝度側・階調優先］を選ぶ



2. 内容を設定して撮影する

- ［**する**］を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- ［**強**］設定時は、撮影シーンによって［**する**］設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

注意

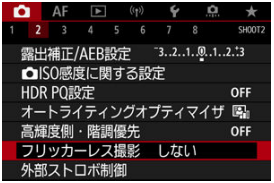
- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- ［**強**］に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

フリッカーレス撮影

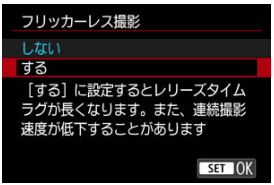
応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。フリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. ［📷：フリッカーレス撮影］を選ぶ



2. ［する］を選ぶ



3. 撮影する

注意

- ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- ［Fv］［P］［Av］モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、［Fv］［M］［Tv］モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- ［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 光源の変化などにより、画面にちらつきが発生したときは、〈Q〉ボタンを押して、［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈INFO〉ボタンを押して、フリッカー検知動作を行ってください。
- ［A+］モードのときは、フリッカーの低減処理は行われません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

外部ストロボ撮影

応用

EOS用EL／EXスピードライト

EL／EX以外のキヤノン製スピードライト

汎用ストロボ

EOS用EL／EXスピードライト

このカメラは、EL／EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL／EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押して、〈◎〉を回してストロボ調光補正の項目を選ぶと、〈⚡〉を回して調光補正量を設定することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈✱〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

注意

- ［📷：**オートライティングオプティマイザ**］（⚙）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- ストロボを使用して撮影を行うときは、［📷：**シャッター方式**］を［**電子シャッター**］以外に設定してください（⚙）。

参考

- 暗い場所でAFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。
- クイック設定（）、または［：**外部ストロボ制御**］の［**ストロボ機能設定**］（）で調光補正を行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源スイッチと、ストロボの電源を連動させる機能に対応しています。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

EL／EX以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
  カメラの撮影モードを［M］、または［Av］に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

● 同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/250秒以下（[📷：**シャッター方式**] を［**メカシャッター**］に設定したときは1/200秒以下）で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

注意

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

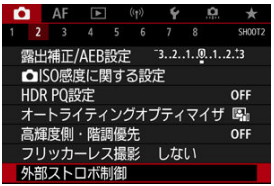
ストロボ機能の設定

応用

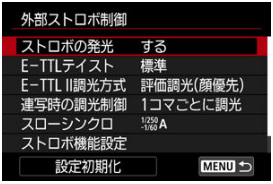
- ストロボの発光
- E-TTLテイスト
- E-TTL II 調光方式
- 連写時の調光制御
- スローシンクロ
- ストロボ機能設定
- ストロボカスタム機能設定
- ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

ストロボ機能設定に対応したEL／EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。
なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

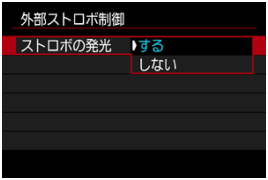
1. ［：外部ストロボ制御］を選ぶ



2. 項目を選ぶ

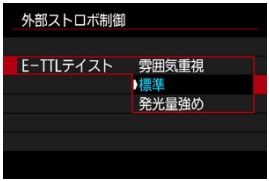


ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

E-TTLテイスト



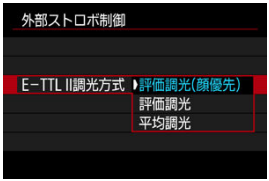
好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テイスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- ［**雰囲気重視**］は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な雰囲気を重視したライティングを想定したテイストです。とくに、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。［**Av**］または［**P**］モードに設定の上、［**📷：外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を［**1/250-30秒自動**］（または［**1/200-30秒自動**］）に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- ［**発光量強め**］は、ストロボ光主体のテイストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

注意

- ［**雰囲気重視**］は暗いシーンで効果が得られますが、シーンによっては［**標準**］設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

E-TTL II 調光方式



- ［**評価調光(顔優先)**］に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
  高速連続撮影時の連続撮影速度が、［**評価調光**］または［**平均調光**］よりも低下します。
- ［**評価調光**］に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- ［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

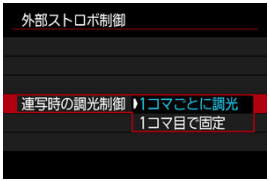
参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

注意

- ［**評価調光(顔優先)**］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

連写時の調光制御



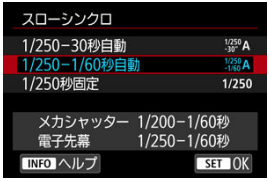
［**1コマごとに調光**］に設定すると、撮影するごとに調光を行います。［**1コマ目で固定**］に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。

スローシンクロ

［**Av**］または［**P**］モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。なお、ストロボ同調速度の上限値は、［**📷：シャッター方式**］の設定により変わります。［**電子先幕**］設定時は1/250秒、［**メカシャッター**］設定時は1/200秒になります。



- **1/250 −30″ A：1/250-30秒自動（1/200 −30″ A：1/200-30秒自動）**

  明るさに応じてシャッタースピードが1/250～30秒（または1/200～30秒）の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

- **1/250 −1/60 A：1/250-1/60秒自動（1/200 −1/60 A：1/200-1/60秒自動）**

  暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

- **1/250：1/250秒固定（1/200：1/200秒固定）**

  シャッタースピードが1/250秒（または1/200秒）に固定されるため、［**1/250-1/60秒自動**］（または［**1/200-1/60秒自動**］）よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/250-1/60秒自動**］（または［**1/200-1/60秒自動**］）よりも被写体の背景が暗くなります。

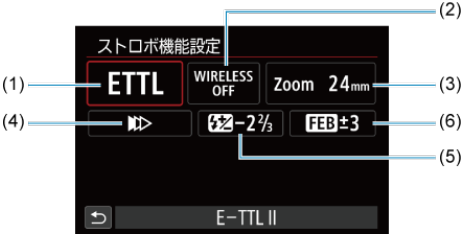
注意

- ［**1/250秒固定**］（または［**1/200秒固定**］）設定時は、［**Av**］または［**P**］モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



(1)	発光モード
(2)	ワイヤレス機能／ 光量比制御（RATIO）機能
(3)	ズーム（照射角）
(4)	シンクロ設定
(5)	調光補正
(6)	FEB

注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

- ［**E-TTL II**］は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL／EXスピードライトの標準的なモードです。
- ［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。
- ［**CSP**］（連写優先モード）は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

注意

- ［Fv］［Tv］［M］モードで、［**CSP**］の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正（）を行ってください。

参考

- ［**CSP**］設定時は、ISO感度が自動的に［**オート**］に設定されます。

ワイヤレス機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

光量比制御機能（RATIO）

マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム（照射角）

ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。
［**後幕シンクロ**］に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。
［**ハイスピード**］に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、［**Av**］モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/60秒以下の遅い速度に設定してください。1/80秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

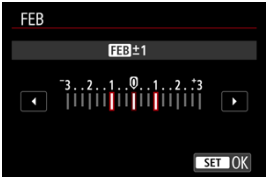
調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

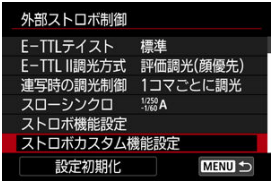


FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

1. ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ



2. 機能を設定する

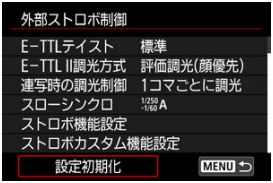
- 番号を選びます。
- 項目を選びます。

注意

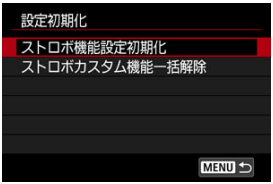
- EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［**TTL**］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- ［📷：**外部ストロボ制御**］の画面から、外部ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

1. ［設定初期化］を選ぶ



2. 初期化する内容を選ぶ



- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選びます。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

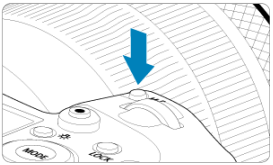
ホワイトバランス

応用

- ホワイトバランスについて
- [AWB] オートホワイトバランス
- [●] マニュアルホワイトバランス 応用
- [K] 色温度

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、または［AWBW］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。
［A+］モードのときは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（8）



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2. ホワイトバランスの項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して、ホワイトバランスの項目を選びます。

3. ホワイトバランスを選ぶ

- 〈 〉を回して選びます。

参考

- [AWB] [AWBW] の設定方法については、[AWB] オートホワイトバランスを参照してください。
- 色温度を任意設定するときは、[**: ホワイトバランス**] で [K] を選び、〈 〉を回して設定します。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先）	3000～7000
AWBW	オート（ホワイト優先）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
FLUO	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ使用	自動設定*
🎨	マニュアル	2000～10000
K	色温度	2500～10000

＊色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

[AWB] オートホワイトバランス

[AWB]（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。
[AWBW]（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. [: ホワイトバランス] を選ぶ

2. [AWB] を選ぶ

- [AWB] を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ

注意

［AWBW］（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

[ ] マニュアルホワイトバランス

応用

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1. 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2. [: MWB画像選択] を選ぶ

3. ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を〈◎〉を回して選び、〈SET〉を押します。
- ［**OK**］を選ぶとデータが取り込まれます。

4. ［📷：ホワイトバランス］を選ぶ

5. マニュアルWBを選ぶ

- ［⊡］を選びます。

注意

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。

参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

[K] 色温度

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1. [: ホワイトバランス] を選ぶ

2. 色温度を設定する

- [K] を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

参考

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を [K] に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

ホワイトバランスの補正

応用

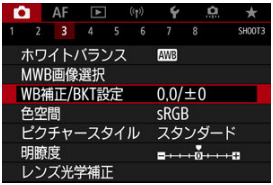
ホワイトバランス補正

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

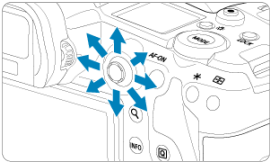
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

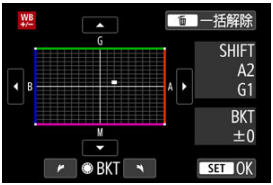
1. **［ : WB補正/BKT設定］を選ぶ**



2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈✻〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の［**SHIFT**］に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

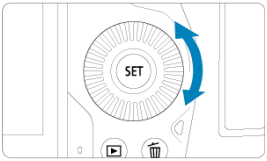
参考

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

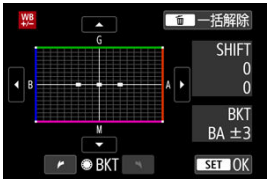
ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

補正幅を設定する



- ホワイトバランス補正の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。

B/A方向±3段のとき



- 画面右の［**BKT**］にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

注意

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

参考

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WBブラケティング時の記録順序（ ）と撮影枚数（ ）を変更することができます。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

色空間

応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。
［A+］モードのときは、［**sRGB**］に自動設定されます。

1. **［📷：色空間］を選ぶ**

2. **色空間を設定する**

- ［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0（Exif 2.21以上）対応プリンターなどの使用をおすすめします。

参考

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

ピクチャースタイルの選択

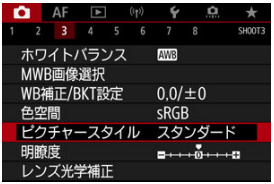
応用

各スタイルの画像特性

記号の意味

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。
[A+] モードのときは、[SCN-A]（オート）に自動設定されます。

1. [: ピクチャースタイル] を選ぶ



2. スタイルを選ぶ

各スタイルの画像特性

- **オート**
  撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

  参考

  - ［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

- **スタンダード**
  鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **ポートレート**
  肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。
  設定内容と効果の［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

- **風景**
  青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

- **ディテール重視**
  被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

- **ニュートラル**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **忠実設定**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **モノクロ**
  白黒写真になります。

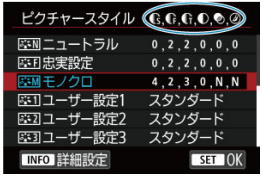
  注意

  - ［**モノクロ**］の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

- **ユーザー設定1～3**
  ［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（）。登録されていないときは、［**スタンダード**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］や、［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。



	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

注意

- 動画撮影時、［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、「*, *」と表示されます。また、動画撮影時は［**細かさ**］［**しきい値**］は設定できません。

ピクチャースタイルの調整

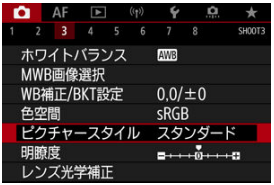
応用

設定内容と効果

モノクロの調整

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。［**モノクロ**］の調整については、モノクロの調整を参照してください。

1. ［ : ピクチャースタイル］を選ぶ



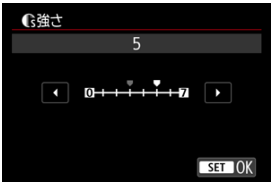
2. スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ

- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- 設定内容と効果については、設定内容と効果を参照してください。

4. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

参考

- 動画撮影時は［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

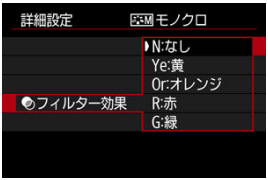
設定内容と効果

	シャープネス			
		強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
		細かさ＊1	1：細かい	5：粗い
		しきい値＊2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

＊1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。
＊2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

モノクロの調整

フィルター効果



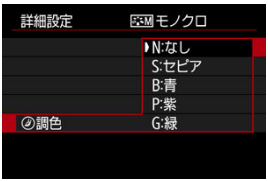
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

参考

- ［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

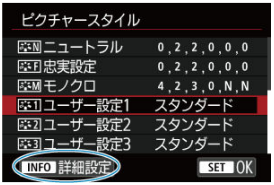
ピクチャースタイルの登録

応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

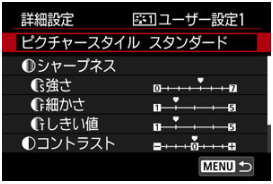
1. ［：ピクチャースタイル］を選ぶ

2. ［ユーザー設定］を選ぶ



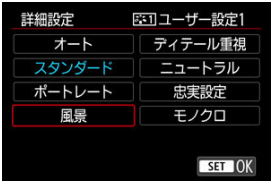
- ［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 〈SET〉を押す



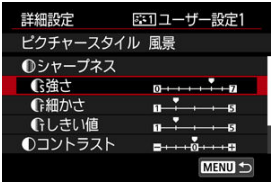
- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4. 基本にするスタイルを選ぶ



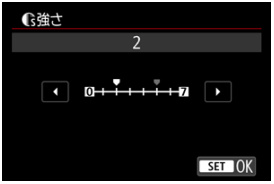
- 基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5. 項目を選ぶ

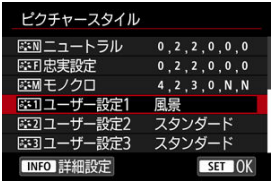


- 項目を選び、〈SET〉を押します。

6. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 詳しくは、ピクチャースタイルの調整を参照してください。



- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ［**ユーザー設定＊**］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

注意

- ［**ユーザー設定＊**］にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- ［**：カメラの初期化**］で［**基本設定**］を選ぶと、［**ユーザー設定＊**］に設定したスタイルと内容が初期化されます。

参考

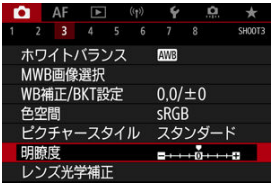
- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した［**ユーザー設定＊**］を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

明瞭度

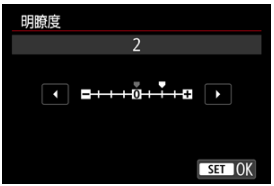
応用

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. ［：明瞭度］を選ぶ



2. 効果の度合いを設定する



注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、静止画撮影時のモニター映像には反映されません。

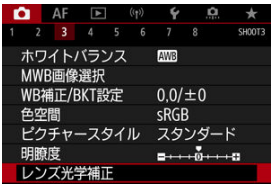
レンズ光学補正

応用

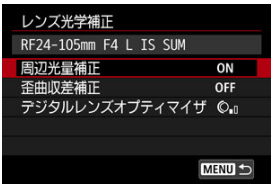
- 周辺光量補正
- 歪曲収差補正
- デジタルレンズオプティマイザ
- 色収差補正
- 回折補正

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[**レンズ光学補正**] の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

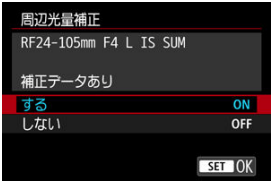
1. [: レンズ光学補正] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. 設定を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、［**補正データあり**］が表示されていることを確認します（ただし、［**回折補正**］設定時は、［**補正データあり**］は表示されません）。
- ［**補正データなし**］や［ ］が表示されたときは、デジタルレンズオプティマイザを参照してください。

注意

- 多重露出撮影との併用はできません。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、［A+］モードでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

注意

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 画像の周辺部分がトリミングされる量は、静止画と動画で異なることがあります。

参考

- RFレンズ使用時は、動画撮影時に歪曲収差補正を行うことができます。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。
なお、［**デジタルレンズオプティマイザ**］で［**補正データなし**］や［ ］が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- ［**強め**］設定時は、画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- ［**強め**］設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。
- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**しない**］に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、［**デジタルレンズオプティマイザ**］は表示されません（補正できません）。
- デジタルレンズオプティマイザの効果は、撮影時の画面では確認できません。

参考

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**標準**］または［**強め**］に設定したときは、［**色収差補正**］［**回折補正**］は表示されませんが、ともに［**する**］の設定で撮影されます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**標準**］または［**強め**］に設定したときは、［**色収差補正**］は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**標準**］または［**強め**］に設定したときは、［**回折補正**］は表示されません。

注意

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像に、後からレンズ光学補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、［**しない**］に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

参考

各補正共通事項

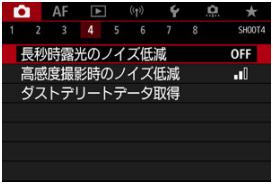
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

長秒時露光のノイズ低減

応用

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. ［📷：長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ



2. 低減内容を設定する

- **自動**
  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

- **する**
  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

注意

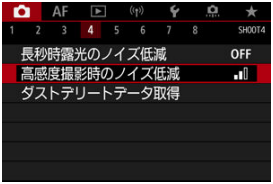
- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- ［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は、［**BUSY**］が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

高感度撮影時のノイズ低減

応用

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. ［📷：高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ



2. レベルを設定する

- **弱め、標準、強め**
  設定の強さに応じて、ノイズ低減処理が行われます。

- **マルチショットノイズ低減機能**
  ［**強め**］よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。
  なお、記録画質がRAW、RAW＋JPEGに設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。

注意

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は［**BUSY**］が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- バルブ撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、多重露出、HDRモード、フォーカスBKT撮影、HDR PQ、電子シャッター設定時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は、［**AF**：**AF補助光の投光**］の設定に応じて投光されます。
- 動画撮影時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません（表示されません）。
- 記録画質をRAW、RAW＋JPEGに設定すると自動的に［**標準**］に切り換わります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換、撮影モードを［A+］や［BULB］に変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に［**標準**］に切り換わります。

ダストデリートデータ取得

応用

事前準備

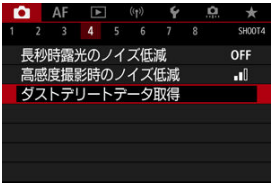
ダストデリートデータの付加

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

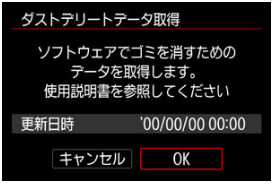
事前準備

- RFレンズ／EFレンズを使用する。
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

1. ［：ダストデリートデータ取得］を選ぶ

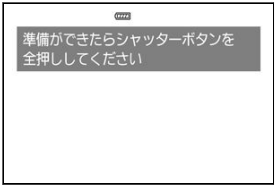


2. ［OK］を選ぶ

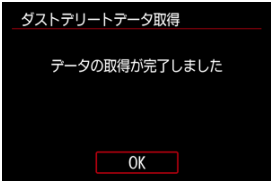


- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3. 真っ白な無地の被写体を撮影する



- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。事前準備の内容を確認し、［**OK**］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。
なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

注意

- EF-Sレンズ使用時、および［**：静止画クロップ/アスペクト**］が［**1.6倍（クロップ）**］に設定されているときは、ダストデリートデータの取得はできません。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］にした場合、ダストデリートデータは付加されません。
- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

多重露出撮影

応用

- カードに記録されているRAW画像に重ね合わせる
- 撮影途中の画像確認と画像消去

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。

1. ［📷：多重露出］を選ぶ

2. ［多重露出撮影］を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

- **機能・操作優先**
  画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

- **連続撮影優先**
  動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（⧉）」はできません。なお、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。

注意

- 使用するレンズによっては、多重露出ができないことがあります。

3. ［多重露出制御］を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び、〈SET〉を押します。

- **加算**
  撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

  重ねる枚数と露出補正量の目安
  「2枚：−1段」「3枚：−1.5段」「4枚：−2段」

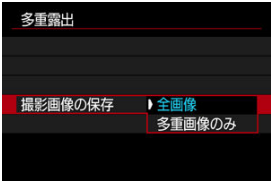
- **加算平均**
  ［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較(明)／比較(暗)**
  ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

4. ［重ねる枚数］を設定する

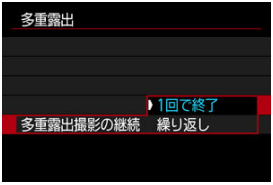
- 枚数を選び〈SET〉を押します。

5. 保存する画像を設定する



- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、［**全画像**］を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、［**多重画像のみ**］を選び、〈SET〉を押します。

6. ［多重露出撮影の継続］を設定する



- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

7. 1枚目を撮影する

- ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が表示されます。
- ［▭］が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、画面に表示される（1）で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（✎）。

8. 2枚目以降を撮影する

- そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO〉ボタンを（何回か）押すと、映像だけを表示することができます。
- 撮影時は、絞り込みボタン、または［⚙：**ボタン カスタマイズ**］で［**絞り込み**］機能を割り当てたボタンを押している間、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や露出などを確認することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

参考

- ［**機能・操作優先**］のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（✎）。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

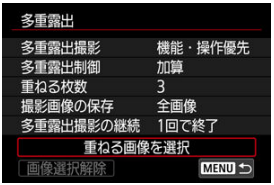
注意

- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- ［**：ピクチャースタイル**］が［**オート**］に設定されているときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- ［**機能・操作優先**］＋［**加算**］設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- ［**加算**］設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- 手順8で撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換を行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影モードを［A+］［C1P］［C2P］［C3P］［🎥］にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されているRAW画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像はそのまま残ります。

1. ［重ねる画像を選択］を選ぶ



2. 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- ［**OK**］を選びます。
- 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3. 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

選択できる画像

装着レンズ	クロップ撮影	選択可能な画像
RFレンズ／EFレンズ	なし	フルサイズで撮影したRAW画像
	あり	クロップ撮影／EF-Sレンズ撮影したRAW画像
EF-Sレンズ	—	

注意

- JPEG/HEIF画像は選択できません。
- ［**📷：高輝度側・階調優先**］を［**する**］［**強**］に設定して撮影した画像、［**📷：静止画クロップ/アスペクト**］を［**フルサイズ**］［**1.6倍（クロップ）**］以外に設定した画像は、1枚目に指定できません。
- ［**📷：レンズ光学補正**］［**📷：オートライティングオプティマイザ**］は、1枚目に指定した画像の設定に関わらず、［**しない**］で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定した画像のピクチャースタイルが［**オート**］のときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。
- 重ね合わせに使用できない画像が表示されることがあります。

参考

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去

［**機能・操作優先**］設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（［**連続撮影優先**］時不可）。
この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	［**撮影画像の保存**：**全画像**］設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 ［**撮影画像の保存**：**多重画像のみ**］設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

注意

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

?こんなときは

- **記録画質に制限はありますか？**
  各撮影画像、多重露出画像とも、記録画質の設定通りに記録されます。

- **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**
  ［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（⧉）。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

- **多重露出画像の画像番号はどうなりますか？**
  全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

● **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

多重露出撮影中にオートパワーオフは機能しません。なお、多重露出撮影を開始する前は［ : **節電**］の［**オートパワーオフ**］の設定時間で自動的に電源が切れ、多重露出の設定は解除されます。

HDRモード

応用

仕上がり効果

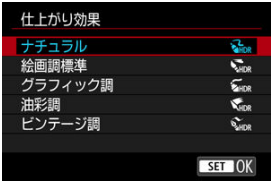
明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。
HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。
＊HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

1. ［ : HDRモード］を選ぶ

2. ［Dレンジ調整］を設定する

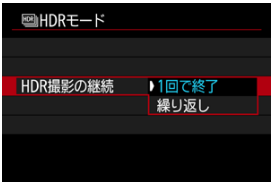
- ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、［**HDRオフ**］を選びます。

3. ［仕上がり効果］を設定する



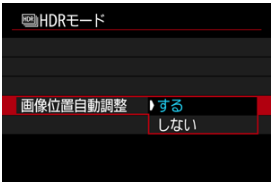
- 設定内容と効果については、仕上がり効果を参照してください。

4. ［HDR撮影の継続］を設定する



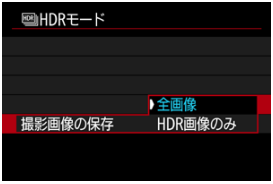
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**HDRオフ**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。

5. ［画像位置自動調整］を設定する



- 手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選びます。

6. 保存する画像を指定する



- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、［**全画像**］を選びます。
- HDR画像だけを保存するときは、［**HDR画像のみ**］を選びます。

7. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

注意

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像はJPEG L の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（L、H）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～51200の範囲（［**ISO感度の範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］の設定による）でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- AEB撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッタースピードを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため［Fv］［Tv］［M］モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードが変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（）、およびダストデリートデータ（）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに［**BUSY**］が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

仕上がり効果

- **［HDR］ナチュラル**
  明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

- **［HDR］絵画調標準**
  ［**ナチュラル**］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **［HDR］グラフィック調**
  ［**絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **［HDR］油彩調**
  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

- **［HDR］ビンテージ調**
  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

参考

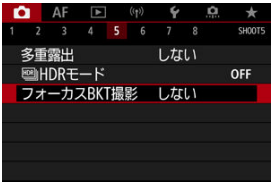
- 各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（）を基本にした画像特性で撮影されます。

フォーカスBKT撮影

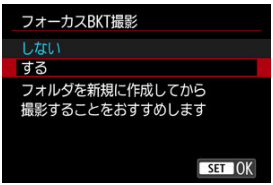
応用

フォーカスBKT*撮影は、1回のレリーズで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用すると、撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。
＊「BKT」はBracketing（ブラケティング）の略です。

1. ［📷：フォーカスBKT撮影］を選ぶ



2. ［フォーカスBKT撮影］を設定する



- ［**する**］を選びます。

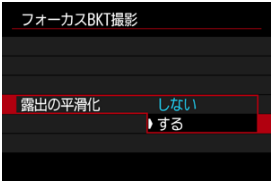
3. ［撮影回数］を設定する

- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- ［**2**］～［**999**］回の範囲で設定することができます。

4. ［ステップ幅］を設定する

- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
  なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈SET〉を押します。

5. ［露出の平滑化］を設定する



- ［**露出の平滑化**］を［**する**］に設定すると、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を抑えることができます。

6. 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の［**■**］をタッチし、［**OK**］を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。

注意

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- 下記のレンズを使用すると、撮影画像に明るさの変化が生じることがありますので、［**露出の平滑化**］を［**しない**］に設定してください。
  - EF100mm F2.8L Macro IS USM
  - EF180mm F3.5L Macro USM
  - EF-S60mm F2.8 Macro USM
- 適切な［**ステップ幅**］は被写体により異なります。［**ステップ幅**］が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行って［**ステップ幅**］の目安を確認しておくことをおすすめします。
- 撮影回数を多く設定すると、合成に時間がかかります。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。

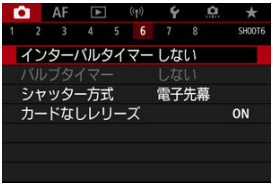
参考

- 三脚、リモートスイッチ（別売／）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／）などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6～F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**フォーカスBKT撮影**］が［**しない**］になります。

インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。

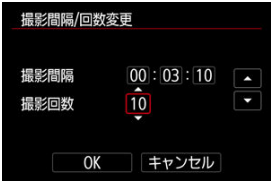
1. ［📷：インターバルタイマー］を選ぶ



2. ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 撮影間隔、撮影回数を設定する

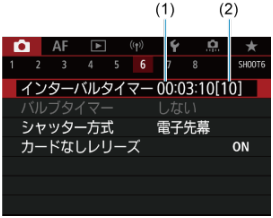


- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈SET〉を押して［⇕］の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（［□］の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**
  ［**00 : 00 : 01**］～［**99 : 59 : 59**］の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**
  ［**01**］～［**99**］の範囲で設定することができます。［**00**］に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。

4. ［OK］を選ぶ



- メニュー画面に設定した内容が表示されます。
  (1) 撮影間隔
  (2) 撮影回数

5. 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、［TIMER］が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、［**：節電**］の［**オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。［**：エコモード**］設定時は2秒でディスプレイが薄暗くなり、その6秒後にオートパワーオフが機能します。次の撮影の約1分前になると、自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、［**しない**］に設定するか、電源スイッチを〈OFF〉にします。

注意

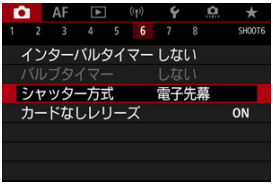
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈MF〉に設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときや、撮影モードを［BULB］［C1P］［C2P］［C3P］［🎥］にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utilityを使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が［**しない**］になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。

シャッター方式

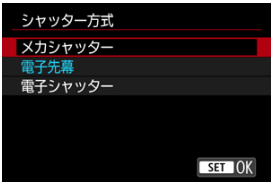
応用

シャッター方式を選ぶことができます。

1. ［📷：シャッター方式］を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **メカシャッター**
  撮影時にメカシャッターが作動します。明るいレンズの絞りを開いて撮影するときに選ぶことをおすすめします。

- **電子先幕**
  撮影時に後幕のみ作動します。

- **電子シャッター**
  シャッター作動音を鳴らさずに撮影することができます。
  連続撮影設定時は、常に高速連続撮影（最高約20コマ／秒）で撮影されます。また、連続撮影中は、白枠の点灯／消灯を繰り返します。

注意

- 高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
  - ［**電子先幕**］以外で撮影する
  - シャッタースピードを遅くする
  - 絞り数値を大きくする

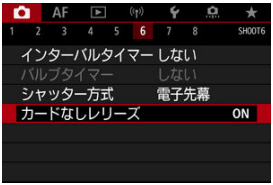
［電子シャッター］設定時の注意事項

- 電子シャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- シャッタースピードが制限されます。0.5秒より遅いシャッタースピードを設定することはできません。
- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、レンズによっては、F値が一定でも露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。
- バルブ撮影時は、［**電子先幕**］で撮影されます。
- AEB撮影、ストロボ撮影はできません。
- 一部機能が制限されますが、［**電子シャッター**］以外に設定を変更すると、元の設定に戻ります。
- ドライブモードを［□］以外に設定、［**露出Simulation**］を［**する**］に設定したときは［**高速表示**］は［**する**］になります。

カードなしレリーズ

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では［**する**］に設定されています。

1. **［📷：カードなしレリーズ］を選ぶ**



2. **［しない］を選ぶ**

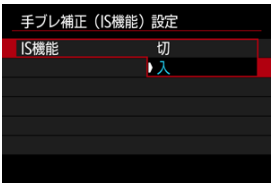
手ブレ補正（IS機能）設定

焦点距離設定

静止画撮影時の手ブレを、カメラの「IS機能」で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

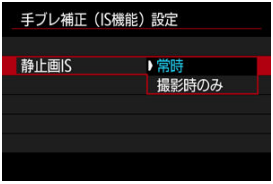
1. ［：手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ

2. ［IS機能］を選ぶ



- ［**入**］を選びます。

3. ［静止画IS］を選ぶ



- ［**常時**］を選ぶと、常に手ブレ補正が機能します。
- ［**撮影時のみ**］を選ぶと、撮影される瞬間のみ手ブレ補正が機能します。

注意

- 手ブレ補正機能が搭載されたレンズ装着時、撮影モードが［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］［BULB］のときは、［**：手ブレ補正（IS機能）設定**］は表示されません。
- レンズの種類によっては、十分な手ブレ補正効果が得られないことがあります。

参考

- 動画撮影時の手ブレ補正については、動画電子ISを参照してください。

焦点距離設定

レンズ通信非対応のレンズ装着時にレンズの焦点距離情報を設定することで、設定した焦点距離に合わせた手ブレ補正を行うことができます。

1. ［焦点距離設定］を選ぶ

2. 焦点距離を設定する

- 〈◎〉を回して、焦点距離の桁を選びます。
- 〈SET〉を押して［⊕］の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（［□］の状態に戻ります）。

3. ［OK］を選ぶ

注意

- ［📷：**レンズなしレリーズ**］を［**する**］に設定してください。［**しない**］設定時は手ブレ補正は機能しません。
- レンズ通信に対応したレンズを装着したときは、［**焦点距離設定**］は表示されません。

参考

- 焦点距離は1～1000mm（1mm単位）の範囲で設定することができます。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1. タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の［ ］にタッチします。
- タッチするたびに、［ ］と［ ］が切り換わります。
- ［ ］（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- ［ ］（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

2. 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAF方式で、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- ［ ］に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

注意

- ドライブモードを［ ］［ ］［ ］に設定していても、1枚撮影になります。
- ［**AF動作**］が［**サーボAF**］に設定されていても、画面にタッチしたときは［**ワンショットAF**］でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- ［ **：撮影画像の確認**］で［**撮影画像の確認時間**］を［**ホールド**］に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しするか、［ ］にタッチすると、次の撮影を行うことができます。

参考

- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

撮影画像の確認

撮影画像の確認時間

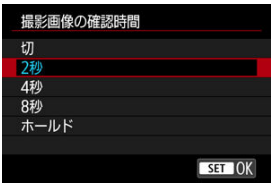
ファインダー内表示

撮影画像の確認時間

撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。

1. **［ : 撮影画像の確認］を選ぶ**

2. **［撮影画像の確認時間］を選ぶ**



3. **時間を設定する**

参考

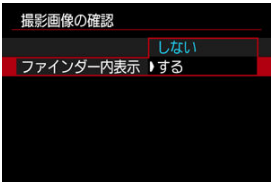
- ［**ホールド**］に設定すると、［**：節電**］の［**ディスプレイオフ**］で設定した時間まで画像が表示されます。

ファインダー内表示

撮影直後に、ファインダー内に撮影画像を表示する場合は［**する**］に設定します。

1. **［📷：撮影画像の確認］を選ぶ**

2. **［ファインダー内表示］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**

参考

- ［**ファインダー内表示**］の設定は、［**撮影画像の確認**］が［**切**］以外のときに機能します。

高速表示

応用

［AF：**AF動作**］を［**サーボAF**］、ドライブモードを［□H］［**高速連続撮影**］で撮影するときに、撮影結果と映像を交互に表示する『高速表示』を選ぶことができます。高速表示を行うことで、動きの速い被写体を追いやすくなります。

1. ［：□H高速表示］を選ぶ

2. 項目を選ぶ

- ［**する**］を選ぶと、撮影中に撮影結果と映像を交互に表示します。

注意

- 高速表示中は、像のゆれやちらつきが発生します。特に速いシャッタースピードでの撮影で発生しやすくなります。ただし、撮影結果への影響はありません。
- シャッタースピードが1/30秒より遅いとき、絞り数値がF11よりも大きいとき、AFでピントが合いにくいとき、ストロボ撮影時、ISO感度拡張時は高速表示は行われません。また、撮影中に高速表示が行われなくなることがあります。

参考

- ［**：シャッター方式**］を［**電子シャッター**］に設定したときは、常に高速表示が行われます。

測光タイマー

応用

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

1. ［📷：測光タイマー］を選ぶ

2. 時間を設定する

露出Simulation

応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

1. [: 露出Simulation] を選ぶ

2. 内容を設定する

- **する（Exp.SIM）**
  実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **絞り込み中**
  通常は、映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP.）。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

- **しない（DISP.）**
  映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

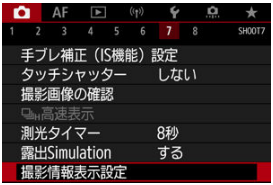
撮影情報表示設定

- モニター情報表示カスタマイズ
- ファインダー情報表示カスタマイズ
- ファインダー縦表示
- グリッド
- ヒストグラム
- 撮影距離表示設定
- 設定の初期化

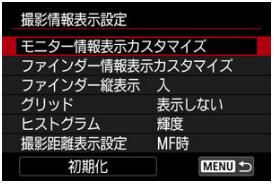
撮影時にモニターまたはファインダーに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

モニター情報表示カスタマイズ

1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. ［モニター情報表示カスタマイズ］を選ぶ



3. 画面を選ぶ

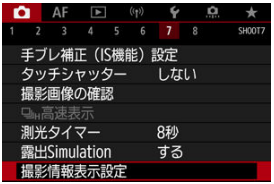
- 〈◎〉を回してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する

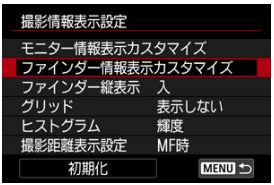
- 〈◎〉を回してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

ファインダー情報表示カスタマイズ

1. **［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［ファインダー情報表示カスタマイズ］を選ぶ**



3. **画面を選ぶ**

- 〈◎〉を回してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

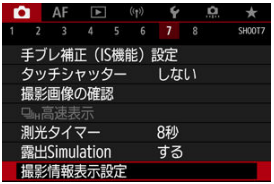
4. 画面を編集する

- 〈◎〉を回してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

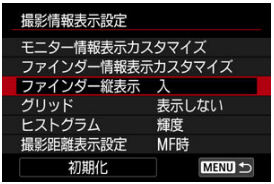
ファインダー縦表示

静止画を縦位置で撮影するときの、ファインダーの情報表示の状態を選ぶことができます。

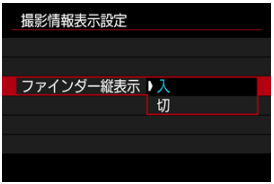
1. **［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［ファインダー縦表示］を選ぶ**



3. **項目を選ぶ**



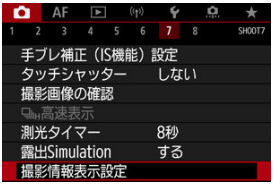
- **入**
  情報表示を自動回転して見やすく表示することができます。

- **切**
  情報表示の自動回転は行われません。

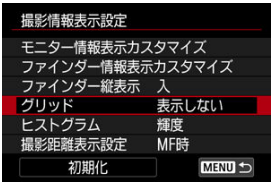
グリッド

モニターおよびファインダーにグリッドを表示することができます。

1. **［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［グリッド］を選ぶ**

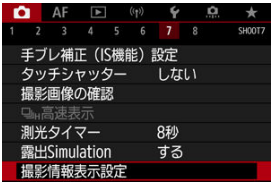


3. **項目を選ぶ**

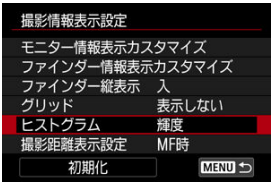
ヒストグラム

ヒストグラムの表示内容と表示サイズを選ぶことができます。

1. ［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ



2. ［ヒストグラム］を選ぶ



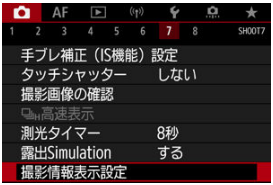
3. 項目を選ぶ

- 表示内容（［**輝度**］または［**RGB**］）と表示サイズ（［**大きい**］または［**小さい**］）を選びます。

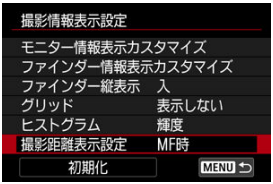
撮影距離表示設定

RFレンズを使用しているときに、撮影距離を表示することができます。撮影距離の表示は、タイミングと単位を選ぶことができます。

1. **［ : 撮影情報表示設定］を選ぶ**



2. **［撮影距離表示設定］を選ぶ**



3. **表示のタイミングを選ぶ**

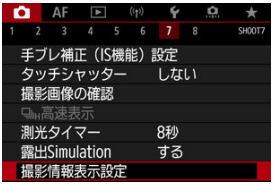
4. 単位を選ぶ

参考

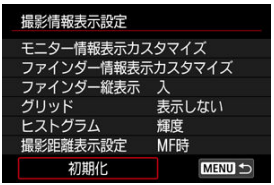
- 使用するRFレンズによっては、撮影倍率も表示されます。

設定の初期化

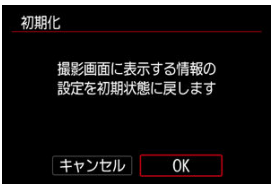
1. ［📷：撮影情報表示設定］を選ぶ



2. ［初期化］を選ぶ

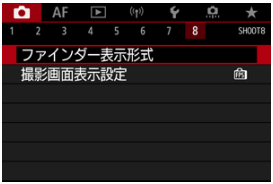


3. ［OK］を選ぶ



ファインダー表示形式

1. **［ : ファインダー表示形式］を選ぶ**



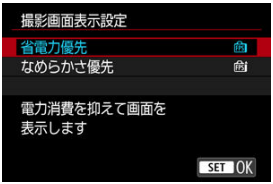
2. **項目を選ぶ**

撮影画面表示設定

静止画撮影時の撮影画面表示で、優先する項目を選ぶことができます。

1. **［📷：撮影画面表示設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



測光モードの選択

応用

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。
［A+］モードのときは、評価測光に自動設定されます。

1. 〈Q〉ボタンを押す（10）

- 映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押します。

2. 測光モードを選ぶ

- 〈◎〉を回すか、〈✲〉の上下を押して項目を選びます。
- 〈◎〉または〈◎〉を回すか、〈✲〉の左右を押して測光モードを選びます。

評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約6.1%の範囲を測光します。

スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約3.1% の範囲を測光します。画面にスポット測光範囲が表示されます。

[ ] 中央部重点平均測光

画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

参考

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
  [⊛] は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。[⊙]／[•]／[ ] は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- [: **合焦後AEロックする測光モード**]（ ）で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます。

自分の好みに露出を補正する

応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。
［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］モードのときに露出補正を行うことができます。
なお、［M］モード＋ISOオート設定時の露出補正についてはM：マニュアル露出、［Fv］モード時の露出補正についてはFv：フレキシブルAE撮影を参照してください。

1. 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

2. 補正量を設定する

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

- 画面を見ながら〈◎〉を回して設定します。
- 露出補正を行うと、［☒］が表示されます。

3. 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル［▮］を標準露出指標（［▼］）の位置に戻します。

注意

- ［📷：**オートライティングオプティマイザ**］（⚙）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

参考

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

露出を固定して撮る／AEロック撮影

応用

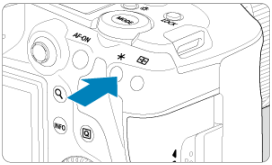
AEロックの効果

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2. 〈✱〉ボタンを押す（⏱8）



- 画面左下に［✱］が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3. 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

参考

- バルブ撮影時はAEロックできません。

AEロックの効果

測光モードの選択	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
[◉]	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[◎][•][ ]	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

＊ [[◉]] 設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

静止画撮影全般

情報表示について

静止画撮影全般の注意事項

情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、情報表示を参照してください。

参考

- ［Exp.SIM］が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- ［Exp.SIM］が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは［Exp.SIM］とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは［📷：**露出Simulation**］が［**する**］に設定されているときに（）表示することができます。

静止画撮影全般の注意事項

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い［🌡］と赤い［🌡］表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い［🌡］または赤い［🌡］が表示されます。
- 白い［🌡］は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い［🌡］が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 赤い［🌡］は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行うと、白い［🌡］または赤い［🌡］が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い［🌡］が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**：モニターの明るさ**］を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

レンズについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

参考

- 映像の視野率は約100%（記録画質JPEG L設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**：節電**］の［**オートパワーオフ**］または［**ファインダーオフ**］の設定時間で自動的に画面が消えます。その後、［**オートパワーオフ**］の設定時間で自動的に電源が切れます（）。
- 市販のHDMIケーブルを使用すると、映像をテレビに表示することができます（）。ただし、音声は出力されません。

動画撮影

動画撮影を行うときは、〈MODE〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押して、［**撮影モード**］の画面を図の状態にしてください。
タイトル右の 応用 は、［▶Tv］［▶Av］［▶M］限定の機能であることを示しています。

注意

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

参考

- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。
- 撮影モードが［A+］のときは、［A+］の動画記録画質で動画撮影が行われます。撮影モードが［A+］以外のときは、［▶P］の動画記録画質で動画撮影が行われます。

- メニュー目次：動画撮影
- 動画撮影
- 動画記録画質
- 動画クロップ撮影 応用
- 録音
- Canon Log設定 応用
- HDR動画撮影
- タイムラプス動画
- 動画セルフタイマー
- 手ブレ補正（IS機能）設定
- 動画撮影時シャッターボタンの機能
- ゼブラ設定 応用
- タイムコード

- その他のメニュー機能
- 動画撮影全般の注意事項

メニュー目次：動画撮影

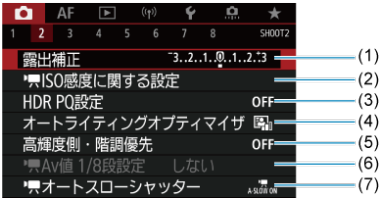
撮影1

（1）動画記録画質

（2）動画クロップ 応用

（3）録音

撮影2



（1）露出補正 応用

（2）ISO感度に関する設定 応用

（3）HDR PQ設定 応用

（4）オートライティングオプティマイザ 応用

（5）高輝度側・階調優先 応用

（6）Av値 1/8段設定 応用

（7）オートスローシャッター 応用

撮影3

(1) ホワイトバランス 応用

(2) MWB画像選択 応用

(3) WB補正 応用

(4) ピクチャースタイル

- ピクチャースタイルの選択 応用
- ピクチャースタイルの調整 応用
- ピクチャースタイルの登録 応用

(5) Canon Log設定 応用

(6) 明瞭度 応用

撮影4

(1) レンズ光学補正 応用

(2) 高感度撮影時のノイズ低減 応用

● 撮影5

（1）HDR動画撮影

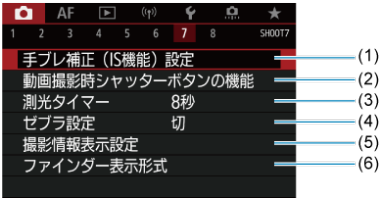
（2）タイムラプス動画

● 撮影6

（1）動画セルフタイマー

（2）リモコン撮影

撮影7



（1）手ブレ補正（IS機能）設定

（2）動画撮影時シャッターボタンの機能

（3）測光タイマー 応用

（4）ゼブラ設定 応用

（5）撮影情報表示設定 応用

（6）ファインダー表示形式 応用

撮影8

（1）温度上昇緩和

（2）HDMI接続時の表示

（3）タイムコード

動画撮影

- 自動露出撮影
- シャッター優先AE撮影
- 絞り優先AE撮影
- シーン判別アイコン
- [ ] [ ] [ ] [ ] モード時のISO感度
- マニュアル露出撮影
- [ ] モード時のISO感度
- シャッタースピード
- 静止画撮影
- 動画撮影時の情報表示

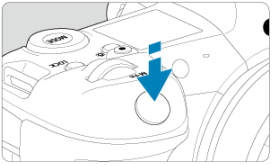
自動露出撮影

明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. 撮影モードを [ ] または [ ] にする

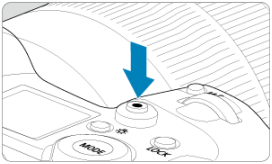
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して [ ] または [ ] を選びます。

2. ピントを合わせる

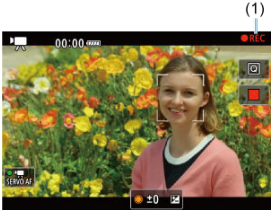


- 動画撮影を始める前に、AF（）または手動（）でピントを合わせます。
- 初期状態では、［**AF**：**動画サーボAF**］が［**する**］に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

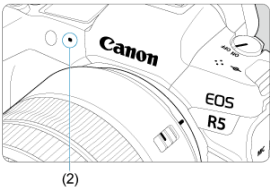
3. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の［●］をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に［●**REC**］（1）が表示されます。



- 音声は動画撮影用マイク（2）で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の［■］をタッチしても、動画撮影が終了します。

シャッター優先AE撮影

撮影モードを［Tv］に設定すると、任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを［Tv］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈◎〉を回して［Tv］を選びます。

2. シャッタースピード（1）を設定する

(1)

- 画面を見ながら〈◎〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

撮影モードを［Av］に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 撮影モードを［Av］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈◎〉を回して［Av］を選びます。

2. 絞り数値（1）を設定する

(1)

- 画面を見ながら〈◎〉を回して設定します。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

注意

- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

参考

[ ] [ ] [ ] [ ] モード共通事項

- 〈 〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（[ ] モードを除く）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈 〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈 〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈 〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（[ ] モードを除く）。
- [ ] [ ] モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、[ ] [ ] [ ] [ ] モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

シーン判別アイコン

撮影モードが［ ］のときは、カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、シーン判別アイコンを参照してください。

[ ] [ ] [ ] [ ] モード時のISO感度

ISO感度は自動設定されます。動画撮影時のISO感度を参照してください。

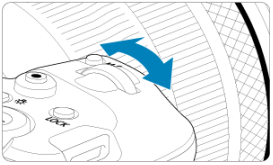
マニュアル露出撮影

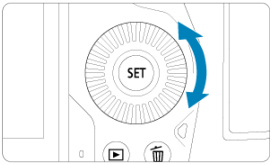
任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

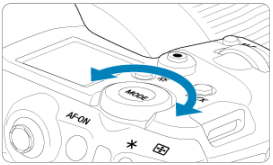
1. 撮影モードを［M］にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して［M］を選びます。

2. シャッタースピードと絞り数値、ISO 感度を設定する







(1) (2) (3)

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード（1）は〈 〉、絞り数値（2）は〈 〉、ISO感度（3）は〈 〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります（ ）。

3. ピントを合わせて撮影する

- 自動露出撮影の手順2、3と同じです。

注意

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）のISO感度拡張はできません。
- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

参考

- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈⊞〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（⊠）で確認することができます。

［M］モード時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、［AUTO］（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、動画撮影時のISO感度を参照してください。

シャッタースピード

[Tv] [M] モード時に、設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

<table>
<tr><th rowspan="2">フレームレート</th><th colspan="3">シャッタースピード（秒）</th></tr>
<tr><th>通常動画撮影</th><th>ハイフレームレート動画撮影</th><th>HDR動画撮影</th></tr>
<tr><td>119.9P</td><td rowspan="2">–</td><td>1/4000～1/125</td><td rowspan="4">–</td></tr>
<tr><td>100.0P</td><td>1/4000～1/100</td></tr>
<tr><td>59.94P</td><td rowspan="6">1/4000～1/8</td><td rowspan="6">–</td></tr>
<tr><td>50.00P</td></tr>
<tr><td>29.97P</td><td>[Tv] 1/4000～1/60
[M] 1/1000～1/60</td></tr>
<tr><td>25.00P</td><td>[Tv] 1/4000～1/50
[M] 1/1000～1/50</td></tr>
<tr><td>24.00P</td><td rowspan="2">–</td></tr>
<tr><td>23.98P</td></tr>
</table>

静止画撮影

動画撮影モードでは、静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了し、［**撮影モード**］の設定を静止画撮影に切り換えてから静止画撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、情報表示を参照してください。

注意

- 動画撮影可能時間の表示は目安です。
- 動画撮影中に、カメラ内部の温度が上昇して、赤い［動］が表示されたときは、撮影開始前に表示される動画撮影可能時間より前に撮影が終了することがあります（）。

動画記録画質

- 動画記録サイズ
- 8K／4K動画撮影
- 撮影範囲
- 動画が記録できるカード
- ハイフレームレート
- 4K高画質
- ファイルサイズが4GBを超える動画撮影
- 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安
- 撮影時間の制限

［**動画記録画質**］の［**動画記録サイズ**］で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。
なお、［**動画記録サイズ**］の画面に表示されるフレームレートは、［**ビデオ方式**］の設定（）により、自動的に切り換わります。

動画記録サイズ

画像サイズ		縦横比
8K-D	8192×4320	17 : 9
8K-U	7680×4320	16 : 9
4K-D	4096×2160	17 : 9
4K-U	3840×2160	16 : 9
FHD	1920×1080	16 : 9

注意

- ［：**ビデオ方式**］の設定を変更したときは、［：**動画記録画質**］の再設定を行ってください。
- 8K動画、4K動画、FHD 59.94P/50.00Pで撮影した動画、ハイフレームレート動画などは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録画質の設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。

参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（）。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

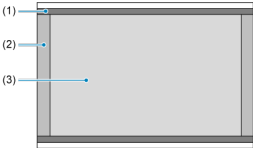
8K／4K動画撮影

- 8K／4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、動画が記録できるカードを参照してください。
- 8K／4K動画撮影時やハイフレームレート動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。**動画撮影時に［🌡］や赤い［REC］が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。**
- 8K／4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（🔗）。
- 8K動画のHDMI出力映像は、4K動画になります。

撮影範囲

動画記録画質の設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、動画撮影範囲が変わります。

- RFレンズ／EFレンズ使用時：[: **動画クロップ**] [**しない**] 設定時

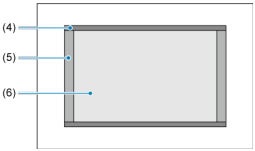


（1）8K-U（タイムラプス）／4K-U（タイムラプス）／FHD（タイムラプス）

（2）8K-D（8192×4320）／4K-D（4096×2160）

（3）8K-U（7680×4320）／4K-U（3840×2160）／FHD（1920×1080）

- RFレンズ／EFレンズ使用時：[: **動画クロップ**] [**する**] 設定時
- EF-Sレンズ使用時



（4）4K-U（タイムラプス）／FHD（タイムラプス）

（5）4K-D（4096×2160）

（6）4K-U（3840×2160）／FHD（1920×1080）

注意

- EF-Sレンズ使用時、および [: **動画クロップ**] [**する**] 設定時は、ハイフレームレート動画、8K動画、4K高画質動画は、撮影できません。
- 動画電子IS機能設定時は（ ）、画面の中央部分がさらにクロップされます。

フレームレート（fps：frame per second）

- **［119.9P］119.9fps／［59.94P］59.94fps／［29.97P］29.97fps**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。［119.9P］については、ハイフレームレートを参照してください。

- **［100.0P］100.00fps／［50.00P］50.00fps／［25.00P］25.00fps**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。［100.0P］については、ハイフレームレートを参照してください。

- **［24.00P］24.00fps／［23.98P］23.98fps**
  主に映画関連で使用します。23.98P（23.98fps）は、［：**ビデオ方式**］を［**NTSC**］に設定したときに選択できます。

圧縮方式

- **［ALL-I］ALL-I**（編集用／I-only）
  1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

- **［IPB］IPB**（標準）
  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I（編集用）よりもファイルサイズが小さくなるため、（同じ容量のカードであれば）撮影できる時間が長くなります。

- **［IPB］IPB**（軽量）
  IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- **［RAW］RAW**
  ［RAW］を選択したときは、RAW形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.CRM」）。

- **［MP4］MP4**
  ［ALL-I］［IPB］［IPB］を選択したときは、MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

RAW動画

カードに記録されるRAW動画は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」です。
RAW動画は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

注意

- RAW動画は、［▶：**RAW現像（RAW & DPRAW）**］で現像処理を行うことができません。

参考

- パソコンでRAW動画を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW動画の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（🔗）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW動画の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW動画を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性を優先したい場合はCanon Log設定を［**入**］にしてください。Cinema EOSとRAW動画を併用するときにおすすめします。

動画が記録できるカード

各動画記録画質で記録できるCFexpressカードの詳細は、キヤノンのホームページで確認してください。
また、SDカードの詳細は、要求カード性能を参照してください。
なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（）で正しく記録できることを確認してください。**

注意

- 8K／4K動画撮影を行うときは、撮影前に［：**カード初期化**］の［**物理フォーマット**］でカードを初期化してください（）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

記録できない動画

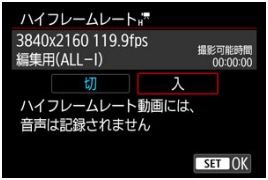
- 以下のファイルはSDカードへの記録はできません。動画撮影ボタンを押しても動画記録は開始されません。
  - RAW動画
  - 8K ALL-I
  - 4K 119.9/100.0fps（ハイフレームレート動画）
  - 4K ALL-I HEVC（Yuv422 10bit）
  - 4K 59.94/50.00fps ALL-I　H.264（Yuv420 8bit）

参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ハイフレームレート

4K画質で119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



- 4K-D 119.9P ALL-I、4K-U 119.9P ALL-Iまたは4K-D 100.0P ALL-I、4K-U 100.0P ALL-Iで記録されます。
- ハイフレームレート動画に音声は記録されません。
- 動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。
- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

注意

［ハイフレームレート：入］設定時の注意事項

- ［：**タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定したときは（）、タイムコードは記録されません。
- 設定を［**切**］に戻したときは、［**動画記録サイズ**］の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。
- ISO感度は、ISO100～12800の範囲で設定できます。なお、ISO感度の拡張はできません。
- HDMI出力映像のフレームレートは、59.94fpsまたは50.00fpsになります。

4K高画質

通常の4K動画より高画質な4K動画を記録することができます。

● 4K高画質の動画記録サイズを表示します。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

- **このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時**

  SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。
  なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

- **このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時**

  SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録を参照してください。

撮影時間の制限

● ハイフレームレート以外の動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

● ハイフレームレート動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

注意

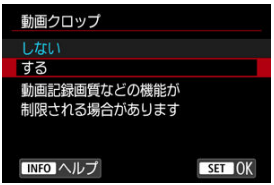
- 動画の再生を長時間行ったり、ライブビュー状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

動画クロップ撮影

応用

RFレンズ、EFレンズ使用時に、撮影画面の中央部分をクロップした動画（望遠レンズで撮影したような動画）を撮影することができます。
なお、動画撮影時にEF-Sレンズを使用したときは、動画クロップ撮影設定時と同等の撮影になります。

1. ［📷：動画クロップ］を選ぶ



2. ［する］を選ぶ

注意

- 動画クロップ撮影時は、8K動画、ハイフレームレート動画、4K高画質動画の撮影はできません。
- ［📷：**手ブレ補正（IS機能）設定**］の［**動画電子IS**］を［**入**］［**強**］に設定したときは、撮影画面の中央部分がさらにクロップされます（撮影範囲が狭くなります）。

参考

- 動画クロップ撮影時の撮影範囲は、EF-Sレンズ使用時と同等です。
- 撮影範囲については、撮影範囲を参照してください。

録音

録音／録音レベル

ウィンドカット

アッテネーター

内蔵のモノラルマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。
［**：録音**］で録音に関する設定を行うことができます。

注意

- 内蔵マイク／外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、［**：録音**］の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

参考

- ［🎥］モードのときは［📷：**録音**］は［**する**］［**しない**］ になります。なお、［**する**］に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（［**録音：しない**］設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左／右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

録音／録音レベル

● オート

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● マニュアル

録音レベルを任意に調整することができます。［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◎〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

● しない

録音は行われません。

ウィンドカット

［**入**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。［**録音**］を［**オート**］または［**マニュアル**］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［**入**］に設定することをおすすめします。

● マイク

通常はカメラに内蔵されたマイクでモノラル録音されます。
外部マイク入力端子（）に、ミニプラグ（Φ3.5mm）を備えた外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします。

● ヘッドフォン

ヘッドフォン端子（）に、ミニプラグ（Φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して［］を選び、〈〉または〈〉を回すか、〈〉の左右を押して調整します（）。
なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

Canon Log設定

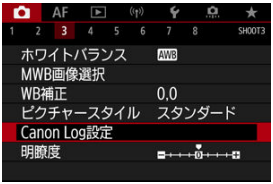
応用

撮影機能の設定

Canon Logの画質

Canon Logは、撮像素子の特性を最大限に引き出し、動画記録時に広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。
なお、Canon Logで記録した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。

1. **［ : Canon Log設定］を選ぶ**



2. **［Canon Log］を選ぶ**

3. ［入］を選ぶ（⊞）

4. 各項目の内容を設定する

- ［**ビューアシスト**］［**カラーマトリクス**］［**映像特性**］［**色空間**］の内容を設定します。

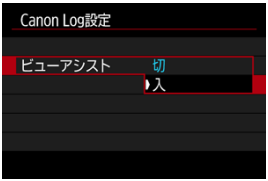
Canon Log

- **入**
  Canon Logで撮影した動画を10bitでカードに記録することができます。また、10bit記録に対応した外部記録機器にも記録することができます。

参考

- Canon Log映像は、カラーサンプリング（YCbCr 4:2:2（10bit））、色空間（Rec. ITU-R BT.709/BT.2020）で記録されます。

ビューアシスト



Canon Logは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ、低コントラストでやや暗い映像になります。［**ビューアシスト**］を［**入**］に設定すると、モニターに表示される映像が見やすい特性で（ビューアシスト）表示され、ディテールなどを確認しやすくなります。

- ［**入**］に設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logの特性でカードに記録されます）。また、HDMI出力映像は、Canon Logの特性で出力されます（ビューアシストは行われません）。

参考

- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に［V.Assist］が表示されます。
- ［**入**］設定時は、拡大表示を行ったときも、ビューアシスト表示が行われます。

カラーマトリクス

カラーマトリクスは、（ポストプロダクション処理を行ったときの）色の再現性を設定する機能です。

- **Cinema EOS Original**
  EOS-1D Cと同等の色再現となります。

- **Neutral**
  被写体の実際の色に近い色再現となります。

映像特性

必要に応じて調整します。項目（[**シャープネス**：**強さ**］［**彩度**］［**色相**］）を選び、効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

シャープネス：強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度	−4：低い	+4：高い
色相＊ **赤色**	−4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
緑色	−4：黄色寄り	+4：シアン寄り
青色	−4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

＊赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

色空間

［**Canon Log**］を［**入**］、［**カラーマトリクス**］を［**Neutral**］に設定したときに、［**色空間**］の設定を行うことができます。HDMI出力時の色空間を、［**BT.709**］［**BT.2020**］から選ぶことができます。

- ISO感度をISO100～320に手動設定したときは、ダイナミックレンジが狭くなります。
- Canon Log設定時のダイナミックレンジは、ISO400以上で約800%です。
- ISO100/125/160/200/250/320は、拡張感度です。ISO感度設定時に［L］と表示されます。

Canon Logの画質

- Canon Log設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に横縞状のノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。なお、撮影した映像をグレーディング処理する際、特にコントラストを強くすると、ノイズが顕著になることがありますので、ご注意ください。
- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 横縞状のノイズは、「やや暗く平坦な被写体」を撮影したときに発生しやすくなります。なお、このノイズは、ISO400程度の比較的低い感度でも発生することがあります。
- ノイズが目立つときは、やや明るめに撮影を行い、グレーディング処理の際に明るさ調整を行うことをおすすめします。また、（ダイナミックレンジが狭くなりますが）ISO400未満で撮影すると、ノイズを軽減できることがあります。

注意

Canon Log撮影時全般の注意事項

- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。
- Canon Log設定時は、［**：レンズ光学補正**］の［**周辺光量補正**］を［**する**］に設定していると、映像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- 「Canon Log 2」「Canon Log 3」には対応していません。
- ［**Canon Log**］を［**入**］に設定したときのヒストグラムはビューアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- Canon Log設定でRAW動画記録を行う場合、ISO100～320は設定できません。

参考

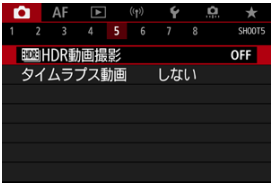
Canon Logで撮影した動画の再生について

- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

HDR動画撮影

明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

1. ［：HDR動画撮影］を選ぶ



- ［**する**］を選びます。

2. HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- 記録できる時間とファイルサイズについては、動画記録を参照しくてください。

注意

- ［**：手ブレ補正（IS機能）設定**］の［**動画電子IS**］［**：タイムラプス動画**］［**：高輝度側・階調優先**］［**：Canon Log設定**］［**：HDR PQ設定**］が設定されているときは、HDR動画撮影の設定はできません。
- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- HDR動画撮影の設定を切り換えたときは、映像の色あいや明るさなどが瞬時に大きく変化することがあります。また、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。

参考

- 記録サイズは、FHD 29.97P IPB（NTSC）、またはFHD 25.00P IPB（PAL）で記録されます。

タイムラプス動画

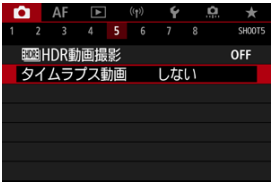
タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画、8K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、8K撮影時：8K-U 29.97P ALL-I（NTSC）／8K-U 25.00P ALL-I（PAL）、4K撮影時：4K-U 29.97P ALL-I（NTSC）／4K-U 25.00P ALL-I（PAL）、フルHD撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

なお、フレームレートは、［：**ビデオ方式**］の設定（）により自動的に切り換わります。

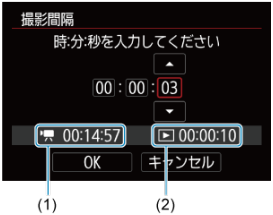
1. ［：タイムラプス動画］を選ぶ



2. ［タイムラプス撮影］を選ぶ

- ［**する**］を選びます。

3. ［撮影間隔］を設定する



- ［**撮影間隔**］を選びます。
- ［🎥］撮影所要時間（1）［▶］再生時間（2）を参考にして設定します。
- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈SET〉を押して［⇕］の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（［□］の状態に戻ります）。
- ［**00 : 00 : 02**］～［**99 : 59 : 59**］の範囲で設定することができます（1秒間隔の撮影はできません）。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。

4. ［撮影回数］を設定する

- ［**撮影回数**］を選びます。
- ［🎥］撮影所要時間［▶］再生時間を参考にして設定します。
- 項目（桁）を選びます。
- 〈SET〉を押して［⇕］の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（［□］の状態に戻ります）。
- ［**0002**］～［**3600**］の範囲で設定することができます。
- ［▶］再生時間が赤く表示されていないことを確認します。
- ［**OK**］を選ぶと設定されます。
- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、［▶］再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した［**撮影回数**］でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは（🔗）、［▶］再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

参考

- タイムラプス動画が記録できるカード（要求カード性能）については、要求カード性能を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

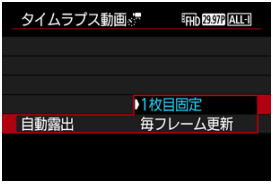
5. ［動画記録サイズ］を選ぶ

- **8K-U（7680×4320）**
  8K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9 です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

- **4K-U（3840×2160）**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

- **FHD（1920×1080）**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

6. ［自動露出］を設定する



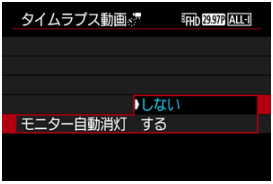
- **1枚目固定**
  1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

- **毎フレーム更新**
  2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、［**オート**］に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。

注意

- ［**撮影間隔**］が3秒以下で、［**自動露出**］が［**毎フレーム更新**］に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

7. ［モニター自動消灯］を設定する



- **しない**
  タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

- **する**
  撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

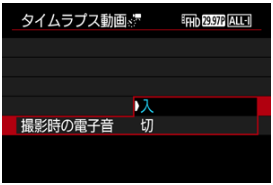
注意

- ［**モニター自動消灯**］を［**しない**］に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。

参考

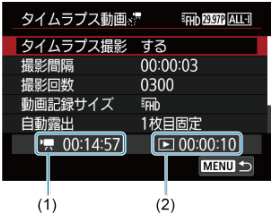
- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

8. ［撮影時の電子音］を設定する



- ［**切**］に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

9. 設定内容を確認する



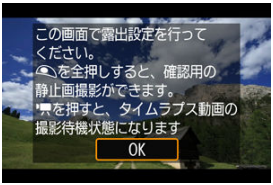
- **撮影所要時間（1）**
  撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

- **再生時間（2）**
  一定間隔で撮影した静止画から動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

10. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

11. メッセージを確認する



- メッセージを確認して［**OK**］を選びます。

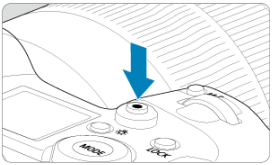
12. テスト撮影する

- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

参考

- テスト撮影画像は、JPEG L の画質で記録されます。
- ［Tv］［M］モードのときは、1/4000～30秒の範囲でシャッタースピードを設定することができます。
- ［］［Tv］［Av］モード、および［M］モード＋ISOオート設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、［：**ISO感度に関する設定**］の［**オートの上限**］で設定することができます（）。
- ［：**動画撮影時シャッターボタンの機能**］の［**半押し**］が、［**測光・動画サーボ**］に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に［**測光・ワンショット**］に切り換わります。

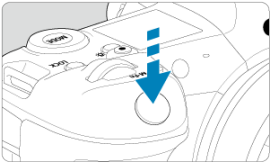
13. 動画撮影ボタンを押す



- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順12に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。

14. タイムラプス動画を撮影する

- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間（1)」「撮影間隔（2)」を再確認します。



- **シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。**
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、「●」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- **タイムラプス動画撮影を解除するときは、［タイムラプス撮影］を［しない］に設定します。**

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順12のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- 映像の視野率は、8K／4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき［**再生時間**］は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、8Kタイムラプス動画／4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、8Kタイムラプス動画／4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- ［Tv］モードのときは、タイムラプス動画撮影中、絞りが固定され、ISO感度で露出制御が行われます。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは［Exp.SIM］マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声やタイムコードは記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、［**：動画撮影時シャッターボタンの機能**］の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- ［**撮影間隔**］が3秒以下で、［**自動露出**］が［**毎フレーム更新**］に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。

- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[: **タイムラプス動画**] を [**しない**] に設定してください。[**しない**] 以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が [**しない**] になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が [**しない**] になります。
  - [: **センサークリーニング**] の [**今すぐクリーニング**] [**カメラの初期化**] の [**基本設定**] を選んだとき
- 白い [ ] 温度上昇警告 ( ) が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い [ ] が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- [**自動露出**] を [**毎フレーム更新**] に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

参考

- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください ( )。
- [: **リモコン撮影**] を [**する**] に設定してください。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（ 手順13の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即レリーズ（すぐに撮影）、または〈2〉2秒後レリーズ（2秒後撮影）に設定してください。
- リモコンのスイッチが〈 〉に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

カメラの状態／リモコン設定	〈●〉すぐに撮影 〈2〉2秒後撮影	〈 〉動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

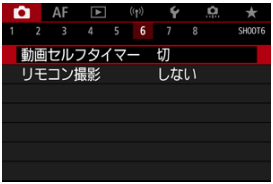
タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、動画記録を参照してください。

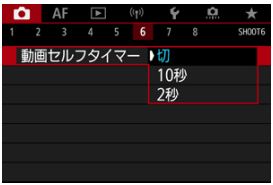
動画セルフタイマー

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

1. ［📷：動画セルフタイマー］を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. 撮影する

- 動画記録ボタンを押すか、［●］にタッチすると、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

参考

- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、〈SET〉を押します。

手ブレ補正（IS機能）設定

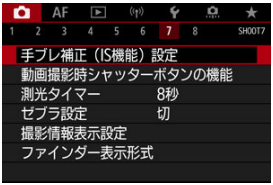
IS機能

動画電子IS

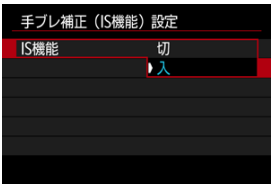
動画撮影時の手ブレを、カメラの「IS機能」および「動画電子IS機能」で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

IS機能

1. **［ : 手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ**



2. **［IS機能］を選ぶ**



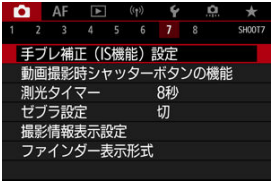
- ［**入**］を選びます。

注意

- 手ブレ補正機能が搭載されたレンズを装着しているときは、［**IS機能**］は表示されません。

動画電子IS

1. **［📷：手ブレ補正（IS機能）設定］を選ぶ**



2. **［動画電子IS］の項目を選ぶ**

- **切（OFF）**
  動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。

- **入（）**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。

- **強（）**
  ［**入**］設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

注意

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- 手ブレ補正機能を搭載していないレンズを装着しているときは、［**動画電子IS**］を［**入**］または［**強**］に設定すると、［**IS機能**］も［**入**］になります。
- EF-Sレンズ使用時、および動画クロップ撮影時も、動画電子IS機能を使用した動画撮影ができますが、撮影範囲がさらに狭くなります。
- レンズの焦点距離が1000mmを超えるときは、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなることがあります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は［**切**］に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、［**切**］に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

参考

- 静止画撮影時の手ブレ補正（IS機能）の設定については、手ブレ補正（IS機能）設定を参照してください。
- レンズによっては、レンズの手ブレ補正機能と、カメラの「IS機能」および「動画電子IS機能」が協調して作動することで、より高い手ブレ補正効果を得ることができます（手ブレ補正のアイコンに「+」が付加された状態で表示されます）。この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。

動画撮影時シャッターボタンの機能

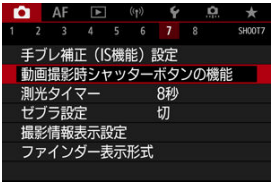
動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

注意

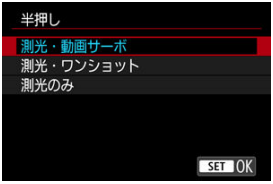
- ［**：ボタン カスタマイズ**］でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は［**動画撮影時シャッターボタンの機能**］の設定が優先されます。

---

1. **［：動画撮影時シャッターボタンの機能］を選ぶ**

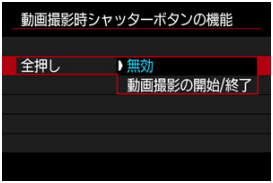


2. 項目を選ぶ



- **半押し**
  シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。

- **全押し**
  シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。



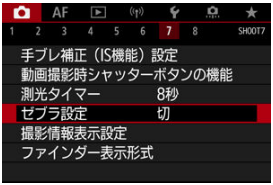
なお、［**全押し**］を［**動画撮影の開始/終了**］に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます。

ゼブラ設定

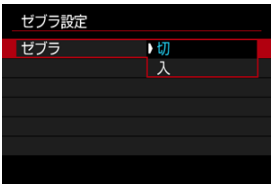
応用

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。

1. ［📷：ゼブラ設定］を選ぶ

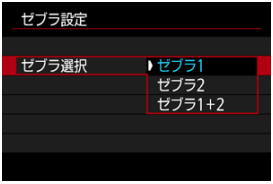


2. ［ゼブラ］を選ぶ



- ［**入**］を選びます。

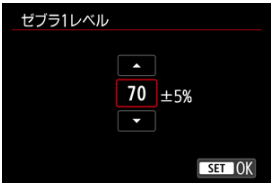
3. ［ゼブラ選択］を選ぶ



- ［**ゼブラ1**］を選ぶと、設定輝度値の周辺範囲を左上から右下の斜線表示します。
- ［**ゼブラ2**］を選ぶと、設定輝度値以上の範囲を左下から右上の斜線表示します。
- ［**ゼブラ1+2**］を選ぶと、［**ゼブラ1**］、［**ゼブラ2**］の両方を表示します。［**ゼブラ1**］と［**ゼブラ2**］の表示領域が重なる場合は、斜線を重ねて表示します。

4. レベルを設定する

ゼブラ1レベル



ゼブラ2レベル

- 〈◎〉または〈☞〉を回すか、〈※〉の上下を押して、設定します。

参考

- HDR-PQ設定時、最大輝度値は100%にはなりません。なお、［**：高輝度側・階調優先**］や［**：ピクチャースタイル**］の設定により最大輝度値は異なります。
- Canon Log設定時、拡張感度設定時は最大輝度値は100%にはなりません。
- ［**ゼブラ選択**］を設定するときは、ゼブラ表示されるレベルを事前に確認することをおすすめします。

タイムコード

- カウントアップ
- スタート時間設定
- 動画記録カウント
- 動画再生カウント
- HDMI
- ドロップフレーム

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［📷：**タイムコード**］でタイムコードを設定することができます。

注意

- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

カウントアップ

- **レックラン**
  動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

- **フリーラン**
  動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

注意

- ［**フリーラン**］の設定でハイフレームレート動画撮影を行ったときは、タイムコードは付加されません。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻／エリア／サマータイムの設定を変更すると（）、タイムコードに影響が生じます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**
  「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

- **リセット**
  ［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（ ）。

- **カメラ時間に設定**
  カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
  撮影待機状態では、撮影可能時間が表示されます。また、撮影状態では撮影開始からの経過時間が表示されます（1）。

- **タイムコード**
  動画撮影時にタイムコードが表示されます（2）。

注意

- 撮影待機中に、撮影可能時間の表示が変わることがあります。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
  動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

- **タイムコード**
  動画再生時にタイムコードが表示されます。

参考

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋［**フリーラン**］設定時を除く）。
- ［**📷：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［▶：**動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

- **タイムコード**
  HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

  - **切**
    HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

  - **入**
    HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。［**入**］に設定すると、［**記録コマンド**］が表示されます。

- **記録コマンド**
  HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

  - **切**
    外部記録機器側で記録開始／停止を行います。

  - **入**
    動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

注意

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が［**タイムコード**］［**記録コマンド**］に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- ［**タイムコード**］を［**切**］に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。［**する**］設定時はこの差が自動的に補正されます。

- **する**
  タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。

- **しない**
  補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。
  なお、タイムコードは次のように表示されます。

  - **する（DF）**
    00:00:00.（再生時：00:00:00.00）

  - **しない（NDF）**
    00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

参考

- フレームレートが24.00P（24.00fps）、23.98P（23.98fps）設定時、および［**：ビデオ方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、［**ドロップフレーム**］の項目は表示されません。

その他のメニュー機能

- [2]
- [3]
- [4]
- [6]
- [7]
- [8]

[2]

露出補正 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で露出補正を行うことができます。露出補正については、自分の好みに露出を補正するを参照してください。

ISO感度に関する設定 応用

- **ISO感度**

  [M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

- **ISO感度の範囲**

  ISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。ISO感度拡張の設定を行うこともできます。

- **オートの上限**

  [] [Tv] [Av] モード、または [M] モード＋ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

- **オートの上限**

  [] [Tv] [Av] モード、または [M] モード＋ISOオートの設定で8Kタイムラプス／4Kタイムラプス／フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

HDR PQ設定 応用

HDR PQ設定については、HDR PQ設定を参照してください。

オートライティングオプティマイザ 応用

明るさとコントラストの自動補正を行うことができます。オートライティングオプティマイザ機能については、オートライティングオプティマイザを参照してください。

高輝度側・階調優先 応用

ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、高輝度側・階調優先を参照してください。

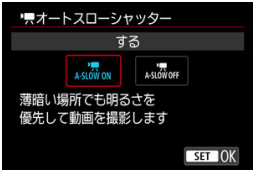
Av値 1/8段設定 応用

- **メニュー画面**
  RFレンズ使用時に、動画撮影時の絞り数値の設定ステップをさらに細かくすることができます。
  ［**する**］を選ぶと、［Av］［M］モード時の絞り数値が1/3段（1/2段）ステップから1/8段ステップに変わります。

注意

- EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、［**Av値 1/8段設定**］は表示されません（設定できません）。
- ［**する**］に設定したときは、［：**露出設定ステップ**］で設定されている内容は機能しません（無効になります）。

● オートスローシャッター 応用



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、［**しない**］設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は、撮影モードが［ ］［ ］のときに設定できます（機能します）。また、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00Pのときに機能します。

- **しない**
  ［**する**］設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、［**する**］設定時よりも映像が暗くなることがあります。

- **する**
  暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、［**しない**］設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、［**しない**］に設定することをおすすめします。

[📷3]

ホワイトバランス 応用

ホワイトバランスについては、ホワイトバランスを参照してください。

MWB画像選択 応用

MWB画像選択については、マニュアルホワイトバランスを参照してください。

WB補正 応用

WB補正については、ホワイトバランスの補正を参照してください。

ピクチャースタイル 応用

ピクチャースタイルについては、ピクチャースタイルの選択を参照してください。

明瞭度 応用

明瞭度については、明瞭度を参照してください。

レンズ光学補正 応用

動画撮影時は、周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正、回析補正を行うことができます。レンズ光学補正については、レンズ光学補正を参照してください。

高感度撮影時のノイズ低減 応用

高感度撮影時のノイズ低減については、高感度撮影時のノイズ低減を参照してください。

[📷6]

● リモコン撮影

［**する**］に設定すると、リモートコントローラー RC-6またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使用して、動画撮影の開始／停止を行うことができます。

[7]

測光タイマー 応用

測光タイマーについては、測光タイマーを参照してください。

撮影情報表示設定 応用

撮影情報表示については、撮影情報表示設定を参照してください。

ファインダー表示形式 応用

ファインダー表示形式については、ファインダー表示形式を参照してください。

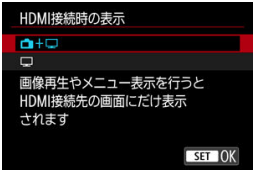
● 温度上昇緩和

［**入**］にすると消費電力を抑え、撮影待機状態のカメラ内部の温度上昇を抑えます。これにより動画の撮影時間が長くなることがあります。

注意

- 撮影待機状態と動画撮影中の画面で、画質の差がでることがあります。
- 動画撮影を開始したときに、映像が一瞬更新されない（フレームストップ）ことがあります。

● HDMI接続時の表示



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。［**動画記録サイズ**］の設定に応じて出力されます。
なお、初期状態では［📷+🖵］に設定されています。

- 📷+🖵
  映像をカメラの画面に表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
  画像再生やメニュー表示を行ったときは、HDMI出力先に画像やメニューが表示され、カメラの画面には表示されません。
- 🖵
  HDMI出力を行ったときは、カメラの画面が消灯します（何も表示されません）。
  HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈INFO〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
  外部記録機器に映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

？HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、［📷+🖵］を選び、［🔧：**節電**］の［**オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定してください（🔗）。なお、［**ディスプレイオフ**］で設定した時間が経過すると、カメラのモニターが消灯しますが、HDMI出力は継続します。

注意

- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（🔗）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録画質やフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

参考

- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（ ）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[**録音：しない**] 設定時を除く）。

動画撮影全般の注意事項

注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- ［AWB］［AWBW］の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 必要に応じて静止画撮影全般の注意事項もお読みください。
- Wi-Fi接続した状態で動画撮影すると、カメラの温度が上昇することがあります。手持ち撮影せず、三脚を使用するなどしてください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い［HOT］表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い［HOT］が表示されます。
- 赤い［HOT］は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。なお、赤い［HOT］が表示されてから動画撮影が自動的に終了するまでの時間は撮影状況によって異なります。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、赤い［HOT］が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

[🌡] 表示について

- 動画撮影を繰り返したり、ライブビュー状態を長時間続けると、カメラ内部の温度が上昇して［🌡］が表示されることがあります。［🌡］が表示されたときは、カメラの電源を切るなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- ［🌡］が表示された状態で動画撮影を続けると、自動的にカメラの電源が切れます。また、［🌡］が表示された状態でライブビュー状態を続けると、自動的にカメラの電源が切れることがあります。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（タイムラプス動画撮影時、Canon Logビューアシスト時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーター（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。

(1)

- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

音声の制約について

- ［🎥A+］モード時、［📷：**動画記録画質**］が FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のとき、または［📷：**音声圧縮**］が［**する**］のときは、以下の制約事項があります。ご了承ください。
  - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
  - Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

参考

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- ［📷：**動画撮影時シャッターボタンの機能**］の［**全押し**］を［**動画撮影の開始/終了**］に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（）。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（）でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）などの外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます（）。
- ミニプラグ（Φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、8K動画（RAW動画除く）／4K動画／フルHD動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、8K動画（RAW動画除く）／4K動画／フルHD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

AF／ドライブ

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「AF：AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。
タイトル右の 応用 は、［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］［BULB］モード限定の機能であることを示しています。

参考

- 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

- メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）
- メニュー目次：AFタブ（動画撮影）
- AF動作 応用
- AF方式の選択 応用
- コンティニュアスAF
- 動画サーボAF
- タッチ&ドラッグAF設定
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）
- サーボAF特性 応用
- AF機能のカスタマイズ 応用
- ドライブモードの選択
- セルフタイマー撮影
- リモコン撮影

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

● AF1

(1) AF動作 応用

(2) AF方式 応用

(3) 検出する被写体

(4) 瞳検出

(5) コンティニュアスAF

(6) タッチ&ドラッグAF設定

参考

- フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときは、[**AF1**] タブに [**フォーカスモード**] が表示されます。

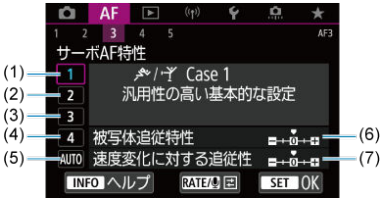
● AF2

(1) MFピーキング設定 応用

(2) フォーカスガイド

(3) AF補助光の投光

AF3



（1）Case1

（2）Case2

（3）Case3

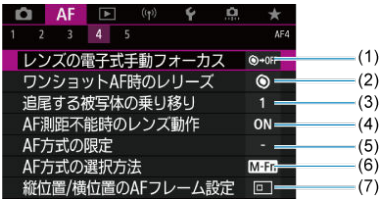
（4）Case4

（5）CaseA

（6）被写体追従特性

（7）速度変化に対する追従性

AF4



（1）レンズの電子式手動フォーカス 応用

（2）ワンショットAF時のレリーズ 応用

（3）追尾する被写体の乗り移り 応用

（4）AF測距不能時のレンズ動作 応用

（5）AF方式の限定 応用

（6）AF方式の選択方法 応用

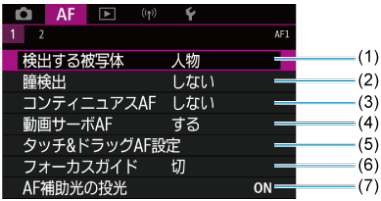
（7）縦位置/横位置のAFフレーム設定 応用

● AF5

(1) 時のサーボAF開始測距点 応用
(2) フォーカスリングの回転
(3) RFレンズ MF操作敏感度
(4) AFフレーム選択の敏感度

[A+] モードのときは、以下の画面が表示されます。

● AF1



(1) 検出する被写体
(2) 瞳検出
(3) コンティニュアスAF
(4) 動画サーボAF
(5) タッチ&ドラッグAF設定
(6) フォーカスガイド
(7) AF補助光の投光

AF2

（1）フォーカスリングの回転

（2）RFレンズ MF操作敏感度

（3）AFフレーム選択の敏感度

メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

● AF1

（1）AF方式

（2）検出する被写体

（3）瞳検出

（4）動画サーボAF

（5）タッチ&ドラッグAF設定

参考

- フォーカスモードスイッチがないレンズを使用したときは、[**AF1**] タブに [**フォーカスモード**] が表示されます。

● AF2

（1）MFピーキング設定 応用

（2）フォーカスガイド

AF3

（1）動画サーボAF時のAF速度 応用
（2）動画サーボAFの被写体追従特性 応用
（3）レンズの電子式手動フォーカス 応用
（4）追尾する被写体の乗り移り 応用
（5）AF測距不能時のレンズ動作 応用
（6）AF方式の限定 応用
（7）AF方式の選択方法 応用

AF4

（1）フォーカスリングの回転
（2）RFレンズ MF操作敏感度
（3）AFフレーム選択の敏感度

[ ] モードのときは、以下の画面が表示されます。

AF1

(1) 検出する被写体

(2) 瞳検出

(3) 動画サーボAF

(4) タッチ&ドラッグAF設定

(5) フォーカスガイド

AF2

(1) フォーカスリングの回転

(2) RFレンズ MF操作敏感度

(3) AFフレーム選択の敏感度

AF動作

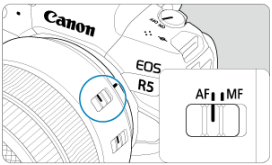
応用

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

動いている被写体を撮る：サーボAF

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2. ［AF：AF動作］を選ぶ

3. 項目を選ぶ

参考

- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。ワンショットAF時は、シャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、ピントが合いにくい撮影条件を参照してください。
- サーボAF時はピントが合わない場合も撮影されます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、ドライブモードの選択でご確認ください。

参考

- ［**：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、レンズの電子式手動フォーカスを参照してください。

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、ドライブモードの選択でご確認ください。
- ［A+］モードのとき、初期状態では、被写体の動きに応じて、自動的にサーボAFに切り換わります。

注意

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。

AF方式の選択

- AF方式 応用
- AF方式の選択 応用
- （顔）＋追尾優先AF： 応用
- 検出する被写体
- 瞳検出
- スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（）／領域拡大AF（周囲）／ゾーンAF／ラージゾーンAF（縦）／ラージゾーンAF（横） 応用
- 拡大表示
- AF撮影のヒント
- ピントが合いにくい撮影条件
- AF範囲

AF方式 応用

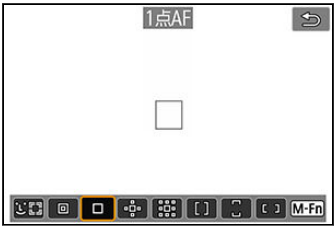
：＋追尾優先AF

人の顔、動物の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム［］が顔の部分に表示され、顔を追尾します。
顔を検知しないときは、AF領域全体で自動選択AFを行います。
サーボAFのときは、サーボAFを開始する位置を設定することができます（）。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

⊡：スポット1点AF

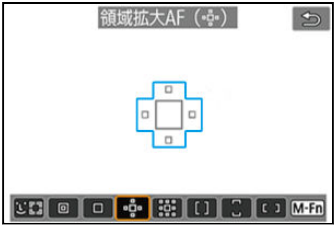
1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。

□：1点AF



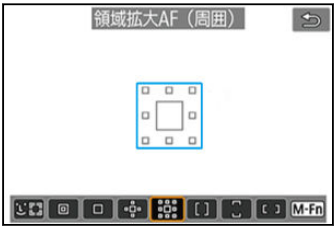
1つのAFフレーム［□］でピント合わせを行います。

：領域拡大AF（）



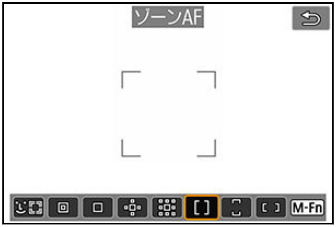
1つのAFフレーム［］を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。
サーボAFのときは、初めにAFフレーム［］で被写体を捉えます。

：領域拡大AF（周囲）



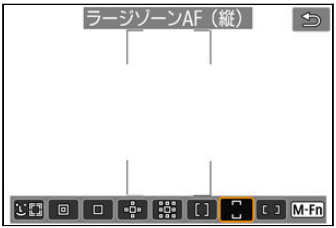
1つのAFフレーム［］を含む、青枠で囲んだAFフレームでピント合わせを行うため、領域拡大AF（）より、動きのある被写体を捉えやすくなります。サーボAF時の動作は、領域拡大AF（）と同じです。

[ ]：ゾーンAF



領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、領域拡大AFよりも被写体を捉えやすくなります。
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。
ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

⛶：ラージゾーンAF（縦）



ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、縦長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。
ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

[ ]：ラージゾーンAF（横）

ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、横長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。
ピントが合ったAFフレームは［□］で表示されます。

AF方式の選択

応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。
なお、手動でピント合わせを行いたいときは、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）を参照してください。

1. ［AF：AF方式］を選ぶ

2. AF方式を選ぶ

参考

- ［A+］モードのときは、［**+追尾優先AF**］に自動設定されます。
- 〈⊞〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押して、AF方式を設定することもできます。
- 以降の項目は、AF動作が［**ワンショットAF**］（）に設定されていることを前提に説明しています。［**サーボAF**］（）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。

（顔）＋追尾優先AF：

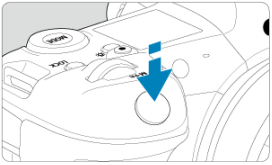
応用

人の顔、動物の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム［ ］も動いて顔を追尾します。
［**AF**：**瞳検出**］を［**する**］に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます（ ）。

1. AFフレームを確認する

- 人の顔、動物の顔を検知すると、AFフレーム［ ］が表示されます。
- 検知可能な対象が複数あるときは、〈 〉ボタンを押すと、AFフレームが［ ］に変わり、〈 〉でピントを合わせたい顔を選ぶことができます。〈 〉を操作すると、さらにAFフレームが［ ］に変わります。
- 画面をタッチして顔を選ぶこともできます。

2. ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
  ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。

参考

- 画面をタッチ、または〈✻〉を操作して、人の顔、動物の顔を任意選択したときは、AFフレームが［⌜ ⌟］に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。
- 追尾のロックを解除したいときは、［⌜ ⌟OFF］をタッチするか〈SET〉を押します。

注意

- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、［**ワンショットAF**］でピント合わせが行われます。
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（✎）、AFを行ってください。
- 人の顔、動物の顔または全身以外の被写体を検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 被写体が動物の場合、安定的に顔がこちらを向いていないときや、被写体との距離が遠いときは、顔を検知できません。AFフレームは全身に表示されます。
- 森の中の野鳥など、保護色の鳥などは検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

参考

- 被写体が人の場合、ピント合わせを行う［ ］が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

サーボAFの開始位置の設定

［AF：時のサーボAF開始測距点］が［自動］以外に設定されているときは（ ）、サーボAFの開始位置を任意に設定することができます。

1. AF方式を［+追尾優先AF］にする（ ）

2. AF動作を［サーボAF］にする（ ）

3. AFフレームを設定する

(1)

(2)

- エリアAFフレーム（1）とAFフレーム（2）が表示されます。
- 〈 〉ボタンを押したあと〈 〉でピントを合わせたい位置にAFフレームを移動するか、画面にタッチしてAFフレームを移動し、〈SET〉を押します。
- 〈 〉を操作中は、〈 〉を押すとAFフレームが画面中央に戻ります。
- AFフレーム設定後は、［ ］にタッチするか、〈SET〉を押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

検出する被写体

追尾による主被写体の自動選択条件を設定することができます。
AF方式が顔+追尾優先AF／ゾーンAF／ラージゾーンAF（縦）／ラージゾーンAF（横）のときに機能します。

- **人物**
  人物の顔・頭部を追尾する主被写体として優先します。
  人物の顔・頭部を検出できない場合は、人物の全身や体の一部で追尾する場合があります。

- **動物優先**
  動物（犬、猫、鳥）および人物を検出し、追尾する主被写体として動物の検出結果を優先します。
  動物は顔または全身が検出され、顔が検出されれば顔にAFフレームが付きます。
  動物の顔または全身を検出できない場合は、動物の体の一部で追尾する場合があります。

- **優先なし**
  検出した被写体情報をもとに、カメラが主被写体を自動選択します。

瞳検出

AF方式が［**+追尾優先AF**］のとき、人の目、動物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. ［AF：瞳検出］を選ぶ

2. ［する］を選ぶ

3. 被写体にカメラを向ける

- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 〈⊞〉ボタンを押すと、AFフレームが［⟨ ⟩］に変わり、〈✻〉でピントを合わせたい目を選ぶことができます。〈✻〉を操作すると、さらにAFフレームが［⟨ ⟩］に変わります。
- 画面をタッチして目を選ぶこともできます。
- 選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。

4. 撮影する

注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

参考

- 〈⊞〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても［**瞳検出：しない**］に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、［**瞳検出：する**］に設定することができます。

スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（⁘）／領域拡大AF（周囲）／ゾーンAF／ラージゾーンAF（縦）／ラージゾーンAF（横）

応用

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。

1. AFフレームを確認する

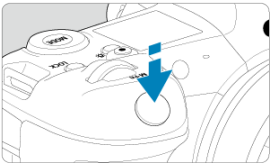
(1)

- AFフレーム（1）が表示されます。
- 領域拡大AF（⁘）、領域拡大AF（周囲）のときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）のときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2. AFフレームを移動する

- 〈⊞〉ボタンを押したあと〈✻〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動し〈SET〉を押します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
- 〈✻〉を操作中は、〈✻〉を押すとAFフレームが画面中央に戻ります。
- ピントを合わせたい位置にタッチして、ピントを合わせることもできます。
- ［⊡］にタッチするか、〈SET〉を押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

注意

- ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）で、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム［□］が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、［**ワンショットAF**］でピント合わせが行われます。

参考

- ［**AF：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、AFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（🔗）。

拡大表示

[**+追尾優先AF**] 以外のときに〈Q〉ボタンを押すと（または画面の［Q］をタッチすると）、映像を約6倍、約15倍に拡大してピントを確認することができます。

- ［**スポット1点AF**］［**1点AF**］［**領域拡大AF（⊞）**］［**領域拡大AF（周囲）**］設定時はAFフレームの位置、［**ゾーンAF**］［**ラージゾーンAF（縦）**］［**ラージゾーンAF（横）**］設定時は、ゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、［**スポット1点AF**］［**1点AF**］設定時は拡大表示のままAFが行われます。［**スポット1点AF**］［**1点AF**］以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

注意

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

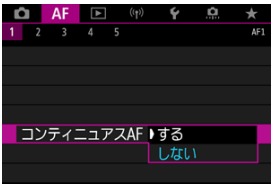
使用するレンズやアスペクト比、記録画質、4K動画、8K動画、動画クロップ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

コンティニュアスAF

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1. ［AF：コンティニュアスAF］を選ぶ

2. ［する］を選ぶ



注意

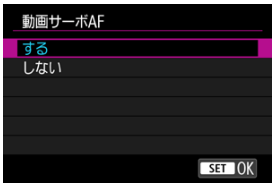
- ［**する**］設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

1. ［AF：動画サーボAF］を選ぶ

2. ［する］を選ぶ



- **する**

  - シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
  - 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の［SERVO AF］をタッチすると、動画サーボAF を一時的に停止することができます。
  - 動画サーボAF が停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF 方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAF が再開します。

- **しない**

  シャッターボタンを半押しするか、〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

注意

［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - ピントが合いにくい撮影条件も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（）が短くなります。
- 動画撮影中にAF 動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAF が一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり／遠ざかったり、カメラを上下／左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

タッチ&ドラッグAF設定

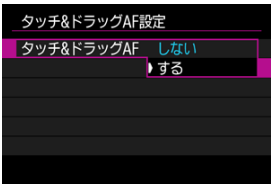
- タッチ&ドラッグAF
- 位置指定方法
- タッチ領域

ファインダーを見ながら画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレーム（またはゾーンAFフレーム）を移動することができます。

タッチ&ドラッグAF

1. **［AF：タッチ&ドラッグAF設定］を選ぶ**

2. **［タッチ&ドラッグAF］を選ぶ**



- ［**する**］を選びます。

位置指定方法

タッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定することができます。

1. ［位置指定方法］を設定する

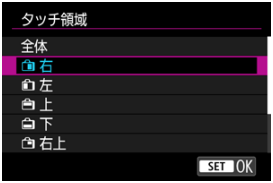
- **絶対位置**
  画面をタッチやドラッグした位置にAFフレームが移動します。

- **相対位置**
  画面の位置に関係なく、ドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動します。

タッチ領域

タッチの反応領域を設定することができます。

1. ［タッチ領域］を設定する



参考

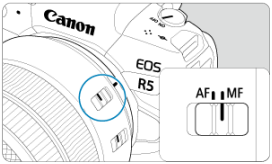
- ［**+追尾優先AF**］設定時は、画面をタッチすると、オレンジ色の丸い枠［〈〉］が表示されます。AFフレームを移動したい位置で指を離すと［⁞⁞］が表示され、その被写体を追尾します。〈SET〉を押すと、被写体の指定が解除されます。

手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

- MF ピーキング設定（輪郭強調）
- フォーカスガイド
- AF補助光の投光

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

2. 映像を拡大する

- 〈🔍〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ x6 → x15 → x1 ←

3. 拡大位置を移動する

- 〈✲〉を操作して、ピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈✲〉をまっすぐに押すか、または〈SET〉を押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

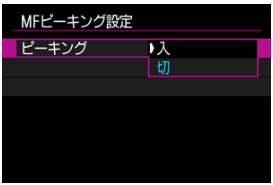
MFピーキング設定（輪郭強調）

応用

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

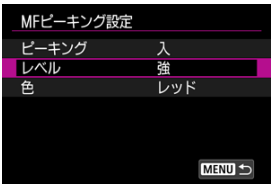
1. ［AF：MFピーキング設定］を選ぶ

2. ［ピーキング］を選ぶ



- ［入］を選びます。

3. ［レベル］、［色］を設定する



- 必要に応じて設定します。

注意

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、[**: HDMI接続時の表示**] で [+] を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[**ピーキング**] を [**切**] に設定してください。

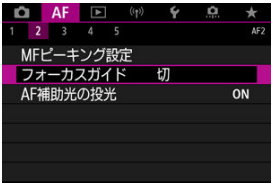
参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。
- Canon Log設定時は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて [**ビューアシスト**] を [**入**] に設定してください。

フォーカスガイド

［**フォーカスガイド**］を［**入**］にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。［**AF：AF方式**］が［**+追尾優先AF**］、［**AF：瞳検出**］が［**する**］に設定時、被写体の目を検出したときは、ガイド枠が主被写体と判断した顔の目の付近に表示されます。

1. ［AF：フォーカスガイド］を選ぶ



2. ［入］を選ぶ

- 〈⊞〉ボタンを押して、〈✳〉を操作すると、押した方向にガイド枠を移動することができます（［A+］モードを除く）。
- 〈✳〉を操作中は〈✳〉を押すと、ガイド枠が画面中央に戻ります。
- 〈✳〉を操作してガイド枠を移動した場合は、〈SET〉を押すと、ガイド枠が設定されます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動、設定することもできます。
- ［⊡］にタッチするか、〈SET〉を押すと、ガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（現在のフォーカス位置、調整量）は以下のとおりです。

無限方向調整量大　無限方向調整量小　合焦　至近方向調整量小　至近方向調整量大

調整情報検出不可

注意

- AFでピントが合いにくい撮影条件（）では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- 絞り数値が大きいほど、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
  - レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているとき
  - 拡大表示時
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

参考

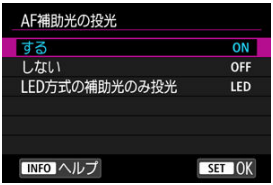
- 電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。

AF補助光の投光

カメラ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

1. ［AF補助光の投光］を選ぶ

2. 項目を選ぶ



- **［ON］する**
  必要に応じてAF補助光が投光されます。

- **［OFF］しない**
  AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

- **［LED］LED方式の補助光のみ投光**
  LEDライトを搭載した外部ストロボ使用時は、LEDライトによるAF補助光が投光されます。LEDライト非搭載のストロボ使用時は、カメラのAF補助光が投光されます。

注意

- 外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

サーボAF特性

応用

- 各ケースの内容
- Case1：汎用性の高い基本的な設定
- Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき
- Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき
- Case4：被写体が急加速/急減速するとき
- CaseA：被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき
- 各特性
- 各ケースの設定内容を変更する

撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case*」を選ぶだけで、被写体や撮影シーンに適したAIサーボAF／サーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。

1. ［AF3］タブを選ぶ

2. ケースを選ぶ

- 〈◎〉を回してケース（マーク）を選び、〈SET〉を押します。
- 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

各ケースの内容

「Case1」～「CaseA」は、「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」の組み合わせを5種類用意したものです。表の内容から、被写体や撮影シーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例
Case1		**汎用性の高い基本的な設定**	動きのある被写体全般
Case2		**障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき**	テニス、フリースタイルスキーなど
Case3		**急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき**	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど
Case4		**被写体が急加速/急減速するとき**	サッカー、新体操、モータースポーツ、バスケットボールなど
CaseA	AUTO	**被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき**	動きのある被写体全般で、特に撮影シーンがさまざまに変化するとき

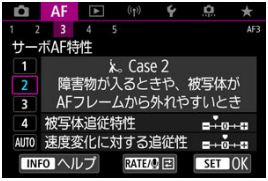
Case1：汎用性の高い基本的な設定

初期設定

- **被写体追従特性**：0
- **速度変化に対する追従性**：0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。
障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるときは、［**Case2**］～［**Case4**］を選んでください。

Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



初期設定

- **被写体追従特性**：**粘る**：−1
- **速度変化に対する追従性**：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

参考

- 障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、［**被写体追従特性**］を［**−2**］に設定すると、改善することがあります（）。

Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき

初期設定

- **被写体追従特性**：**俊敏**：+1
- **速度変化に対する追従性**：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

参考

- 急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、［**被写体追従特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（）。

Case4：被写体が急加速/急減速するとき

初期設定

- **被写体追従特性**：**俊敏**：0
- **速度変化に対する追従性**：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。
急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

参考

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（ ）。

CaseA：被写体の動きの変化に応じて追従特性を自動で切り換えたいとき

被写体の変化に応じた特性の設定をカメラまかせで撮影するときに有効です。
被写体追従特性、速度変化に対する追従性が自動設定されます。

被写体追従特性

サーボAFで測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
  標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

- **粘る：−2／粘る：−1**
  障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。
  その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

- **俊敏：+2／俊敏：+1**
  AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。
  その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

- **0**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

- **−2／−1**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。

- **+2／+1**
  急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。
  その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case4」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」を、任意に調整することができます。

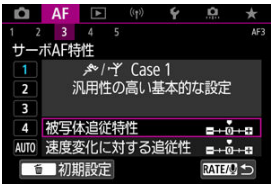
1. ケースを選ぶ

- 〈◎〉を回して調整したいケース（番号）を選びます。

2. 〈RATE〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。

3. 調整したい項目を選ぶ



4. 調整する

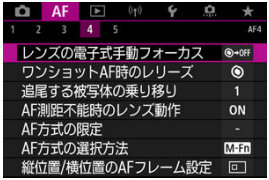
- 初期設定は［ ］の薄い灰色で表示されます。
- 調整確定後、〈SET〉を押します。
- 〈RATE〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

参考

- 手順2で〈RATE〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、ケースごとに①②の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに①②を登録することもできます（ ）。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

AF機能のカスタマイズ

- [AF4]
- [AF5]
- [AF3]（動画撮影時）

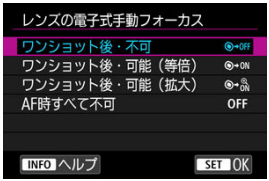


撮影スタイルや被写体に応じて、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

[AF4]

レンズの電子式手動フォーカス 応用

電子式の手動フォーカス機能を備えたEFレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



- **[OFF] ワンショット後・不可**
  AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

- **[ON] ワンショット後・可能（等倍）**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

● **［⊙→ON］ワンショット後・可能（拡大）**

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。

● **［OFF］AF時すべて不可**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

注意

● ［**ワンショット後・可能（拡大）**］設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に［🔍］が表示されてから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

参考

● お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

ワンショットAF時のレリーズ 応用

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます（タッチシャッター撮影時除く）。

- **［◎］ピント優先**
  ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

- **［□］レリーズ優先**
  ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
  ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

追尾する被写体の乗り移り 応用

追尾する被写体への測距点の乗り移りやすさを設定することができます。
AF方式が顔+追尾優先AF／ゾーンAF／ラージゾーンAF（縦）／ラージゾーンAF（横）のときに機能します。

- **しない**
  最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。

- **緩やか**
  最初にAF対象とした主被写体を、できる限り追尾し続けます。AFした被写体が主被写体と判定できなくなった場合、他の被写体に乗り移ります。

- **する**
  状況に応じて、追尾対象が他の被写体に乗り移ります。

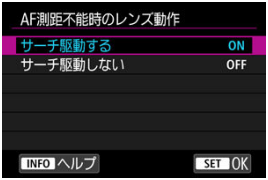
注意

［しない］設定時の注意事項

- 被写体の条件によっては、被写体を追尾し続けられない場合があります。
  - 被写体の動きが激しい場合
  - 被写体の向きや姿勢が変わった場合
  - AFフレームが被写体から外れたり、または被写体が障害物に隠れたりして、被写体を見失った場合
- タッチ操作で被写体を選択したときは、［**検出する被写体**］の設定にかかわらず、選択した被写体をできる限り追尾し続けます。

AF測距不能時のレンズ動作 応用

AFでピントが合わせられなかったときのレンズの動作を設定することができます。



- **[ON] サーチ駆動する**
  AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

- **[OFF] サーチ駆動しない**
  AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

注意

- 超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、[**サーチ駆動しない**] に設定することをおすすめします。

AF方式の限定 応用

AF方式の選択項目を、使用するAF方式だけに限定することができます。AF方式を選び、〈SET〉を押して［✓］を付けます。［**OK**］を選ぶと設定されます。なお、AF方式については、AF方式を参照してください。

注意

- ［**1点AF（任意選択）**］の［✓］を外すことはできません。

参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、［**AF：AF方式の限定**］の右端に「＊」が表示されます。

AF方式の選択方法 応用

AF方式の選択項目の切り換え方法を設定することができます。

- **[M-Fn] →M-Fnボタン**
  〈 〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押します。押すたびにAF方式が切り換わります。

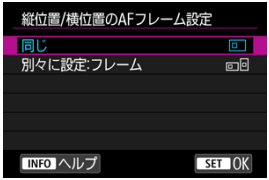
- **[ ] →メイン電子ダイヤル**
  〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉を回すと、AF方式が切り換わります。

参考

- [**→メイン電子ダイヤル**] 設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈 〉を操作してください。

縦位置/横位置のAFフレーム設定 応用

縦位置撮影と横位置撮影で、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を別々に設定することができます。



- **[□] 同じ**
  縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームが設定されます。

- **[□□] 別々に設定:フレーム**
  カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。
  ①②③のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

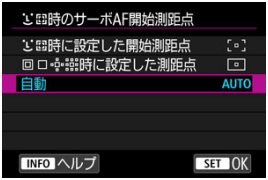
注意

- ［**：カメラの初期化**］で［**基本設定**］を選ぶと（）、設定が［**同じ**］になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AFで中央のAFフレームが選択された状態になります。
- 設定後に、レンズを交換すると、設定した内容が解除されることがあります。

[AF5]

時のサーボAF開始測距点 応用

AF方式を［**+追尾優先AF**］に設定したときに、どのAFフレーム（測距点）からサーボAFを開始するかを設定することができます。



- **時に設定した開始測距点**

  AF動作が［**サーボAF**］、AF方式が［**+追尾優先AF**］に設定されているときに、任意設定したAFフレームからサーボAFが始まります。

- **時に設定した測距点**

  スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）から、［**自動選択AF**］、または［**+追尾優先AF**］に切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからサーボAFが始まります。［**自動選択AF**］、または［**+追尾優先AF**］に切り換える前に設定していたAFフレームからサーボAFを開始したいときに有効です。

- **AUTO：自動**

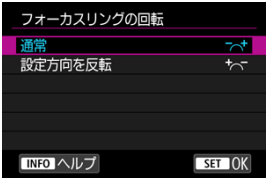
  撮影状況に応じてサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

参考

- ［**時に設定した測距点**］設定時に、AF方式をゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横） に切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからサーボAFが始まります。

フォーカスリングの回転

RFレンズのフォーカスリングの設定方向を反転させることができます。



- ［ ］**通常**
- ［ ］**設定方向を反転**

RFレンズ MF操作敏感度

RFレンズのフォーカスリングを操作するときの感度を設定することができます。

- **［ ］リングの回転速度に応じて変動**
  リングの回転速度により、感度が変わります。

- **［ ］リングの回転量に連動**
  リングの回転速度に関わらず、回転量に応じてピントが移動します。

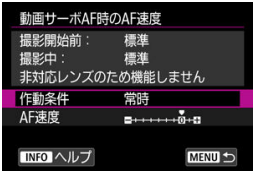
⁘AFフレーム選択の敏感度

AFフレームの移動をマルチコントローラーで行う際の操作敏感度を設定することができます。

動画サーボAF時のAF速度 応用

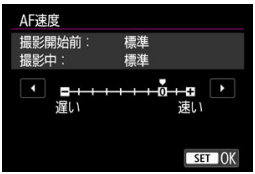
この機能は［**AF**：**動画サーボAF**］が［**する**］のときに設定することができます。
また、動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

● **作動条件**



設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。

● **AF速度**



作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

＊「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

注意

● 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

参考

- 機能しないときは、［**AF速度**］を［**標準（0）**］に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、［**AF：動画サーボAF時のAF速度**］の右端に「＊」が表示されます。

動画サーボAFの被写体追従特性 応用

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は［**AF：動画サーボAF**］が［**する**］のときに設定することができます。

- **粘る：-3/-2/-1**
  被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**
  AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

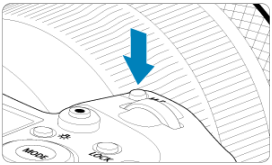
参考

- 機能しないときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）



- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

3. ドライブモードを選ぶ

- 〈◎〉を回して選びます。

- **［□］1枚撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

- **［□+］高速連続撮影＋**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約12コマ／秒**の連続撮影を行うことができます。

- **［□H］高速連続撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約8.0コマ／秒**（［📷：**シャッター方式**］を［**メカシャッター**］に設定したときは**最高約6.0コマ／秒**）の連続撮影を行うことができます。

- **［□L］低速連続撮影**
  シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ／秒**の連続撮影を行うことができます。

- **［⏲］セルフタイマー：10秒／リモコン撮影**

- **［⏲2］セルフタイマー：2秒／リモコン撮影**
  セルフタイマー撮影についてはセルフタイマー撮影、リモコン撮影についてはリモコン撮影を参照してください。

注意

- ［□］で連続撮影速度が約12コマ／秒となる条件は以下の通りです。
  - 常温（+23°C）
  - バッテリー残量（LP-E6NH）：約60%以上（バッテリーグリップ BG-R10（別売）使用時は、バッテリー残量約60%以上のLP-E6NH（2個））
  - シャッタースピード：1/1000秒以上
  - Wi-Fi接続：なし
  - フリッカー低減処理：なし
  - RFレンズシリーズおよび［□］に対応したEFレンズ*の絞り開放時

    ＊［□］に対応したEFレンズについては、12コマ／秒の連続撮影が可能なEFレンズを参照してください。
- ［□］［□H］の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により、以下のように変化します。

（約・コマ／秒）

アイコンの表示		緑	白	白（点滅）
［□］		12	9.2	6.8
［□H］	［電子先幕］時	8.0	6.0	4.9
	［メカシャッター］時	6.0	5.1	3.9

- 劣化したバッテリーでは、連続撮影速度が低下することがあります（）。
- ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10使用時は、約12コマ／秒で連続撮影を行うことはできません。
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、連続撮影速度が低下することがあります。
- ［：**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定して（）、フリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

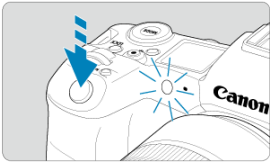
2. ドライブモードの項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

3. セルフタイマーを選ぶ

- 〈 〉を回して、セルフタイマーを選びます。
  ：10秒後に撮影
  2：2秒後に撮影

4. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

参考

- ［2］は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、〈SET〉を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

リモコン撮影

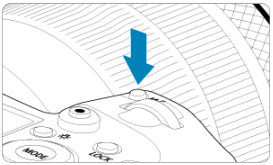
- リモートコントローラー RC-6
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1
- リモートスイッチ RS-80N3／TC-80N3

「リモートコントローラー RC-6」（別売／赤外線方式）、「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）、または「リモートスイッチ RS-80N3」（別売／有線）や「タイマーリモートコントローラー TC-80N3」（別売／有線）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

リモートコントローラー RC-6

カメラの正面から最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
「すぐに撮影（即レリーズ）」と「2秒後撮影（2秒後レリーズ）」ができます。

1. 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）

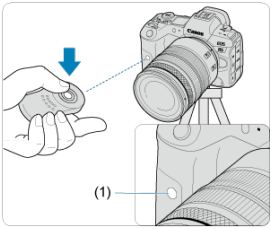


- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2. セルフタイマー／リモコンを選ぶ

- 〈◎〉を回して、ドライブモードの項目を選び、〈⚙〉で［⏱］または［⏱2］を選びます。

3. リモコンのレリーズ（送信）ボタンを押す



- リモコンの送信部をカメラの受信部（1）に向けて、レリーズ（送信）ボタンを押します。
- フォーカスモードスイッチが〈AF〉のときはピント合わせが行われます。
- リモコンランプが点灯して撮影されます。

注意

- カメラとスマートフォンまたはワイヤレスリモートコントローラーがBluetooth接続しているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。
- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。
- このカメラの周りで、他のカメラのストロボが発光すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。リモコン受信部に他のカメラのストロボ光が入らないようにしてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行ってから（）、静止画撮影時は、ドライブモードを［］または［］に設定してください（）。動画撮影時は、［：**リモコン撮影**］で［**する**］を選びます。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

参考

RC-6、BR-E1共通

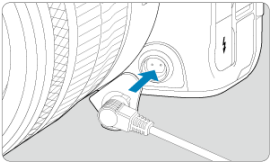
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にRC-6またはBR-E1を使用することもできます（）。

リモートスイッチ RS-80N3／TC-80N3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1. 端子カバーを開ける

2. リモコン端子にプラグを取り付ける



再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

注意

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。

- メニュー目次：再生タブ
- 画像の再生
- 画像の拡大表示
- インデックス表示（複数画像表示）
- 音声メモを記録／再生
- 動画の再生
- 動画の前後部分のカット
- 4K動画／8K動画からフレーム切り出し
- テレビで見る
- 画像プロテクト
- 画像消去
- 静止画の回転
- 動画の回転情報の変更
- レーティング
- 印刷指定／DPOF
- フォトブック指定
- 画像コピー
- RAW現像（RAW & DPRAW）
- DPRAW現像
- JPEG/HEIF画像のリサイズ
- JPEG/HEIF画像のトリミング
- HEIF画像をJPEG画像に変換
- スライドショー
- 画像検索の条件設定
- メイン電子ダイヤルでの画像送り
- メイン電子ダイヤルとサブ電子ダイヤル2の入れ換え
- RATE/音声ボタンの機能
- 再生する情報の設定

- ハイライト警告表示
- AF フレーム表示
- 再生時のグリッド
- 動画再生カウント
- HDMI HDR出力

メニュー目次：再生タブ

● 再生1

（1）画像プロテクト
（2）画像消去
（3）静止画の回転
（4）動画の回転情報の変更
（5）レーティング
（6）画像コピー

● 再生2

（1）印刷指定
（2）フォトブック指定

再生3

（1）RAW現像（RAW & DPRAW）
（2）DPRAW現像
（3）リサイズ
（4）トリミング
（5）HEIF→JPEG変換

注意

- ［A+］モードおよび［⁂］モードのときは、［▶：**RAW現像（RAW & DPRAW）**］［▶：**DPRAW現像**］［▶：**HEIF→JPEG変換**］は表示されません。

再生4

（1）スライドショー
（2）画像検索の条件設定
（3）拡大倍率設定（約）
（4）での画像送り
（5）との入れ換え
（6）RATE/ボタンの機能
（7）音声メモの音質

再生5

（1）再生情報表示設定
（2）ハイライト警告表示
（3）AFフレーム表示
（4）再生時のグリッド
（5）動画再生カウント
（6）HDMI HDR出力

画像の再生

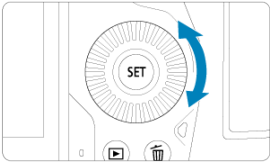
- 1枚表示
- 撮影情報表示
- タッチ再生

1枚表示

1. **画像を再生する**

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

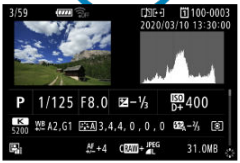
2. 画像を選ぶ



- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示



撮影情報表示

3. 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

参考

- ［**：静止画クロップ/アスペクト**］を［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］に設定して（）撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- ［**：画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（）、絞り込まれた画像だけが表示されます。

撮影情報表示

撮影情報表示の画面（）が表示されている状態で〈〉を上下に操作すると、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶：**再生情報表示設定**] で任意に設定することができます（）。

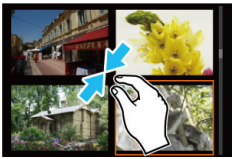
タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

画像送り

ジャンプ表示

インデックス表示



拡大表示

参考

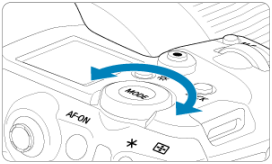
- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する

撮影した画像を拡大して表示することができます。

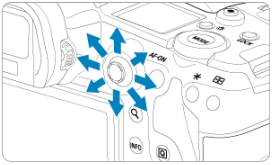
1. 画像を拡大する



- 〈 〉を右に回します。

- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置（1）と［ ］が表示されます。
- 〈 〉を右に回すたびに拡大します。
- 〈 〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（ ）になります。

2. 表示位置を移動する

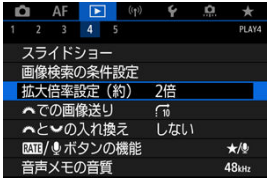


- 〈✻〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈MENU〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

参考

- 〈◎〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 動画は拡大表示できません。

拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する



［▶：**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの表示倍率、拡大位置を設定することができます。

● 2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）

選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。

● 等倍（任意選択合焦点から）

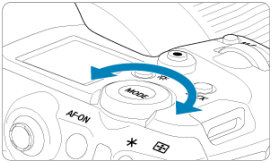
記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

● 前回と同じ倍率（中央から）

前回、〈▶〉〈🔍〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

インデックス表示（複数画像表示）

1. インデックス表示にする



- 画像を再生した状態で〈 〉を左に回します。

- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈 〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

2. 画像を選ぶ

- 〈✻〉または〈◎〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

音声メモを記録／再生

- 音声メモを記録
- 音声メモの音質
- 音声メモを再生

撮影した画像に音声メモを付加する（記録する）ことができます。音声メモは、画像と同じ画像番号で音声ファイル（WAV形式）として記録されます。カメラやパソコンなどで再生することができます。

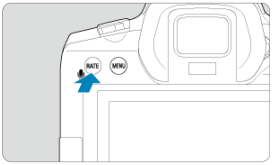
音声メモを記録

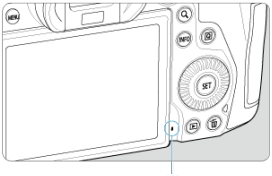
1. **画像を再生する**

2. **音声メモを付加する画像を選ぶ**

   - 〈◎〉を回して音声メモを付加する画像を選びます。

3. 音声メモを記録する





- 〈RATE〉ボタンを約2秒間押したままにします。
- ［**音声メモ記録中...**］が表示されたら、ボタンを押したまま、音声メモ用マイク（1）に向かって話します。一回に記録できる時間は最大約30秒です。
- 話し終わったら、ボタンから指を離します。
- 画面の上に［[♪]］が表示されます。

注意

- 動画やプロテクトされている画像に、音声メモを付加することはできません。
- 外部マイクで音声メモを記録することはできません。

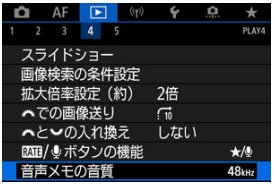
参考

- ［▶：**音声メモの音質**］で記録するときの音質を変更することができます。
- 30秒以上記録するときは、手順3を繰り返します。
- 撮影直後の画像表示中に、手順3の操作で1回だけ音声メモを記録することができます。
- FTPサーバーへの画像転送中も、再生画面から音声メモを画像に付加することができます。ただし、転送中の画像には付加できません。

音声メモの音質

音声メモを記録する際の音質を設定することができます。

1. [▶：音声メモの音質] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- **48kHz：高音質(48kHz)**
  動画撮影時と同じ高音質で音声メモを記録することができます。

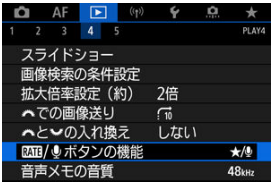
- **8kHz：低音質(8kHz)**
  [**高音質(48kHz)**] よりも音声メモのファイルサイズを小さくすることができます。

注意

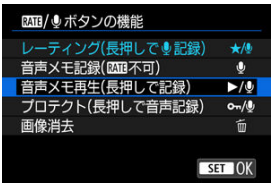
- すでに記録されている音声メモに追加記録するときは、ここで設定した内容に関わらず、先に記録されている音声メモと同じ音質で記録されます。

音声メモを再生

1. [▶：RATE/🎙ボタンの機能] を選ぶ



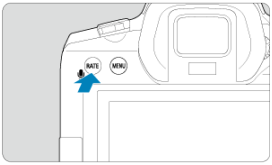
2. [音声メモ再生(長押しで記録)] を選ぶ

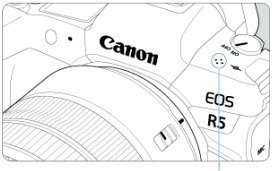


3. 音声メモを再生する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◎〉を回して画面の上に [♪] が表示されている画像を選びます。

4. 音声メモを再生する





(1) スピーカー

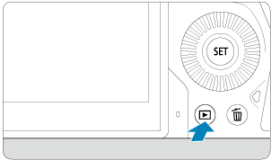
- 〈RATE〉ボタンを押すと、音声メモが再生されます。
- 〈 〉を回すと、音量を調整することができます。
- 再生を中止するときは、〈RATE〉ボタンを押します。

参考

- 画像に複数の音声メモが付加されているときは、連続して再生されます。
- 画像に付加した音声メモだけを、このカメラで消去することはできません。
- 画像を消去すると（ ）、その画像に付加されている音声メモも消去されます。

動画の再生

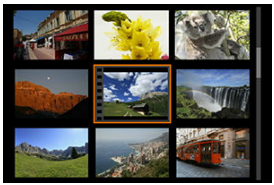
1. 画像を再生する



- 〈▶〉ボタンを押します。

2. 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像が動画です。

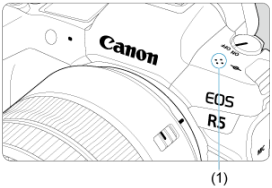


- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

4. 〈SET〉を押して動画を再生する

- 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈☼〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。



(1) スピーカー

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ **再生**	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
|▶ スロー再生	〈◎〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
|◀ 前スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒戻します。
◀|| フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
||▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
▶| 次スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します（✎）。
フレーム切り出し	8Kまたは4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像／HEIF画像）として保存することができます（✎）。
▬	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒／［**動画再生カウント**：**記録時間**］設定時）
hh:mm:ss.ff（DF） **hh:mm:ss:ff**（NDF）	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント**：**タイムコード**］設定時）
音量	〈☼〉を回すと、内蔵スピーカー（✎）またはヘッドフォンの音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（✎）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈☼〉を回しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

動画の前後部分のカット

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1. **1枚表示の状態で〈SET〉を押す**

2. **動画再生パネルで［✂］を選ぶ**

3. 削除する範囲を指定する

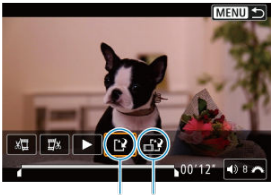
- ［✂］（前部を削除）か、［✂］（後部を削除）を選びます。

- 〈✳〉を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。〈◎〉を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する

- ［▶］を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

5. 保存する



- [ ]（1）を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選びます。
  [ ]（2）を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画、8K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

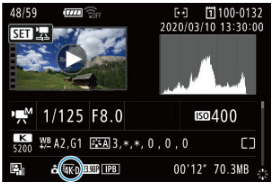
注意

- 約1秒単位（画面下部に［ ］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- ［**HDR撮影 HDR PQ**］［**する**］、［**Canon Log**］［**入**］で撮影した動画、動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）/FHD 25.00P IPB（PAL）、4K·D/8K·Dの動画は、圧縮して新規保存はできません。

4K動画／8K動画からフレーム切り出し

4K動画、または8K動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像、HEIF画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し」と言います。

1. 4K動画または8K動画を選ぶ



- 〈◎〉を回して4K画質、または8K画質で撮影した動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面（）で［4K-D］［4K-U］［4K-U Fine］と表示されている画像が4K動画、［8K-D］［8K-U］と表示されている画像が8K動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

2. 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

- 動画再生パネルが表示されます。

3. 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、動画再生パネルを参照してください。

4. ［ ］を選ぶ

5. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。
  HDR動画ファイルをフレーム切り出しした場合はHEIF画像で保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

6. 表示する画像を選ぶ

- ［**元の動画**］または［**切り出した静止画**］を選びます。

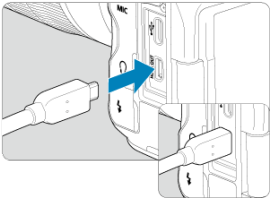
注意

- 下記の4K動画、または8K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
  - RAW動画
  - ［ : **Canon Log設定**］を［**入**］に設定して撮影した動画
  - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

テレビで見る

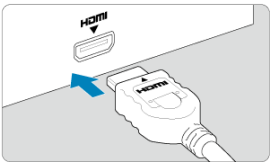
カメラとテレビを市販のHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。
なお、**テレビに映像が表示されないときは、［：ビデオ方式］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください**（テレビが対応している方式に合わせてください）。

1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- HDMIケーブルを、カメラの〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

2. テレビにHDMIケーブルを接続する

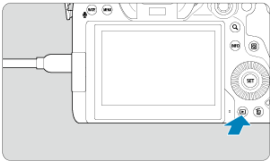


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4. カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5. 〈▶〉ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、［**：HDMI出力解像度**］を［**1080p**］に設定してください（）。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

画像プロテクト

- メニューから1枚ずつプロテクト
- 範囲を指定してプロテクト
- フォルダ内／カード内全画像プロテクト

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

注意

- カードを初期化すると（）、プロテクトされた画像も消去されます。

参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

メニューから1枚ずつプロテクト

1. **［▶：画像プロテクト］を選ぶ**

2. ［画像を選択］を選ぶ

3. プロテクトする画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に［⊶］（1）が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され［⊶］が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

参考

- ［▶：RATE/🎙ボタンの機能］で［**プロテクト(長押しで音声記録)**］が割り当てられているときは（⊶）、画像を再生しながら〈RATE〉ボタンで1枚ずつ画像をプロテクトすることができます。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ

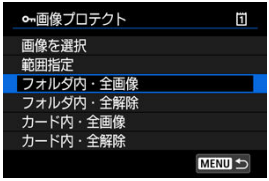
- ［▶：**画像プロテクト**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、［⊶］が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- ［▶：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］［**検索結果・全解除**］に変わります。

- ［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- ［**検索結果・全解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

画像消去

- 1枚ずつ消去
- チェック［✓］を付けてまとめて消去
- 範囲を指定して消去
- フォルダ内／カード内全画像消去

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（⊘）をかけた画像は消去されません。

注意

- **消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。**

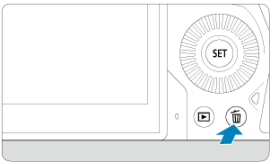
1枚ずつ消去

1. **〈▶〉ボタンを押す**

2. **消去する画像を選ぶ**

   - 〈◎〉を回して消去する画像を選びます。

3. **〈🗑〉ボタンを押す**



4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画

- ［**消去**］を選びます。

RAW＋JPEG画像／RAW+HEIF画像

- 項目を選びます。

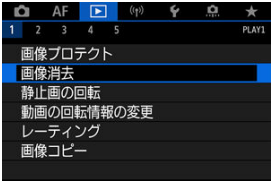
参考

- ［▶：RATE/🎙**ボタンの機能**］で［**画像消去**］が割り当てられているときは（🗑）、画像を再生しながら〈RATE〉ボタンで1枚ずつ画像消去することができます。

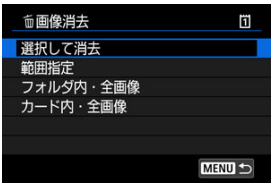
チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. **［▶：画像消去］を選ぶ**



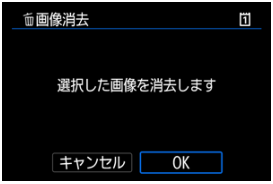
2. **［選択して消去］を選ぶ**



3. **画像を選ぶ**

- 〈◎〉を回して消去する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4. 消去する

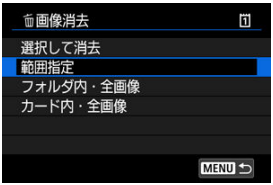


- 〈Q〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ



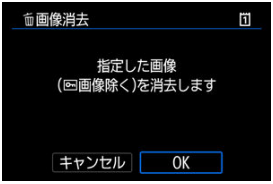
- ［▶：**画像消去**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈Q〉ボタンを押す

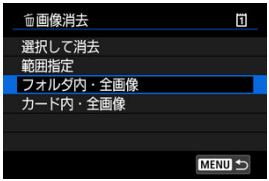
4. 消去する



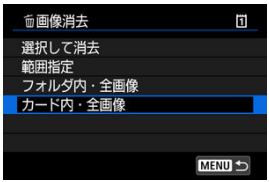
- ［**OK**］を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- ［▶：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（✎）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］に変わります。



- ［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

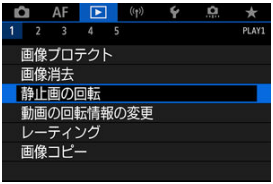
参考

- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（✎）。

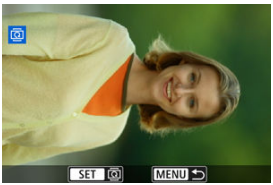
静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

1. ［▶：静止画の回転］を選ぶ

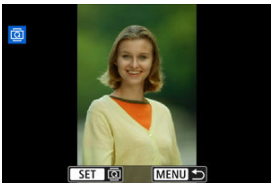


2. 回転させる画像を選ぶ



- 〈◎〉を回して画像を選びます。

3. 回転させる



- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

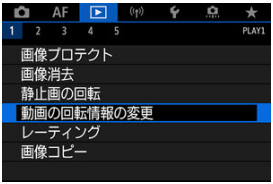
参考

- ［**：縦位置画像回転表示**］を［**する**］（）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、［**：縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定します。
- 動画は回転できません。

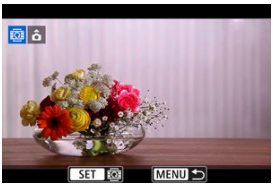
動画の回転情報の変更

動画再生時の回転情報（上の向きの情報）を手動で書き換えることができます。

1. ［▶：動画の回転情報の変更］を選ぶ

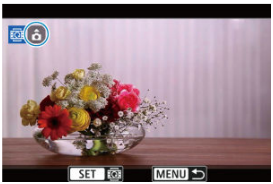


2. 動画を選ぶ



- 〈◎〉を回して回転情報を変更する動画を選びます。

3. 回転情報を変更する



- 画面左上に表示されるカメラと▲を見ながら、〈SET〉を押して、上の向きを設定します。〈SET〉を押すたびに［⌂］→［⌂］→［⌂］の順に動画の回転情報が書き換わります。

注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、［🔧：🎥**縦位置情報の付加**］（🔗）の設定に関わらず、横位置で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、動画の回転情報の書き換えはできません。

レーティング

〈RATE〉ボタンで1枚ずつレーティング

メニューから1枚ずつレーティング

範囲を指定してレーティング

フォルダ内／カード内全画像レーティング

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[••]/[•••]/[••••]/[•••••]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。
＊レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

〈RATE〉ボタンで1枚ずつレーティング

1. レーティングする画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◎〉を回してレーティングする画像を選びます。

2. レーティングを設定する

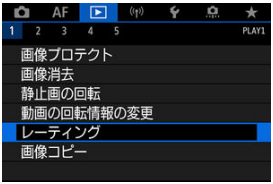
- 〈RATE〉ボタンを押すと、画像がレーティングに設定され、画面にガイダンスが表示されます。
- 他にもレーティングを設定したい画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

参考

- ［▶：RATE/🎙**ボタンの機能**］［**レーティング（長押しで🎙記録）**］の詳細設定で使用するレーティングを選択することができます。

メニューから1枚ずつレーティング

1. **[▶：レーティング] を選ぶ**



2. **[画像を選択] を選ぶ**

3. **レーティングする画像を選ぶ**

- 〈◎〉を回してレーティングする画像を選びます。

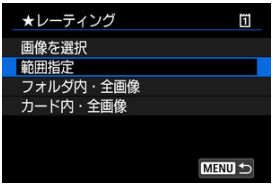
4. レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈◎〉を回してお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ



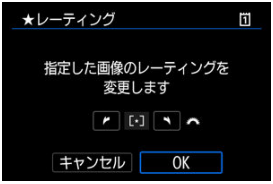
- ［▶：**レーティング**］の［**範囲指定**］を選びます。

2. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
  始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。

3. 〈Q〉ボタンを押す

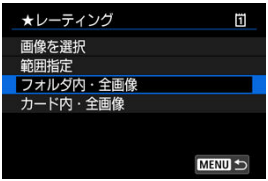
4. レーティングを設定する



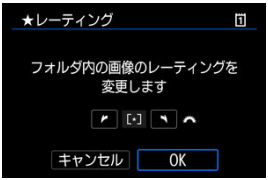
- 〈 〉でお気に入りマークを選び、［**OK**］を選びます。
  指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

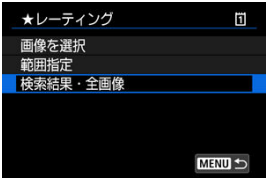
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- ［▶：**レーティング**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- 〈 〉でレーティングを選び、［**OK**］を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは［OFF］を選びます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（ ）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］に変わります。



- ［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると［＃＃＃］と表示されます。
- ［▶：**画像検索の条件設定**］［▶：**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

画像コピー

- 1枚ずつコピー
- 範囲を指定してコピー
- フォルダ内／カード内全画像コピー

カードに記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることもできます。

注意

- コピー先のフォルダ／カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、[**スキップしてコピー**] [**上書きコピー**] [**コピー中止**] が表示されます。コピー方法を選んで〈SET〉を押します。
  - [**スキップしてコピー**]：画像番号が重複する画像だけコピーされません
  - [**上書きコピー**]：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）

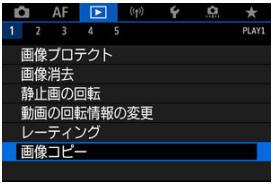
  なお、印刷指定（）されている画像に対して上書きコピーを行ったときは、再度印刷指定を行ってください。
- 印刷指定情報、画像転送情報はコピーされません。
- コピー実行中は撮影できません。[**キャンセル**] を選んでから撮影してください。

参考

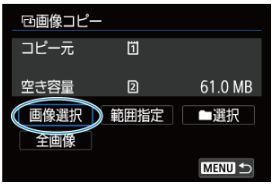
- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- [**画像選択**] のときに、複数フォルダ内の画像を同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- 音声メモが付加されている画像は、音声メモもコピーされます。

1枚ずつコピー

1. **[▶：画像コピー] を選ぶ**

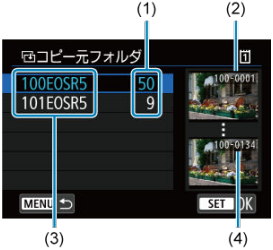


2. **[画像選択] を選ぶ**



- コピー元のカード番号、コピー先のカード番号と空き容量を確認します。
- [**画像選択**] を選び、〈SET〉を押します。

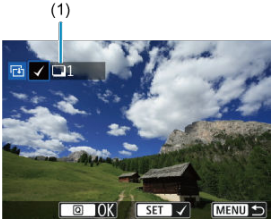
3. フォルダを選ぶ



(1) フォルダ内画像数
(2) 最小番号画像
(3) フォルダ名
(4) 最大番号画像

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

4. コピーする画像を選ぶ

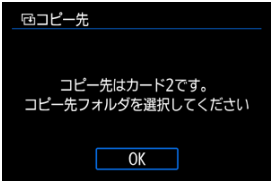


(1) 総指定枚数

- 〈◎〉を回してコピーする画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5. 〈Q〉ボタンを押す

6. ［OK］を選ぶ

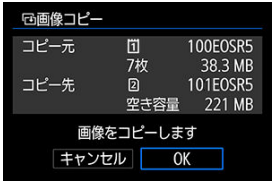


- コピー先のカードを確認して［**OK**］を選びます。

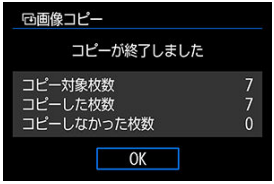
7. コピー先のフォルダを選ぶ

- 画像をコピー保存するフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- ［**フォルダ作成**］を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。

8. ［OK］を選ぶ



- コピー元とコピー先の情報を確認して［**OK**］を選びます。

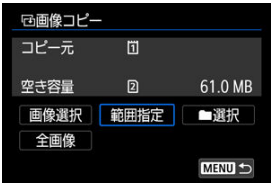


- コピーが終了すると、結果が表示されます。［**OK**］を選ぶと手順2の画面に戻ります。

範囲を指定してコピー

インデックス表示された画像を見ながら、コピーする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてコピーすることができます。

1. ［範囲指定］を選ぶ



2. フォルダを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈SET〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

3. 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順3を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像コピー

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。
［▶：**画像コピー**］の［■**選択**］または［**全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。

印刷指定／DPOF

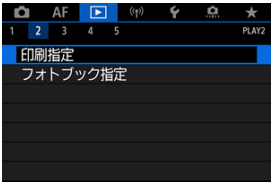
印刷内容の設定

印刷する画像の指定

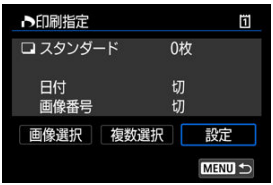
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1. **［▶：印刷指定］を選ぶ**



2. **［設定］を選ぶ**

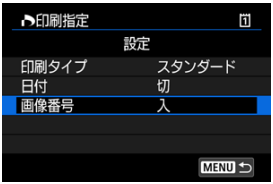


3. 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

印刷タイプ		**スタンダード**	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	**入**	［**入**］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	**入**	［**入**］にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する



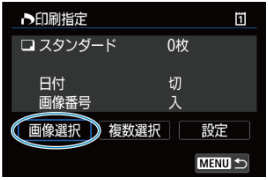
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**複数選択**］で、印刷する画像を指定します。

注意

- 画像サイズが大きい画像を［**インデックス**］［**両方**］の設定で印刷すると（）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（）インデックス印刷を行ってください。
- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

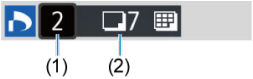
印刷する画像の指定

画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方



（1）指定枚数
（2）総指定枚数

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

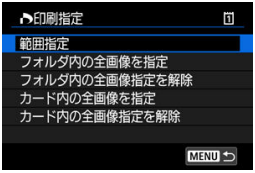
● インデックス

（3）チェックマーク
（4）インデックスマーク

〈SET〉を押して［✓］を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

複数選択

● 範囲指定



［**複数選択**］の［**範囲指定**］を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（）、［**複数選択**］を選んだときに、表示される内容が［**検索結果の全画像を指定**］［**検索結果の全画像の指定解除**］に変わります。

● 検索結果の全画像

［**検索結果の全画像を指定**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
［**検索結果の全画像の指定解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

注意

- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、［**複数選択**］でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。

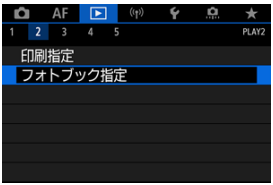
フォトブック指定

- メニューから1枚ずつ指定
- 範囲を指定してフォトブック指定
- フォルダ内／カード内全画像指定

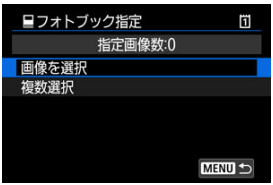
フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

メニューから1枚ずつ指定

1. **［▶：フォトブック指定］を選ぶ**



2. **［画像を選択］を選ぶ**



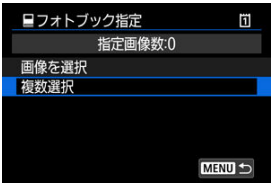
3. 指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉で指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

範囲を指定してフォトブック指定

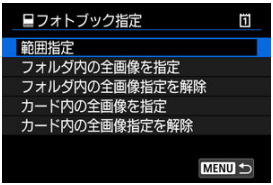
インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。

1. ［複数選択］を選ぶ



- ［▶：**フォトブック指定**］の［**複数選択**］を選びます。

2. ［範囲指定］を選ぶ

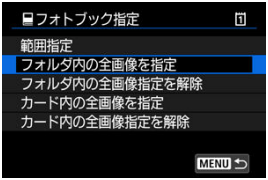


3. 範囲を指定する

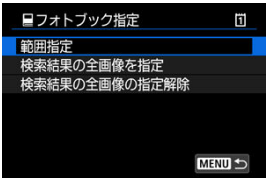
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
  始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



［▶：**フォトブック指定**］の［**複数選択**］で［**フォルダ内の全画像を指定**］または［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは［**フォルダ内の全画像指定を解除**］または［**カード内の全画像指定を解除**］を選びます。
［▶：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（）、［**複数選択**］を選んだときに、表示される内容が［**検索結果の全画像を指定**］［**検索結果の全画像の指定解除**］に変わります。



［**検索結果の全画像を指定**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
［**検索結果の全画像の指定解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

注意

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、［**複数選択**］でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW 画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

RAW現像（RAW & DPRAW）

拡大表示

アスペクト比を設定した画像の現像

現像処理の項目

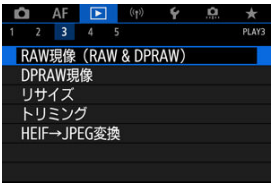
RAWまたはCRAWで撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像やHEIF画像を作ることができます。
RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

注意

- 多重露出、拡張ISO感度（L、H）、電子シャッターで撮影したRAW、CRAWはHEIFに現像できません。

---

1. **[▶：RAW現像（RAW & DPRAW）] を選ぶ**



2. 項目を選び、画像を選択する

- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択

- 〈◎〉を回して現像する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押します。

範囲指定

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。

3. 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。
- ［📷：**HDR PQ設定**］を［**する**］に設定して撮影した画像はHEIFに、［**しない**］に設定して撮影した画像はJPEGに現像されます。

細かく設定してJPEGに現像／細かく設定してHEIFに現像

- 〈☼〉で項目を選びます。
- 〈⚙〉〈◎〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈SET〉を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

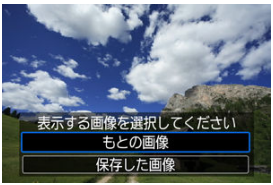
比較画面について

- 〈INFO〉ボタンを押して〈◎〉を回すと、［**変更後**］と［**撮影時設定**］を切り換えることができます。
- ［**変更後**］のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、現像条件の設定画面に戻ります。

4. 保存する

- ［**細かく設定してJPEGに現像**］［**細かく設定してHEIFに現像**］のときは［[⇲]（保存）を選びます。
- 内容を確認し、［**OK**］を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは［**はい**］を選び、手順2～4を繰り返します。

5. 表示する画像を選ぶ



- ［**もとの画像**］または［**保存した画像**］を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

拡大表示

［**細かく設定してJPEGに現像**］［**細かく設定してHEIFに現像**］を選んだあと、表示された画面で〈🔍〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、［**記録画質**］の設定により異なります。〈✲〉で拡大表示位置を変えることができます。
もう一度〈🔍〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

注意

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**強め**］に設定して現像を行ったときの効果は、拡大表示時のみ反映されます。通常表示には反映されません。

アスペクト比を設定した画像の現像

［**静止画クロップ/アスペクト**］（）を［**1:1（アスペクト）**］［**4:3（アスペクト）**］［**16:9（アスペクト）**］に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像やHEIF画像が作られます。

現像処理の項目

☀±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

AWB ホワイトバランス（）

ホワイトバランスを選ぶことができます。［AWB］を選んだときは、［**オート(雰囲気優先)**］［**オート(ホワイト優先)**］を選ぶことができます。［K］を選んだときは、色温度を設定することができます。

PICS ピクチャースタイル（）

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は［A］［1］［2］［3］は選択できません。

±0 明瞭度（）

明瞭度を、-4～+4の範囲で変更することができます。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は選択できません。

オートライティングオプティマイザ（）＋ 顔ライティング補正

オートライティングオプティマイザの内容を設定します。顔ライティング補正は、顔のライティングを自動で最適に補正し、斜光やストロボ照射画像を効果的に補正することができます。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は選択できません。

注意

顔ライティング補正設定時

- 顔の詳細な検出ができないときや、顔が暗すぎるときなど、撮影シーンによっては適切な補正ができない場合があります。
- ノイズが増えることがあります。
- 高いISO感度において補正効果が弱まることがあります。

NR 高感度撮影時のノイズ低減（）

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

● 記録画質（）

JPEG画像、HEIF画像は生成する際の記録画質を設定することができます。

● sRGB 色空間（）

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

＊［**細かく設定してHEIFに現像**］設定時は［HDR PQ］が表示されますが、選択はできません。

● レンズ光学補正

● OFF 周辺光量補正（）

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（）で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF 歪曲収差補正（）

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● OFF デジタルレンズオプティマイザ（）

レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。［**強め**］［**標準**］設定時の効果は拡大表示（）で確認してください。［**強め**］設定時に画像全体を表示しているときは、デジタルレンズオプティマイザの効果は反映されません。なお、［**強め**］［**標準**］を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに［**する**］で現像されます。

● OFF 色収差補正（）

レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

- **回折補正（）**

  レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（）で確認してください。

注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**明るさ補正**］を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、撮影条件により画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］を［**強め**］に設定しているときは、現像に時間がかかります。

参考

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- RAW動画の現像はできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください。

DPRAW現像

ポートレートリライティング

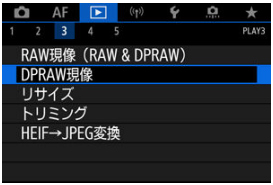
背景明瞭度

DPRAW撮影（）をした画像をカメラでRAW現像（）するときに、デュアルピクセル情報や顔の詳細情報を利用して画像補正を行うことができます。

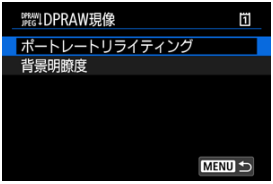
ポートレートリライティング

人物を撮影したときの斜光や光量不足などを、仮想光源を当てることで補正することができます。
オートライティングオプティマイザの顔ライティング補正は顔領域のライティングを自動で補正する機能ですが、ポートレートリライティングは手動でライティングを補正する機能です。顔だけではなく、体なども補正できます。

1. [▶：DPRAW現像] を選ぶ



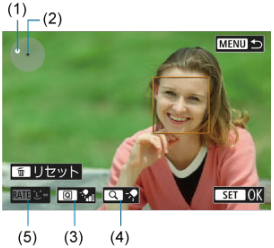
2. ［ポートレートリライティング］を選ぶ



- 〈◎〉を回して補正する画像を選び、〈SET〉を押します。

3. 画像を補正する

- ［OFF］を選び、〈SET〉を押します。



- 画像を補正し、〈SET〉を押します。
  (1)〈☼〉で光源の位置を調整します。
  (2) は選択した顔の位置を示しています。(1) を調整することで照射方向を調整します。(1) と (2) が重なったときは、顔の正面から照射されていることを示しています。
  画面を指で触って動かして、照射方向を調整することもできます。
  (3)〈Q〉ボタンを押して、照射強度（弱／標準／強）を設定します。
  (4)〈🔍〉ボタンを押して、照射範囲（狭／標準／広）を設定します。
  (5) 複数の人物を撮影したときは、〈RATE〉ボタンを押して、〈◎〉で補正したい顔を選択し、現像条件を設定することができます。画面にタッチして、顔を選択することもできます。

比較画面について

- ［INFO］ボタンを押して〈◎〉を回すと、［**変更後**］と［**撮影時設定**］を切り換えることができます。

- ［**変更後**］のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。

注意

- 最大10人の中から選択することができます。
- 顔が小さすぎたり、顔の詳細情報が取得できない場合や、画面周辺に顔がある場合は選択できません。

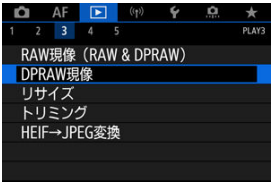
4. 保存する

- ［[?]（保存）を選び、内容を確認し［**OK**］を選びます。

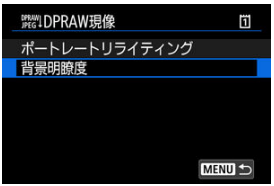
背景明瞭度

人物と風景を撮影したときに、かすんでしまった背景に対して、明瞭度の強さを0～+4の範囲で設定することができます。
RAW現像時の明瞭度では、画像エッジ部のコントラストの強さを、-4～+4の範囲で設定することができます。

1. ［▶：DPRAW現像］を選ぶ



2. ［背景明瞭度］を選ぶ



- 〈 〉を回して補正する画像を選び、〈SET〉を押します。

3. 画像を補正する

- 〈 0〉を選び、〈SET〉を押します。
- 〈 0〉を選んだ状態で〈SET〉を押さずに、〈 〉、または〈◎〉で強さを選ぶことができます。

- 〈 〉または〈◎〉を回して、強さを選び、〈SET〉を押します。

比較画面について

- ［INFO］ボタンを押して〈◎〉を回すと、［**変更後**］と［**撮影時設定**］を切り換えることができます。
- ［**変更後**］のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。

4. 保存する

- ［[?]（保存）を選び、内容を確認し［**OK**］を選びます。

参考

- ［**ポートレートリライティング**］［**背景明瞭度**］以外の設定は［▶：**RAW現像**］の項目に準じて設定ができます（🔗）。

注意

ポートレートリライティング・背景明瞭度共通

- HEIF画像への現像はできません。
- 補正中に画像拡大表示はできません。
- 顔の詳細情報が取得できない画像は選択できません。なるべく顔を大きく、顔が正面になるように撮影することをお勧めします。
- ポートレートリライティングと背景明瞭度の重ねがけはできません。

ポートレートリライティング

- 縦画像でも横向きで表示されます。
- プレビュー画面と現像結果が異なることがあります。現像後の画像を確認してください。
- 選択した被写体以外に所望でない領域が補正されている場合は、補正領域を狭くすることで軽減できます。
- 選択した被写体と近い距離にある被写体に補正がかかることがあります。光源照射範囲を狭くすることで軽減できます。

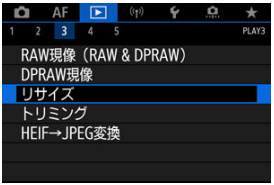
背景明瞭度

- 背景のボケが大きい画像は背景明瞭度の効果が出にくいことがあります。背景のぼかし量をコントロールするためにはAv：絞り優先AEを参照してください。
- 明るい領域と暗い領域が隣接したような被写体の場合、帯状の縁取りが見える場合があります。補正強度を下げることで回避できます。
- 背景以外にも補正がかかることがあります。

JPEG/HEIF画像のリサイズ

撮影したJPEG画像、HEIF画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、S2以外のL、M、S1のJPEG/HEIF（RAW＋JPEG/RAW＋HEIFも含む）で撮影した画像で行うことができます。S2、RAWで撮影した画像や動画は、リサイズできません。

1. [▶：リサイズ] を選ぶ



2. 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してリサイズする画像を選びます。

3. 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ（1）を選びます。

4. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

JPEG/HEIF画像のトリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEG/HEIFで撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像や、4K動画、8K動画から切り出しした画像は、トリミングできません。

1. [▶：トリミング] を選ぶ

2. 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してトリミングする画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、トリミング枠が表示されます。

3. トリミング枠の設定を行う

- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

- **枠の大きさを変える**

  〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

- **傾きを補正する**

  ±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈◎〉を回して［ ］を選び、〈SET〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈◎〉を回す（0.1°単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。

- **枠のアスペクト比と縦横を変える**

  〈◎〉を回して［ ］を選びます。〈SET〉を押すたびに、枠のアスペクト比が変わります。

- **枠を移動する**

  〈※〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。

4. トリミング範囲を確認する

- 〈◎〉を回して［ ］を選び、〈SET〉を押します。トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する

- 〈◎〉を回して［⇲］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**OK**］を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

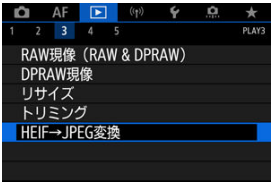
注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（⊘）、ダストデリートデータ（⊘）は付加されません。
- 選択できるアスペクト比は、［▶：**トリミング**］と［📷：**トリミング情報の付加**］で異なります。

HEIF画像をJPEG画像に変換

HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。

1. [▶：HEIF→JPEG変換] を選ぶ



2. 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してJPEGに変換するHEIF画像を選びます。
- 〈SET〉を押すと、JPEGに変換処理されます。

3. 保存する

- ［**OK**］を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
  - 保存先のフォルダと画像番号を確認して［**OK**］を選びます。
  - 他に変換したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

参考

- シーンによっては、（元画像と変換した画像を比べたときに）印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画や8K動画からフレーム切り出しした画像は変換できません。

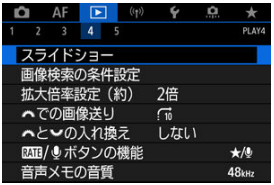
スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶ : **画像検索の条件設定**] で絞り込みます（ ）。

2. [▶ : スライドショー] を選ぶ

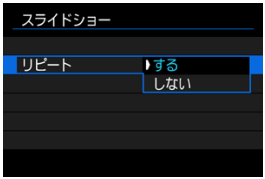


3. 再生内容を設定する

- ［**設定**］を選びます。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

再生間隔

リピート



4. スライドショーを開始する

- ［**スタート**］を選びます。
- ［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

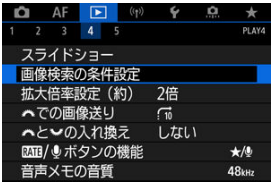
- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面左上に［❚❚］が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（）。
- 動画再生中に〈〉を回すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

検索条件の解除

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. ［▶：画像検索の条件設定］を選ぶ



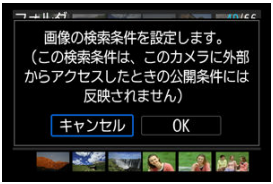
2. 検索条件を設定する

(1)

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈⚙〉を回して内容を設定します。
- 項目の左端に［✓］（1）が付きます（検索条件として指定されます）。
- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、［✓］が消えます（指定が解除されます）。

項目	内容
★ レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
日付	選択した撮影日の画像を表示します。
フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
ファイルの種類2	

3. 検索条件を確定する



- 〈SET〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- ［**OK**］を選びます。
  検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する

(2)

- 〈▶〉ボタンを押します。
  検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
  絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順3で〈SET〉は押せません。

参考

- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶：**画像検索の条件設定**] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

検索条件の解除

手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

メイン電子ダイヤルでの画像送り

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。

1. ［▶：での画像送り］を選ぶ

2. ジャンプ方法を選ぶ

参考

- ［**指定した枚数ごとに画像を表示**］を選んだときは、〈 〉でジャンプする枚数を設定します。
- ［**指定したレーティングの画像を表示**］を選んだときは、〈 〉でレーティング（ ）を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

3. 画像送りをする

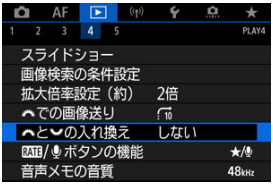
（1）ジャンプ方法
（2）再生位置

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で〈 〉を回します。
  設定した方法でジャンプ表示が行われます。

メイン電子ダイヤルとサブ電子ダイヤル2の入れ換え

画像再生画面におけるダイヤルの割り当て機能を入れ換えることができます。

1. **[▶：⌃と⌄の入れ換え] を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

- **[しない]**
  ダイヤルでの画像送り
  拡大/インデックス表示

- **[する]**
  拡大/インデックス表示
  ダイヤルでの画像送り

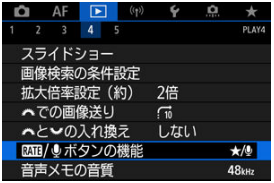
参考

- 設定値に合わせ、メニュー画面、クイック設定画面、拡大／縮小画面などに表示されるアイコンも切り換わります。

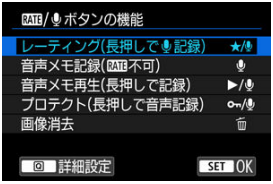
RATE/音声ボタンの機能

〈RATE〉ボタンに、画像のレーティング設定、プロテクト設定、音声メモ記録／再生、画像消去を割り当てることができます。

1. **［▶：RATE/🎙ボタンの機能］を選ぶ**



2. 項目を選ぶ



- **★/🎙：レーティング（長押しで🎙記録）**
  〈RATE〉ボタンにレーティングが割り当てられます。（初期設定）
  なお、〈Q〉ボタンを押すと使用するレーティングを選択することができます。
  画像再生時に〈RATE〉ボタンを押してレーティングの設定、解除ができます。また、長押し（2秒）して音声メモ記録を開始することができます。

- **🎙：音声メモ記録（RATE不可）**
  〈RATE〉ボタンに音声メモ記録が割り当てられます。
  画像再生時に〈RATE〉ボタンを押して音声メモ記録を開始することができます。

- **▶/🎙：音声メモ再生（長押しで記録）**
  〈RATE〉ボタンに音声メモ再生が割り当てられます。
  画像再生時に〈RATE〉ボタンを押して音声メモ再生をすることができます。また、長押し（2秒）して音声メモ記録を開始することができます。

- **⊶/🎙：プロテクト（長押しで音声記録）**
  〈RATE〉ボタンにプロテクトが割り当てられます。
  画像再生時に〈RATE〉ボタンを押してプロテクトの設定、解除ができます。また、長押し（2秒）して音声メモ記録を開始することができます。

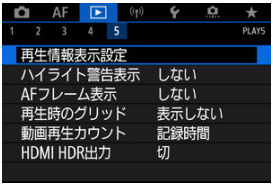
- **🗑：画像消去**
  〈RATE〉ボタンに画像消去が割り当てられます。
  画像再生時に〈RATE〉ボタンを押して画像の消去ができます。

再生する情報の設定

ヒストグラム

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

1. ［▶：再生情報表示設定］を選ぶ



2. 表示する画面の番号に［√］を付ける

- 〈◎〉で番号を選びます。
- 〈SET〉を押すと［√］が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に［√］を付け、［**OK**］を選びます。
- 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したり、撮影情報表示画面で〈✲〉を操作したときに、設定した内容が表示されます。

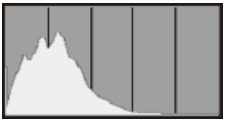
ヒストグラム

ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶：**再生情報表示設定**］の画面の左下に［INFO］が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

● ［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

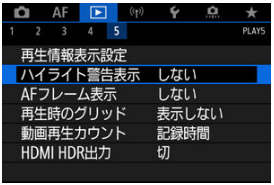
● ［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

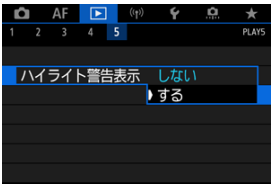
ハイライト警告表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

1. [▶：ハイライト警告表示] を選ぶ



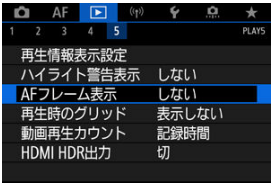
2. [する] を選ぶ



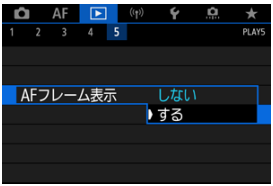
AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

1. **[▶：AFフレーム表示] を選ぶ**



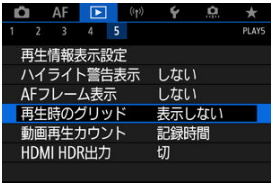
2. **[する] を選ぶ**



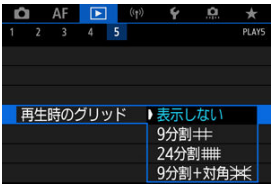
再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. **[▶：再生時のグリッド] を選ぶ**



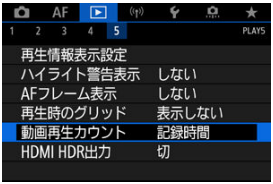
2. **項目を選ぶ**



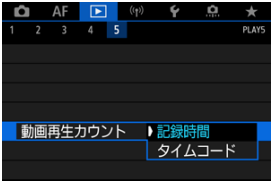
動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

1. **［▶：動画再生カウント］を選ぶ**



2. 項目を選ぶ



● 記録時間

動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

● タイムコード

動画再生時にタイムコードが表示されます。

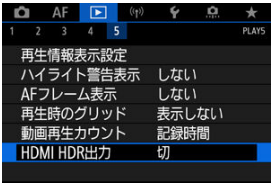
参考

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋［**フリーラン**］設定時を除く）。
- ［**📷：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**▶：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

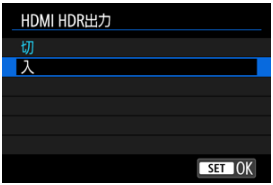
HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像やHEIF画像をHDR表示で見ることができます。

1. [▶：HDMI HDR出力] を選ぶ



2. [入] を選ぶ



参考

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。
- HDMI HDR出力された映像を見ながらRAW現像を行うときは、画像を再生した状態で、クイック設定でRAW現像を行うことをおすすめします。

無線通信機能

この章では、Bluetooth機能やWi-Fi機能を使用して、カメラとスマートフォン、パソコン、FTPサーバー、Webサービスと無線接続して画像を送信する方法や、ワイヤレスリモコンやGPS機器を使用するときの方法について説明しています。

注意

必ずお読みください

- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
  無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

- メニュー目次：無線通信機能タブ
- Wi-Fi/Bluetooth接続
- スマートフォンと通信
- パソコンとWi-Fi接続
- Webサービスへ画像を送信
- FTPサーバーへの画像転送
- アクセスポイントを使用したWi-Fi接続
- ワイヤレスリモコンと接続
- 2回目以降のWi-Fi接続
- 複数の接続設定の登録
- 機内モード
- Wi-Fi設定
- Bluetooth設定
- ニックネーム
- GPS機器の設定
- 接続設定の変更／削除
- 通信の設定初期化
- 情報表示画面
- 仮想キーボードの操作方法
- エラー表示の対応
- 無線通信機能での注意事項
- セキュリティーについて
- ネットワークの設定を確認する
- 無線通信機能の接続状態

メニュー目次：無線通信機能タブ

● 無線通信機能1

（1）Wi-Fi/Bluetooth接続

（2）機内モード

（3）Wi-Fi設定

（4）Bluetooth設定

（5）ニックネーム

（6）GPS機器の設定

（7）画像転送

● 無線通信機能2

（1）通信の設定初期化

注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（[ ] [ ] [ ] は除く）。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します（FTP転送の場合、電源を〈OFF〉にしても接続を終了しません）。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi/Bluetooth接続

1. **［((ᵖ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

2. **カメラと接続する項目を選ぶ**

スマートフォンと通信（）

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。なお、カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンをBluetooth接続しておくと、スマートフォンのみの操作によりWi-Fi接続を行うことができます。

EOS Utilityでリモート操作（）

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、カメラの画像をパソコンに送信することができます。

FTPサーバーに画像転送（）

FTPサーバーとネットワーク接続して、撮影した画像を転送することができます。

Webサービスへ画像を送信（ ）

キヤノンユーザーのためのクラウドサービスimage.canon（登録無料）に、撮影した画像を自動的に送信することができます。image.canonは送信された画像のオリジナルファイルを30日間、容量無制限で保管し、そこからPCにダウンロードしたり、他のWebサービスに転送することができます。

ワイヤレスリモコンと接続（ ）

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続して、リモコン撮影を行うことができます。

スマートフォンと通信

- スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする
- スマートフォンにCamera Connectをインストールする
- Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する
- Camera Connectの機能
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続
- ペアリングの解除
- Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する
- 撮影画像の自動送信
- カメラからスマートフォンへ画像を送信
- Wi-Fi接続の終了
- スマートフォンに公開する画像の設定

カメラとBluetooth対応スマートフォンをBluetooth接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続（）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（）

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（）

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

参考

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、アクセスポイントを使用したWi-Fi接続を参照してください。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

参考

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する

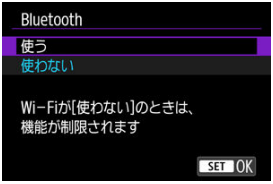
カメラ側の操作-1

1. ［((ᵖ)) : Wi-Fi設定］を選ぶ

2. ［使う］を選ぶ

3. ［((ᵖ)) : Bluetooth設定］を選ぶ

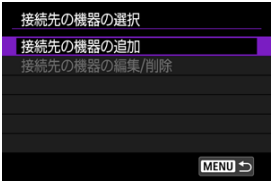
4. ［使う］を選ぶ



5. ［Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ

6. ［スマートフォンと通信］を選ぶ

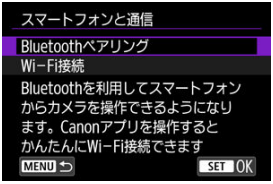
7. ［接続先の機器の追加］を選ぶ

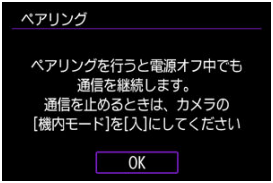


8. 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは［**表示しない**］を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、［**Android**］または［**iOS**］を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールします。

9. ［Bluetoothペアリング］を選ぶ





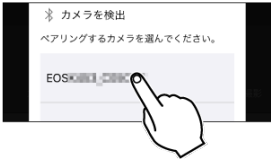
- 〈SET〉を押すと、ペアリングが開始されます。

- 2台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、上記の画面で［**OK**］を選びます。

スマートフォン側の操作-1

10. **Camera Connectを起動する**

11. **ペアリングするカメラをタッチする**



- Androidの場合はカメラ側の操作-2に進みます。

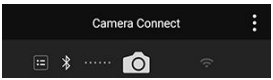
12. **［ペアリング］をタッチする（iOSのみ）**

カメラ側の操作-2

13. **［OK］を選ぶ**

14. **〈SET〉を押す**

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。



- Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。

注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、接続設定の変更／削除を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

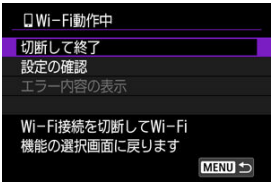
参考

- Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます（ ）。

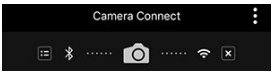
スマートフォン側の操作-2

15. Camera Connectの機能をタッチする

- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら［**接続**］をタッチします。
- Camera Connectの機能についてはCamera Connectの機能を参照してください。
- Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



- カメラのモニターに［**Wi-Fi動作中**］の画面が表示されます。



- Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。

これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、Wi-Fi接続の終了を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再度Wi-Fi接続するときは、Camera Connectを起動して、使用したい機能をタッチします。

[Wi-Fi動作中] 画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Camera Connectの機能

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンで映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時（）のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作してWi-Fi接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます。
電源オフ中にカメラとのWi-Fi接続を行いたくないときは、［**機内モード**］を［**入**］に設定するか（）、［**Bluetooth設定**］を［**使わない**］に設定してください。

注意

- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

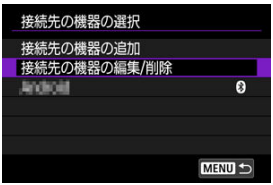
スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

1. **[((ı)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ**

2. **[スマートフォンと通信] を選ぶ**

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。

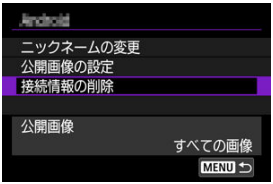
3. **[接続先の機器の編集/削除] を選ぶ**



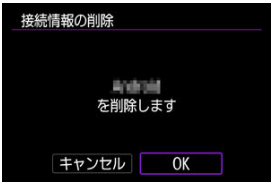
4. ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ

- ペアリング中のスマートフォンは［ ］が表示されます。

5. ［接続情報の削除］を選ぶ



6. ［OK］を選ぶ



7. スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1

1. Wi-Fi設定を［使う］にする

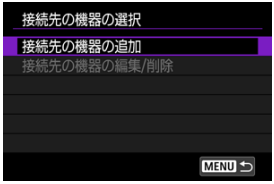
- Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～2を参照してください。

2. [((ᵠ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ

3. [スマートフォンと通信］を選ぶ

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。

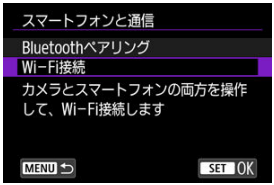
4. ［接続先の機器の追加］を選ぶ



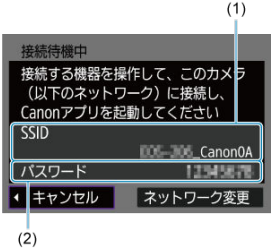
5. 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは［**表示しない**］を選びます。

6. ［Wi-Fi接続］を選ぶ



7. SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されるSSID（1）とパスワード（2）を確認します。

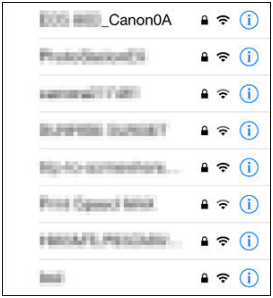
参考

- 手順7で［**ネットワーク変更**］を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます（🔗）。

スマートフォン側の操作

8. スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

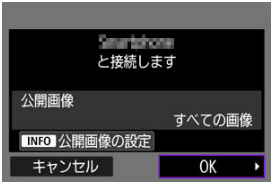
スマートフォンの画面例



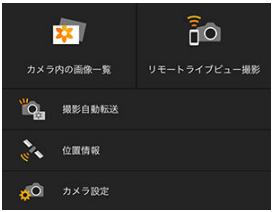
- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、カメラ側の操作-1の手順7で確認したSSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、カメラ側の操作-1の手順7で確認したパスワードを入力します。

9. Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラをタッチする

10. ［OK］を選ぶ



- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。スマートフォンに公開する画像の設定の手順5を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します（）。
- Wi-Fi接続を終了する方法は、Wi-Fi接続の終了を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、2回目以降のWi-Fi接続を参照してください。

参考

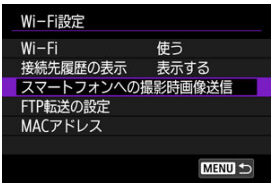
- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます（）。

撮影画像の自動送信

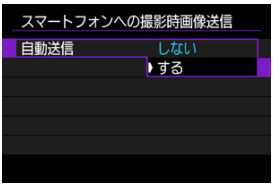
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。

1. **［((ᵖ)) : Wi-Fi設定］を選ぶ**

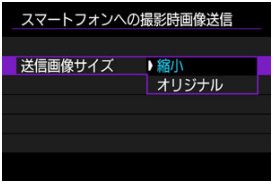
2. **［スマートフォンへの撮影時画像送信］を選ぶ**



3. **［自動送信］で［する］を選ぶ**



4. ［送信画像サイズ］を設定する



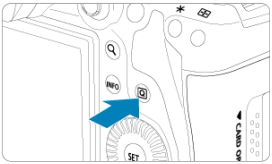
5. 撮影する

カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

1. 画像を再生する

2. 〈Q〉ボタンを押す



3. [スマートフォンへ画像を送信] を選ぶ

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

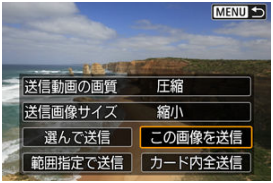
4. 送信方法を選んで送信する

(1) 1枚ずつ送信

1. 送信する画像を選ぶ

- 〈◎〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈⌒〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2. ［この画像を送信］を選ぶ



- ［**送信画像サイズ**］で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

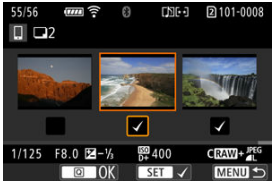
(2) 複数の画像を選んで送信

1. 〈SET〉を押す

2. ［選んで送信］を選ぶ

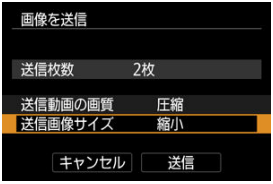
3. 送信する画像を選ぶ

- 〈◎〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。

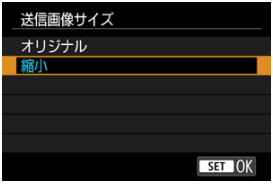


- 〈⌕〉を左に回すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⌕〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉ボタンを押します。

4. ［送信画像サイズ］を選ぶ

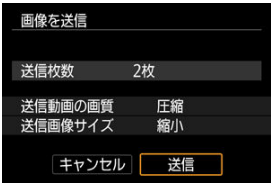


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

5. ［送信］を選ぶ



(3) 範囲を指定して送信

1. 〈SET〉を押す

2. ［範囲指定で送信］を選ぶ

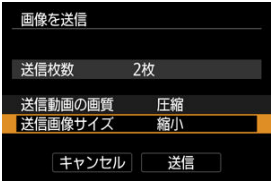
3. 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈⊖〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

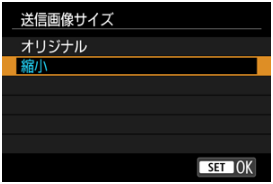
4. 範囲を確定する

- 〈Q〉ボタンを押します。

5. ［送信画像サイズ］を選ぶ

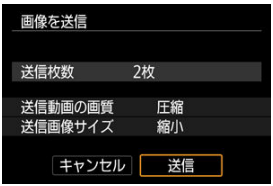


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

6. ［送信］を選ぶ

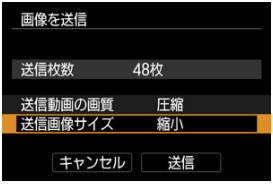


(4) カード内の画像をすべて送信

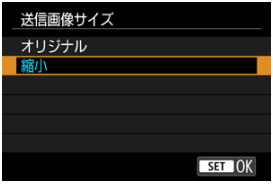
1. 〈SET〉を押す

2. ［カード内全送信］を選ぶ

3. ［送信画像サイズ］を選ぶ

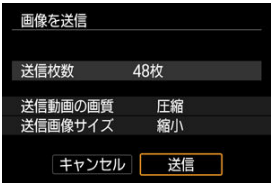


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

4. ［送信］を選ぶ



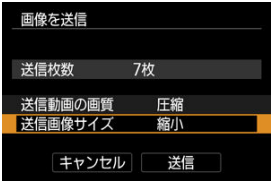
(5) 検索条件が設定された画像を送信

［**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。［**画像検索の条件設定**］については、画像検索の条件設定を参照してください。

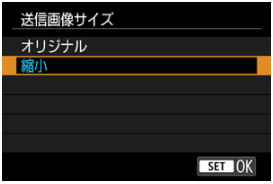
1. **〈SET〉を押す**

2. **［検索結果全送信］を選ぶ**

3. ［送信画像サイズ］を選ぶ

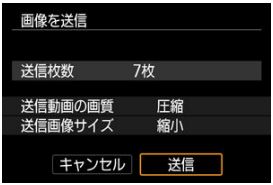


- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、［**送信動画の画質**］で画質を選びます。

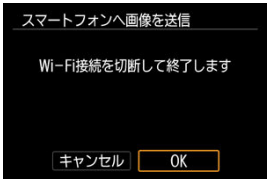
4. ［送信］を選ぶ



画像の送信の終了

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）

- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。



- ［**OK**］を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合

- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときはWi-Fi接続の終了を参照してください。

注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

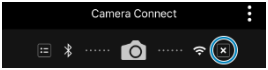
参考

- 画像の送信中に［**キャンセル**］を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、S2サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。なお、FHD 29.97P IPB またはFHD 25.00P IPB の動画は縮小されません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

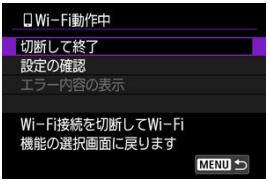
Wi-Fi接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。

Camera Connectの画面で［⊠］をタッチする



［Wi-Fi動作中］の画面で［切断して終了］を選ぶ



- ［**Wi-Fi動作中**］の画面が表示されていないときは、［(ᵎ)：**Wi-Fi/Bluetooth接続**］を選びます。
- ［**切断して終了**］を選び、確認画面で［**OK**］を選びます。

スマートフォンに公開する画像の設定

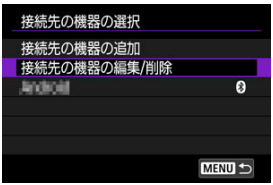
Wi-Fi接続を終了してから設定します。

1. **[((ı)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ**

2. **[スマートフォンと通信] を選ぶ**

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。

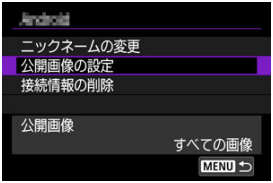
3. **[接続先の機器の編集/削除] を選ぶ**



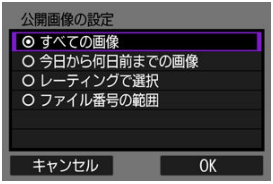
4. スマートフォンを選ぶ

- 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。

5. ［公開画像の設定］を選ぶ



6. 項目を選ぶ

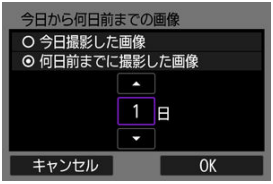


- ［**OK**］を選ぶと、設定画面が表示されます。

［すべての画像］

- カード内のすべての画像を公開します。

［今日から何日前までの画像］

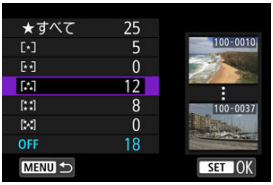


- 撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。
- ［**何日前までに撮影した画像**］のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。［▲］［▼］で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- ［**OK**］を選ぶと、公開する画像が設定されます。

注意

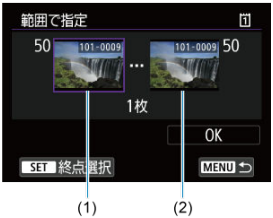
- ［**公開画像の設定**］で［**すべての画像**］以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

[レーティングで選択]



- レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。
- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



- ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

  1.〈SET〉を押して、画像の選択画面を表示します。〈◎〉などで画像を選びます。
  〈⊖〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

  2.始点（1）の画像を選びます。

  3.〈◎〉で終点（2）の画像を選びます。

  4.[**OK**] を選びます。

注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。

参考

- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

パソコンとWi-Fi接続

- EOS Utilityでカメラを操作
- ダイレクト転送
- キャプションの作成と登録

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用ソフトウェアのEOS Utilityと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のEOS Utilityをインストールしてから Wi-Fi接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

1. **Wi-Fi設定を［使う］にする**

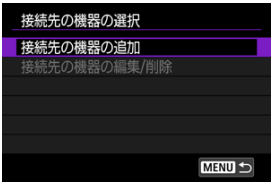
   - Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～2を参照してください。

2. **［((ᵖ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

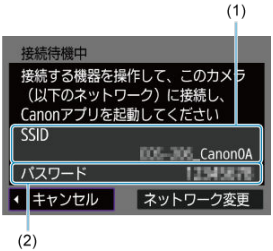
3. ［EOS Utilityでリモート操作］を選ぶ

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。

4. ［接続先の機器の追加］を選ぶ



5. SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。

パソコン側の操作-1

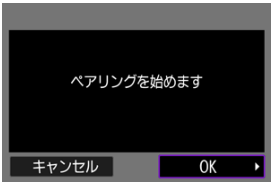
6. SSIDを選んでパスワードを入力する

パソコンの画面例

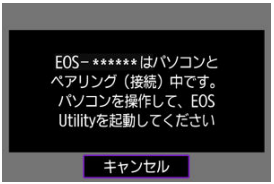
- パソコンのネットワークの設定画面から、カメラ側の操作-1の手順5で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、カメラ側の操作-1の手順5で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2

7. ［OK］を選ぶ



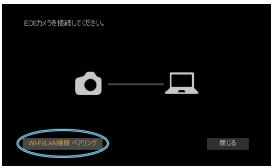
- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



パソコン側の操作-2

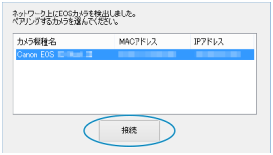
8. EOS Utilityを起動する

9. EOS Utilityの［Wi-Fi/LAN接続ペアリング］をクリックする



- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、［**はい**］を選びます。

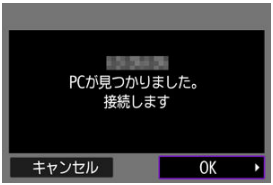
10. ［接続］をクリックする



- 接続するカメラを選んで、［**接続**］をクリックします。

カメラ側の操作-3

11. Wi-Fi接続を確立する



- ［**OK**］を選びます。

[Wi-Fi動作中] 画面について

切断して終了
- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認
- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示
- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、2回目以降のWi-Fi接続を参照してください。

注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

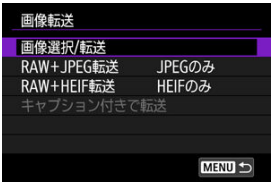
ダイレクト転送

EOS Utilityと接続された状態で、EOS Utilityのメイン画面が表示されているときは、カメラを操作してパソコンへ画像を転送することができます。

転送する画像を選択する

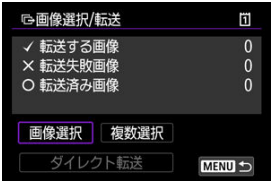
1. **[((ᵖ)) : 画像転送] を選ぶ**

2. **[画像選択/転送] を選ぶ**



3. **[ダイレクト転送] を選ぶ**

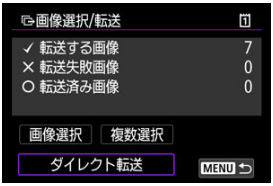
4. ［画像選択］を選ぶ



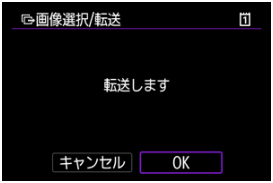
5. 転送する画像を選ぶ

- 〈◎〉で転送する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉で画面の左上に［✓］を表示させ、〈SET〉を押します。
- 〈⚙〉を左に回すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⚙〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順5を繰り返します。
- 画像の選択が終了したら〈MENU〉を押します。

6. ［ダイレクト転送］を選ぶ



7. ［OK］を選ぶ



- 選択した画像がパソコンに転送されます。

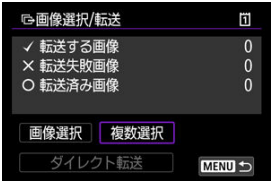
複数選択

選択方法を選んで、複数の画像を転送することができます。

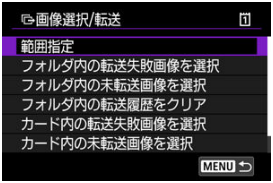
1. ［画像選択/転送］画面を表示する

- 転送する画像を選択するの手順1～3の操作を行います。

2. ［複数選択］を選ぶ



3. 使用したい選択方法を選ぶ



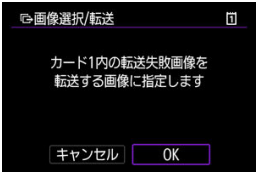
- **範囲指定**

- ［**範囲指定**］を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示され、1画像1枚で転送指定されます。
- 〈 〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

● **フォルダ内**

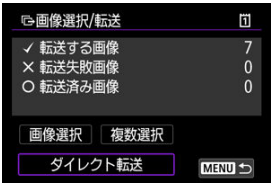
- ［**フォルダ内の転送失敗画像を選択**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている転送に失敗した画像が選択されます。
- ［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている未転送画像が選択されます。
- ［**フォルダ内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

● **カード内**

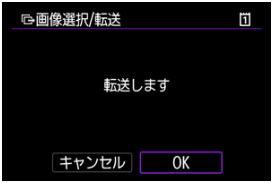


- ［**カード内の転送失敗画像を選択**］を選ぶと、選択されているカードに入っている転送に失敗した画像が選択されます。
- ［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、選択されているカードに入っている未転送画像が選択されます。
- ［**カード内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択されているカードに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、カードに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

4. ［ダイレクト転送］を選ぶ



5. ［OK］を選ぶ



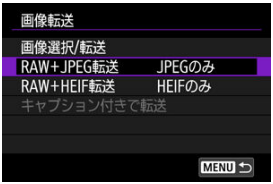
- 選択した画像がパソコンに転送されます。

RAW+JPEG／RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき

RAW+JPEGやRAW+HEIFで撮影した画像をどのように転送するか、設定することができます。

1. **［((ᵖ))：画像転送］を選ぶ**

2. **転送する画像のタイプを選ぶ**



● **RAW+JPEG転送**

- ［**RAW+JPEG転送**］を選び、［**JPEGのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+JPEG**］から選びます。

● **RAW+HEIF転送**

- ［**RAW+HEIF転送**］を選び、［**HEIFのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+HEIF**］から選びます。

注意

● 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

参考

● この設定は、［**転送画像サイズタイプ**］画面の［**RAW+JPEG転送**］［**RAW+HEIF転送**］の設定と連動して切り換わります（🔗）。

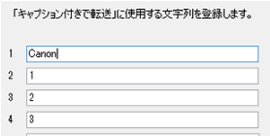
キャプションの作成と登録

キャプション付きで転送するで利用するキャプションを作成し、カメラに設定することができます。

1. **EOS Utilityを起動して［カメラの設定］を選ぶ**

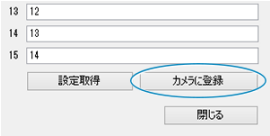
2. **［WFTキャプション］を選ぶ**

3. **キャプションを入力する**



- ASCII（アスキー）文字を31文字まで入力できます。
- ［**設定取得**］を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。

4. キャプションをカメラに設定する



- ［**カメラに登録**］を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

Webサービスへ画像を送信

ここでは、image.canonに画像を送信する方法について説明しています。

image.canonの登録と自動送信の設定

カメラにimage.canonを登録して、撮影した画像を自動的に送信できるようにします。

- インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国／地域などはimage.canonサイト（https://image.canon/）で確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

カメラ側の操作-1

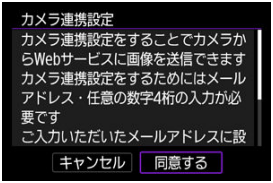
1. **Wi-Fi設定を［使う］にする**

   - Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～2を参照してください。

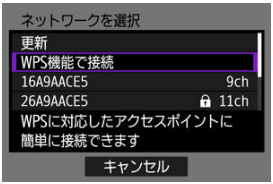
2. **［((ᵖ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

3. ［Webサービスへ画像を送信］を選ぶ

4. ［同意する］を選ぶ

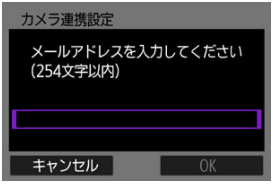


5. Wi-Fi接続する



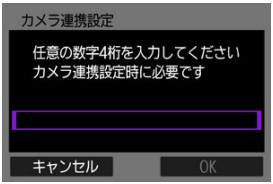
- アクセスポイントとWi-Fi接続します。アクセスポイントを使用したWi-Fi接続の手順6に進みます。

6. メールアドレスを入力する



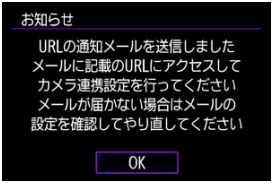
- メールアドレスを入力して［**OK**］を選びます。

7. 4桁の数字を入力する



- 任意の4桁の数字を入力し［**OK**］を選びます。

8. ［OK］を選ぶ



- ［ ］が［ ］になります。

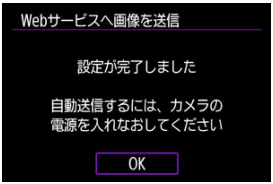
パソコンまたはスマートフォン側の操作

9. カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2

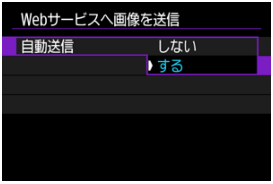
10. **［OK］を選ぶ**



- ［ ］が［ ］に変わります。

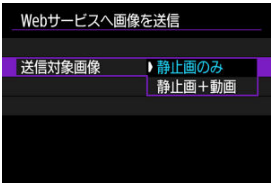
11. **［Webサービスへ画像を送信］を選ぶ**

12. ［自動送信］を選ぶ



- ［**する**］に設定すると、カメラの電源を入れると画像が自動送信されます。

13. ［送信対象画像］を選ぶ



- ［**静止画のみ**］［**静止画＋動画**］のいずれかを設定します。

14. カメラの電源を入れなおす

- 画像が自動送信されます。

- ネットワークを変更する場合は［**ネットワーク変更**］を選び、手順5～8を参照してください。
- 接続を解除する場合は、［**カメラ連携設定解除**］を選び、［**OK**］を選びます。

参考

- ［**自動送信**］を［**する**］に設定した場合、カード内の全ての画像ファイルが送信されます。
- ［**自動送信**］を［**する**］に設定した場合、カメラ起動時（オートパワーオフからの復帰を含む）に画像の自動送信を開始します。
- 自動送信中に画像が追加された場合は、追加された画像も送信されます。

注意

- インターバルタイマー撮影中は自動送信は開始されません。
- 以下の場合は画像の送信は中断されます。
  - ［**機内モード**］［**入**］に設定する
  - 動画撮影を開始する
  - USB接続を開始する
  - バッテリーの残量が少ない場合
  - カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした場合

FTPサーバーへの画像転送

- 事前準備
- アクセスポイントと接続する
- FTPサーバーの接続設定を行う
- FTP転送の設定
- まとめて転送する
- キャプション付きで転送する
- 転送失敗画像の自動再転送について
- 転送された画像を見る

FTPサーバーとネットワーク接続して、撮影した画像を転送することができます。

事前準備

以下のOSがインストールされたパソコンが必要です。また、そのパソコンをあらかじめFTPサーバーとして機能させておく必要があります。

- Windows 10（ver.1607以降）
- Windows 8.1、Windows 8.1 Pro

パソコンをFTPサーバーとして機能させる方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。
あらかじめ、FTPサーバーとして機能させるパソコンをアクセスポイントに接続しておいてください。

アクセスポイントと接続する

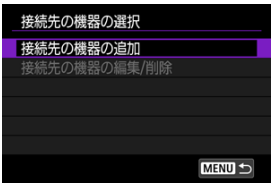
1. **Wi-Fi設定を［使う］にする**

- Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～2を参照してください。

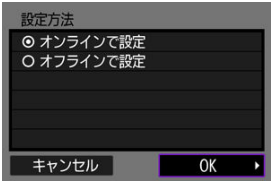
2. **［((ᵖ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

3. **［FTPサーバーに画像転送］を選ぶ**

4. **［接続先の機器の追加］を選ぶ**

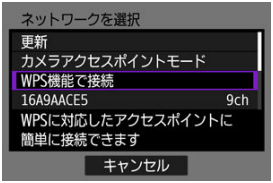


5. ［設定方法］を選ぶ



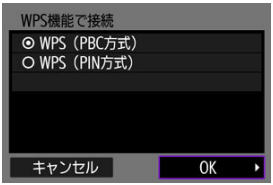
- 項目を選んで［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- ［**オンラインで設定**］を選ぶと、接続設定とネットワーク接続が同時に行えます。
- ［**オフラインで設定**］を選ぶと、FTPサーバーとの接続設定のみ行えます。

6. ［WPS機能で接続］を選ぶ



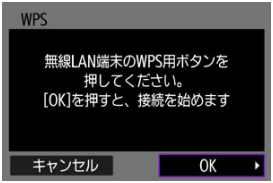
- ここではWPS（PBC方式）での接続方法を説明します。他の方法でアクセスポイントに接続するときは、アクセスポイントを使用したWi-Fi接続を参照してください。

7. ［WPS（PBC方式）］を選ぶ



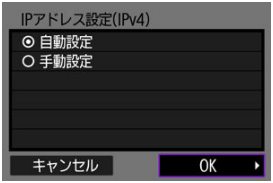
- ［**OK**］を選びます。

8. アクセスポイントの WPS用ボタンを押す



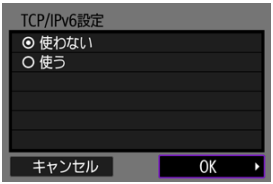
- WPSボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- ［**OK**］を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

9. IPアドレス設定の項目を選ぶ



- ［**OK**］を選びます。

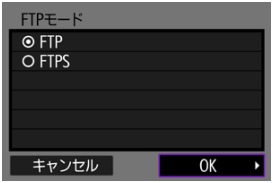
10. IPv6設定を選ぶ



- ［**OK**］を選びます。

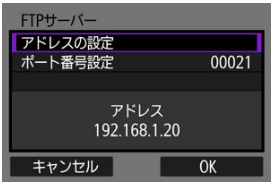
FTPサーバーの接続設定を行う

1. FTPモードを選ぶ



- ルート証明書を使用してFTP転送をセキュアに行うときは［**FTPS**］を選びます。ルート証明書の設定については、ルート証明書の設定を参照してください。
- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。

2. ［アドレスの設定］を選ぶ

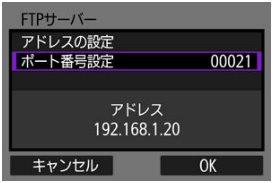


- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPアドレスを［**自動設定**］にしているときやDNSアドレスを［**手動設定**］にしているときは、仮想キーボードが表示されます。
- DNSアドレスを［**使わない**］設定のときは、数値の入力画面が表示されます。

3. FTPサーバーのIPアドレスを入力する

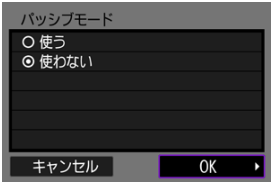
- 仮想キーボード（）を操作し、IPアドレスを入力します。DNSを使用する場合は、ドメイン名を入力します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. ポート番号を設定する



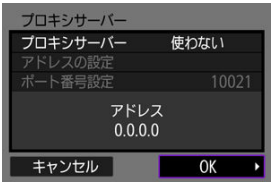
- ［**ポート番号設定**］は、通常00021を設定します。
- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。

5. パッシブモードを設定する



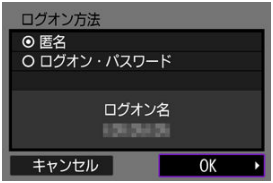
- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- 手順8で「エラー41：**FTPサーバーに接続できません**」が表示されたときは［**パッシブモード**］を［**使う**］設定にすると解決することがあります。

6. プロキシサーバーを設定する



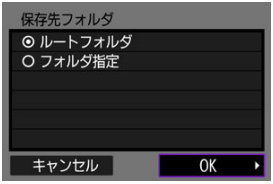
- 手順1で［**FTPS**］を選んだときは表示されません。
- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。

7. ログオン方法を設定する

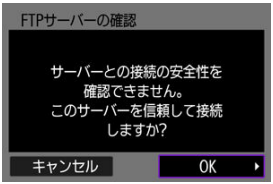


- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。

8. 保存先フォルダを設定する



- ［**ルートフォルダ**］を選択すると、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に保存されます。
- ［**フォルダ指定**］を選択すると、ルートフォルダの中にある保存先フォルダを指定することができます。フォルダがないときは、自動作成されます。
- ［**OK**］を選ぶと、次の画面に進みます。
- 以下の画面が表示されたときに、送信先サーバーを信頼する場合は、［**OK**］を選びます。



9. ［OK］を選ぶ

- オフラインの設定では表示されません。

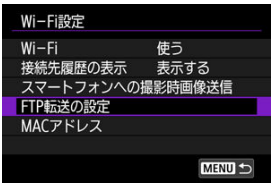
これでFTP転送の接続設定は完了です。

FTP転送の設定

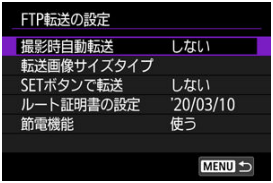
FTP転送に関する設定や節電機能の設定を行うことができます。

1. **［((ᵖ)) : Wi-Fi設定］を選ぶ**

2. **［FTP転送の設定］を選ぶ**



3. 設定する項目を選ぶ



- **撮影時自動転送**
  ［**する**］を選ぶと、撮影した画像をすぐにFTPサーバーへ自動転送します。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

注意

- 必ずカードを入れて撮影してください。画像が記録されない状態で撮影すると、画像が転送されません。
- 動画は撮影時に自動転送できません。撮影後、まとめて転送するまたはキャプション付きで転送するを参照し、転送してください。
- 画像転送中に画像を消去することはできません。

参考

- 連続撮影したときは、撮影した順にFTPサーバーへ画像が転送されます。
- 撮影した画像は、カードにも記録されます。
- 転送が中断した画像や転送に失敗した画像は、通信状態が回復すると自動的に再転送されます（）。なお、あとからまとめて再転送することもできます（）。
- FTP自動再転送が開始される前に、FTP接続先サーバー等のネットワーク設定を変更したときは、FTP自動再転送は行われません。

- **転送画像サイズタイプ**

［**転送JPEGのサイズ**］で、転送する画像のサイズが設定できます。例えば、一方のカードにJPEGラージを、もう一方のカードにJPEGスモールを記録する設定で、JPEGスモールの方を転送したいときは、［**小さいサイズ**］に設定します。
［**RAW+JPEG転送**］／［**RAW+HEIF転送**］で、転送する画像タイプの設定ができます。

参考

- 一方のカードにRAWを、もう一方のカードにJPEGまたはHEIFを記録する設定のときは、［**RAW+JPEG転送**］／［**RAW+HEIF転送**］の設定で転送する画像を決めます。カード1枚にRAW+JPEGまたはRAW+HEIFの同時記録を行うときも、同様に設定します。
- 撮影した画像は、カードにも記録されます。
- 同じサイズの画像がカード2枚に同時記録される場合は、［**：記録機能とカード・フォルダ選択**］で、［**記録・再生**］または［**再生**］で優先設定しているカードに記録される画像が転送されます。

- **SETボタンで転送**

［**する**］を選ぶと、画像を再生して、〈SET〉を押すだけで転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

参考

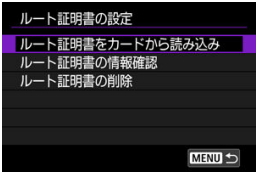
- 動画は転送できません。

● **ルート証明書の設定**

接続設定時に、FTPモードを［**FTPS**］に設定したときは、接続するFTPSサーバーに対応したルート証明書をカメラに読み込む必要があります。

注意

- カメラに読み込むことができるのは、ファイル名が「ROOT.CER」、「ROOT.CRT」、「ROOT.PEM」のルート証明書のみです。
- カメラに読み込むことができるルート証明書ファイルは1つだけです。あらかじめ、ルート証明書ファイルの入ったカードを入れてから操作してください。
- 証明書を読み込むことができるカードは、［**：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で優先設定しているカードです。
- 自己署名証明書を使用したFTPS接続を行う場合に、接続先サーバーを信頼できないことがあります。



［**ルート証明書をカードから読み込み**］を選ぶと、カードに入っているルート証明書が読み込まれます。
［**ルート証明書の情報確認**］を選ぶと、ルート証明書の発行者、発行先、有効期限の確認ができます。
［**ルート証明書の削除**］を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書の削除ができます。

● **節電機能**

［**使う**］を設定したときは、一定期間転送を行わないと、FTPサーバーからログオフしてWi-Fi接続を休止します。画像転送が行われる状態になると、自動的に再接続します。Wi-Fi接続を休止させたくないときは、［**使わない**］に設定してください。

まとめて転送する

- 転送する画像を選択する
- 複数選択
- RAW+JPEG／RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき

撮影後に、複数の画像を任意に選択しての転送や、未転送画像、転送失敗画像の一括転送を行うことができます。
また、転送中も通常どおりに静止画撮影を行うことができます。

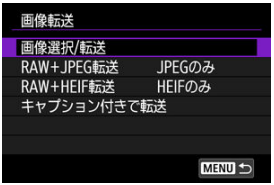
注意

- 画像転送中に、動画モードにすると、その間は画像転送が中断されます。静止画モードにすると、画像転送を再開します。

転送する画像を選択する

1. **［((ᵖ))：画像転送］を選ぶ**

2. **［画像選択/転送］を選ぶ**



3. ［FTP転送］を選ぶ

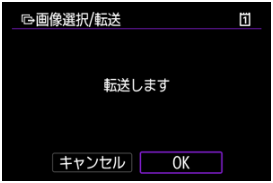
4. ［画像選択］を選ぶ

5. 転送する画像を選ぶ

- 〈◎〉で転送する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉で画面の左上に［✓］を表示させ、〈SET〉を押します。
- 〈⊖〉を左に回すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⊕〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順5を繰り返します。
- 画像の選択が終了したら〈MENU〉を押します。

6. ［FTP転送］を選ぶ

7. ［OK］を選ぶ



- 選択した画像がFTPサーバーに転送されます。

複数選択

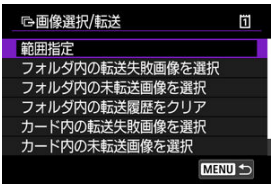
選択方法を選んで、複数の画像を転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

1. ［画像選択/転送］画面を表示する

- 転送する画像を選択するの手順1～3の操作を行います。

2. ［複数選択］を選ぶ

3. 使用したい選択方法を選ぶ



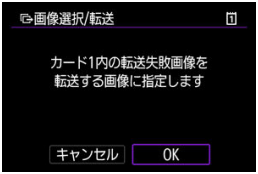
- **範囲指定**

- ［**範囲指定**］を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に［✓］が表示され、1画像1枚で転送指定されます。
- 〈◎〉を回すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

● **フォルダ内**

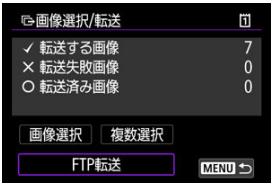
- ［**フォルダ内の転送失敗画像を選択**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている転送に失敗した画像が選択されます。
- ［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている未転送画像が選択されます。
- ［**フォルダ内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

● **カード内**

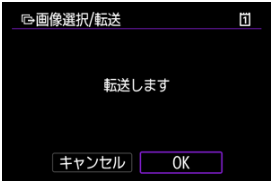


- ［**カード内の転送失敗画像を選択**］を選ぶと、選択されているカードに入っている転送に失敗した画像が選択されます。
- ［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、選択されているカードに入っている未転送画像が選択されます。
- ［**カード内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択されているカードに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、カードに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

4. ［FTP転送］を選ぶ



5. ［OK］を選ぶ



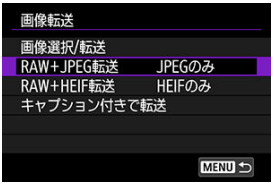
- 選択した画像がFTPサーバーに転送されます。

RAW+JPEG／RAW+HEIFで撮影した画像を転送するとき

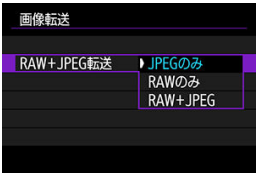
RAW+JPEGやRAW+HEIFで撮影した画像をどのように転送するか、設定することができます。

1. **［((ᵖ))：画像転送］を選ぶ**

2. **転送する画像のタイプを選ぶ**



● **RAW+JPEG転送**



- ［**RAW+JPEG転送**］を選び、［**JPEGのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+JPEG**］から選びます。

● **RAW+HEIF転送**

- ［**RAW+HEIF転送**］を選び、［**HEIFのみ**］［**RAWのみ**］［**RAW+HEIF**］から選びます。

注意

● 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

参考

● この設定は、［**転送画像サイズタイプ**］画面の［**RAW+JPEG転送**］［**RAW+HEIF転送**］の設定と連動して切り換わります（ ）。
● 画像転送中に、動画モードにすると、その間は画像転送が中断されます。

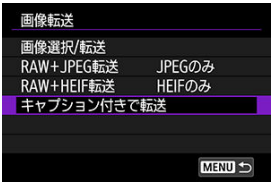
キャプション付きで転送する

登録したキャプションを画像に付加して、1枚ずつ転送することができます。印刷する枚数などを画像転送先に伝えたいときなどに便利です。なお、カメラに保存された画像にもキャプションが付加されます。

- 画像に付加されたキャプションは、Exif情報のユーザーコメント欄で確認することができます。
- キャプションの作成と登録は、EOS Utility（）を使用して行います。

1. [：画像転送］を選ぶ

2. ［キャプション付きで転送］を選ぶ



- 最後に再生した画像が表示されます。

3. キャプションを設定する

- ［**キャプション**］を選んで、表示される画面でキャプションの内容を選びます。

4. ［転送］を選ぶ

- 画像がキャプション付きで送信されます。送信が終了すると［**画像転送**］画面に戻ります。

注意

- ［**キャプション付きで転送**］画面では、画像を任意に選択することはできません。ほかの画像をキャプション付きで転送するときは、その画像を再生してからこの操作を行ってください。

転送失敗画像の自動再転送について

転送に失敗すると、カメラのアクセスランプが赤色に点滅します。この場合は、〈MENU〉ボタンを押して［((ᵠ)) : **Wi-Fi/Bluetooth接続**］を選ぶと、下記の画面が表示されます。エラー表示への対応については、トラブルシューティング（）を参照してください。

エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。この自動再転送機能は、撮影時自動転送のときだけでなく、撮影後の画像をFTP転送するときも働きます。なお、転送をキャンセルしたり、カメラの電源を切ったときは、自動再転送されません。

まとめて転送するを参照して転送してください。

参考

- ［**FTP転送の設定**］画面（）で節電機能を設定すると、FTP転送後、FTPサーバーからログオフしてWi-Fi接続を休止させることができます。
- Wi-Fi接続を休止させたくないときは、［**FTP転送の設定**］画面（）で［**節電機能**］を［**使わない**］に設定してください。

転送された画像を見る

FTPサーバーに転送された画像は、FTPサーバーで設定した下記のフォルダに保存されています。

FTPサーバーの転送先フォルダについて

- FTPサーバーを初期設定で使用しているときは、［**Cドライブ**］ → ［**Inetpub**］フォルダ → ［**ftproot**］フォルダの中に画像、または画像が保存されているフォルダが入っています。
- FTPサーバーの設定で転送先のルートフォルダが変更されているときは、FTPサーバーの管理者に問い合わせてください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

- カメラアクセスポイントモード
- IPアドレスの手動設定

ここでは、WPS（PBC方式）に対応したアクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。
あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. Wi-Fi設定を［使う］にする

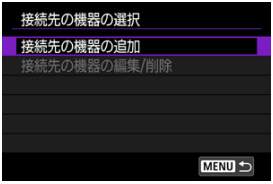
- Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～4を参照してください。

2. [((•)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ

3. 項目を選ぶ

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。

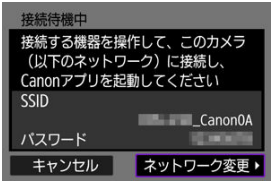
4. ［接続先の機器の追加］を選ぶ



- ［**スマートフォンと通信**］を選んだときは下の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは［**表示しない**］を選びます。

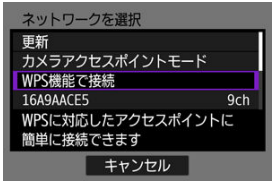
- 次に表示される［**スマートフォンと通信**］の画面では［**Wi-Fi接続**］を選びます。

5. ［ネットワーク変更］を選ぶ



- ［］［］を選んだときに表示されます。

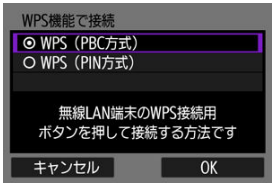
6. ［WPS機能で接続］を選ぶ



参考

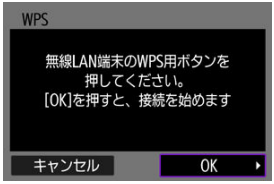
- 手順6の画面で表示される［**カメラアクセスポイントモード**］については、カメラアクセスポイントモードを参照してください。

7. ［WPS（PBC方式）］を選ぶ



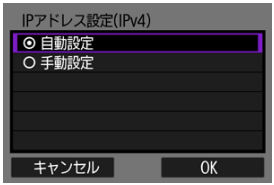
- ［**OK**］を選びます。

8. アクセスポイントにWi-Fi接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- ［**OK**］を選びます。

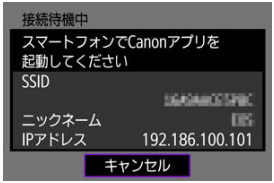
9. ［自動設定］を選ぶ



- ［**OK**］を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- ［**自動設定**］でエラーが表示されたときは、IPアドレスの手動設定を参照してください。

10. Wi-Fi機能に応じた設定を行う

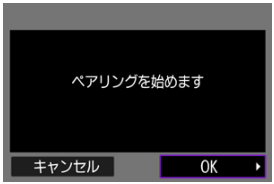
[スマートフォンと通信]



- スマートフォンのWi-Fi機能で、モニターに表示されたSSID（ネットワーク名）をタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続するの手順8に進みます。

[EOS Utilityでリモート操作]



EOS Utilityでカメラを操作の手順7または手順8に進みます。

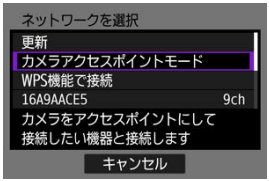
[FTPサーバーに画像転送]

アクセスポイントと接続するの手順10に進みます。

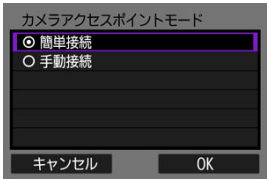
[Webサービスへ画像を送信]

image.canonの登録と自動送信の設定の手順5に進みます。

カメラアクセスポイントモード



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。[((ᵕ)) : **Wi-Fi/Bluetooth接続**] で、[ ] [ ] [ ] を選んだときに表示されます。



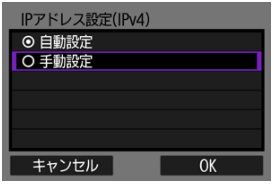
- **簡単接続**
  接続する機器を操作して、カメラのモニターに表示されるSSIDにWi-Fi接続します。

- **手動接続**
  接続する機器のSSIDを入力して接続を行います。カメラのモニターの表示に従って、接続設定を行ってください。

IPアドレスの手動設定

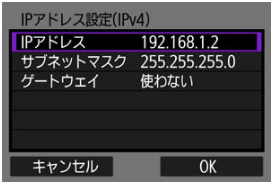
表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。

1. ［手動設定］を選ぶ

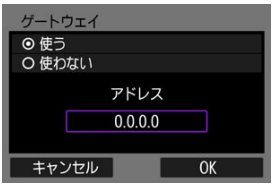


- ［**OK**］を選びます。

2. 項目を選ぶ



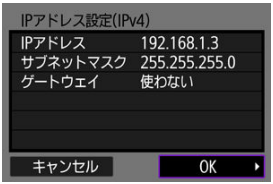
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、［**使う**］を選んでから［**アドレス**］を選びます。



3. 数値を入力する

- 〈 〉で上側の入力場所を選び、〈 〉か〈 〉または〈 〉で入力する数値を選びます。〈SET〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. ［OK］を選ぶ



- 必要な項目の設定が完了したら［**OK**］を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、ネットワークの設定を確認するを参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

ワイヤレスリモコンと接続

ペアリング解除

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／）とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

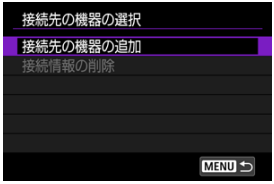
1. Wi-Fi設定を［使う］にする

- Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続するの手順1～4を参照してください。

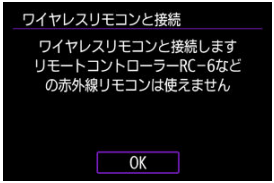
2. [：Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ

3. [ワイヤレスリモコンと接続］を選ぶ

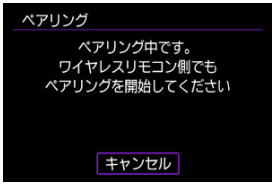
4. ［接続先の機器の追加］を選ぶ



5. 〈SET〉を押す



6. ペアリングする



- ［**ペアリング**］の画面が表示されたら、BR-E1の〈**W**〉ボタンと〈**T**〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「****（BR-E1の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈SET〉を押します。

7. リモコン撮影できるように設定する

- 静止画撮影時は、ドライブモードで［i⏲］または［i⏲2］を選びます（⧉）。
- 動画撮影時は、［📷：**リモコン撮影**］で［**する**］を選びます。
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリー が消耗します。

参考

- Bluetooth機能を使わないときは、手順1で［**使わない**］に設定することをおすすめします。

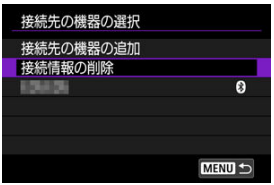
ペアリング解除

他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。

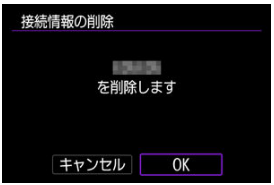
1. **［((ᵖ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

2. **［ワイヤレスリモコンと接続］を選ぶ**

3. **［接続情報の削除］を選ぶ**



4. **［OK］を選ぶ**



2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された接続先に、再度Wi-Fi接続する方法です。

1. **［((ᵢ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◎〉で画面を切り換えます。
- ［**接続先履歴の表示**］を［**表示しない**］に設定しているときは履歴は表示されません（☑）。

3. 接続先の機器を操作する

[📱] スマートフォンの場合

- Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「**_Canon0A**」と表示されます。

[💻] パソコンの場合

- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとパソコンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「**_Canon0A**」と表示されます。

[📱] FTP転送の場合

- FTPサーバーの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとFTPサーバーを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「**_Canon0A**」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。

1. [((ᵢ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

2. 項目を選ぶ

- 履歴（）が表示されたときは、〈〉か〈〉または〈〉で画面を切り換えます。
- [**スマートフォンと通信**] はスマートフォンと通信を参照してください。
- [**EOS Utilityでリモート操作**] はパソコンとWi-Fi接続を参照してください。
- [**FTPサーバーに画像転送**] はFTP サーバーへの画像転送を参照してください。
- [**Webサービスへ画像を送信**] はWebサービスへ画像を送信を参照してください。

参考

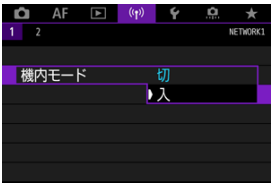
- 接続設定を削除するときは、接続設定の変更／削除を参照してください。

機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

1. **［((ᵖ))：機内モード］を選ぶ**

2. **［入］に設定する**



- 画面に［⇧］が表示されます。

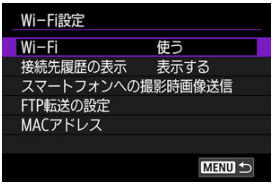
参考

- 静止画撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって［⇧］が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細表示画面にします。

Wi-Fi設定

1. **［((ᵢ)) : Wi-Fi設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- **Wi-Fi**
  飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、［**使わない**］に設定してください。
- **接続先履歴の表示**
  Wi-Fi接続した機器の履歴を［**表示する**］／［**表示しない**］が設定できます。
- **スマートフォンへの撮影時画像送信**
  撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（☑）。
- **FTP転送の設定**
  FTPサーバーへ画像を転送することができます（☑）。
- **MACアドレス**
  カメラのMACアドレスの確認ができます。

Bluetooth設定

1. **［((ᵖ)) : Bluetooth設定］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **Bluetooth**
  Bluetooth機能を使わないときは［**使わない**］を選びます。
- **接続先情報の確認**
  ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- **Bluetoothアドレス**
  カメラのBluetoothアドレスを確認できます。

ニックネーム

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。

1. **[((ᵖ)) : ニックネーム] を選ぶ**

2. **仮想キーボードの操作方法で文字を入力する**

- 入力が終了したら〈MENU〉ボタンを押します。

GPS機器の設定

- GP-E2
- スマートフォン
- GPS接続表示

GPSレシーバー GP-E2（別売）やBluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

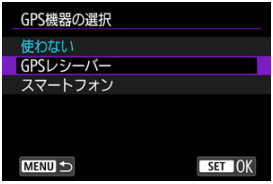
GP-E2

1. GP-E2をカメラに取り付ける

- GP-E2をカメラのアクセサリーシューに取り付けて電源を入れます。詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

2. [((ᵖ)) : GPS機器の設定] を選ぶ

3. ［GPS機器の選択］で［GPSレシーバー］を選ぶ



4. 撮影する

- ［**設定**］について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

注意

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。
  ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。
  アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール（）してから設定を行ってください。

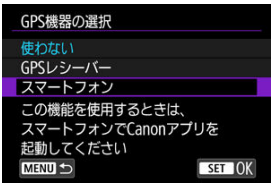
1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2. Bluetooth接続する

- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンを Bluetooth接続してください。

3. [：GPS機器の設定] を選ぶ

4. [GPS機器の選択] で [スマートフォン] を選ぶ



5. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面（）または動画撮影画面（）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

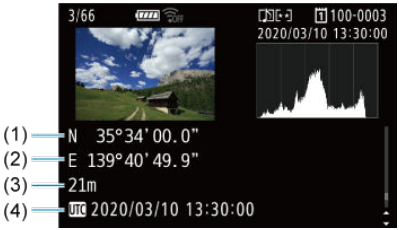
なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



（1）緯度

（2）経度

（3）標高

（4）協定世界時

注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

参考

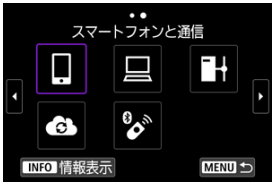
- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

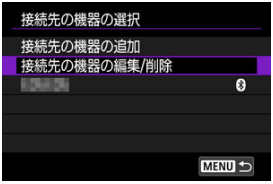
1. **［((ᵢ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



- 履歴（ ）が表示されたときは、〈 〉か〈 〉または〈 〉で画面を切り換えます。

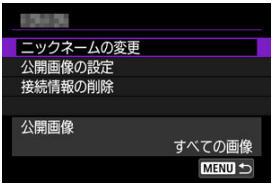
3. ［接続先の機器の編集/削除］を選ぶ



- ［⊛］がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth接続を切り換えることができます。［**スマートフォンと通信**］の画面が表示されたら［**Bluetooth接続**］を選び、次の画面で〈SET〉を押します。

4. 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ

5. 項目を選ぶ



- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

- **ニックネームの変更**
  ニックネームを仮想キーボード（✎）で変更できます。

- **公開画像の設定（ ）**

  ［**スマートフォンと通信**］を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。

- **接続情報の削除**

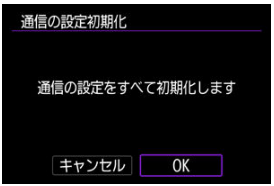
  ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください（ ）。

通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. **［((ｉ)) : 通信の設定初期化］を選ぶ**

2. **［OK］を選ぶ**



注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

参考

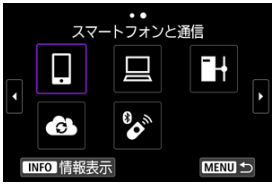
- ［**🔧 : カメラの初期化**］の［**基本以外の設定**］［**通信の設定**］で無線通信の設定を全て削除できます。

情報表示画面

エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。

1. **［((ｉ)) : Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**

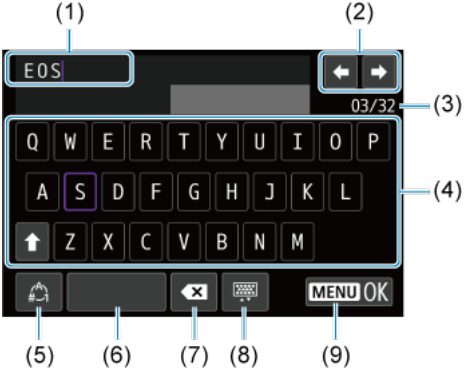
2. **〈INFO〉ボタンを押す**



- ［**情報表示**］の画面が表示されます。

- エラーが発生しているときに〈SET〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

仮想キーボードの操作方法



(1)	文字を入力するエリア（入力エリア）
(2)	入力エリアでのカーソルの移動
(3)	入力した文字数／入力できる文字数
(4)	キーボード
(5)	入力モードの切り換え
(6)	スペース
(7)	入力エリアでの文字の削除
(8)	キーボードの種類の変更
(9)	入力の終了

- （1）は〈 〉で移動します。
- （2）、（4）～（8）は〈 ※ 〉〈 〉〈 〉で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈 SET 〉を押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- ［**情報表示**］の画面で〈SET〉を押す。
- ［**Wi-Fi動作中**］の画面で［**エラー内容の表示**］を選ぶ。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

11	12						
21	22	23					
41	43	44	45	46	47	48	
61	63	64	65	66	67	68	69
91							
121	125	126	127				
151	152						

参考

- エラーが発生したときは、［**Wi-Fi/Bluetooth接続**］の画面の右上に［**Err****］と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- **［□］の場合、Camera Connectは起動していますか？**
  - Camera Connectから接続操作を行ってください（⊘）。

- **［□］の場合、EOS Utilityは起動していますか？**
  - EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください（⊘）。

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
    大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください（⊘）。

12：接続先が見つかりません

- **接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？**
  - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がIPアドレス［自動設定］になっています。この設定で間違いありませんか？**
  - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス［**手動設定**］にして設定を行ってください（🔗）。

DHCPサーバーの確認内容

- **DHCPサーバーの電源は入っていますか？**
  - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- **DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？**
  - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- **DHCPサーバーは正常に機能していますか？**
  - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がDNSアドレス［手動設定］になっています。この設定で間違いありませんか？**
  - DNSサーバーを使用していない場合は、カメラをDNSアドレス［**使わない**］の設定にしてください（ ）。

- **カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？**
  - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（ 、 ）。

DNSサーバーの確認内容

- **DNSサーバーの電源は入っていますか？**
  - DNSサーバーの電源を入れてください。

- **DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？**
  - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。

- **DNSサーバーは正常に機能していますか？**
  - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（ 、 ）。
  - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- **カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？**
  - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
  - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス［**手動設定**］の設定になっているときは、IPアドレス［**自動設定**］の設定にしてください（🔗）。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
  カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（🔗）。

41：FTPサーバーに接続できません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がプロキシサーバー［使う］の設定になっています。この設定で間違いありませんか？**
  - プロキシサーバーを使用していない場合は、プロキシサーバー［**使わない**］の設定にしてください（）。
- **カメラに設定しているプロキシサーバーの［アドレスの設定］と［ポート番号］は、プロキシサーバーと同じ設定になっていますか？**
  - プロキシサーバーと同じアドレス、ポート番号をカメラに設定してください（）。
- **カメラのプロキシサーバーの設定内容は、DNSサーバーに正しく設定されていますか？**
  - 設定したプロキシサーバーの［**アドレス**］が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認してください。
- **カメラに設定しているFTPサーバーのIPアドレスは合っていますか？**
  - FTPサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（）。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。
    大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください（）。
- **カメラに設定しているFTPサーバーの［ポート番号設定］は、FTPサーバーで設定しているポート番号と合っていますか？**
  - ポート番号は通常21（FTP/FTPS）または22（SFTP）で、カメラとFTPサーバーとも同じポート番号を設定します。FTPサーバーのポート番号をカメラに設定してください（）。
- **カメラのFTPサーバーの設定内容は、DNSサーバーに正しく設定されていますか？**
  - 設定したFTPサーバーの［**サーバー名**］が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認してください。また、使用するFTPサーバーの［**サーバー名**］が、カメラに間違いなく設定されているか確認してください（）。

FTPサーバーの確認内容

- **FTPサーバーは正常に機能していますか？**
  - パソコンをFTPサーバーとして機能するよう設定してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。
- **FTPサーバーの電源は入っていますか？**
  - FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

- **FTPサーバーに設定しているIPアドレスは、カメラに設定しているFTPサーバーの［アドレス］と合っていますか？**
  - FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、カメラに設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にしてください（ ）。
- **セキュリティソフトウェアのファイアウォールを有効にしていませんか？**
  - セキュリティソフトウェアによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
  - カメラの設定で［**パッシブモード**］を［**使う**］にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります（ ）。
- **ブロードバンドルーターを介してFTPサーバーに接続していませんか？**
  - ブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
  - カメラの設定で［**パッシブモード**］を［**使う**］にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります（ ）。

プロキシサーバーの確認内容

- **プロキシサーバーの電源は入っていますか？**
  - プロキシサーバーの電源を入れてください。
- **プロキシサーバーは正常に機能していますか？**
  - プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレスの設定とポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（ 、 ）。
  - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

43 : FTPサーバーに接続できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

プロキシサーバーの確認内容

- **プロキシサーバーの電源は入っていますか？**
  - プロキシサーバーの電源を入れてください。
- **プロキシサーバーは正常に機能していますか？**
  - プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレスの設定とポート番号を聞いて、その内容をカメラに設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（、）。
  - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

FTPサーバーの確認内容

- **FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続していませんか？**
  - FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やしてください。

44 : FTPサーバーから切断できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

- **FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかないときに表示されるエラーです。**
  - FTPサーバーとカメラの電源を入れなおしてください。

45 : FTPサーバーにログオンできません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

カメラの確認内容

- **カメラに設定している［ログオン名］は正しいですか？**
  - FTPサーバーにログオンするログオン名を確認してください。また、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン名をカメラに設定してください（）。
- **カメラに設定している［ログオン・パスワード］は正しいですか？**
  - FTPサーバーにログオン・パスワードが設定されているときは、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン・パスワードをカメラに設定してください（）。

FTPサーバーの確認内容

- **FTPサーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？**
  - FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- **FTPサーバーで転送先に指定されているフォルダの名称は、すべてASCII文字で構成されていますか？**
  - フォルダ名をASCII文字で構成してください。

46：データセッションに対し、FTPサーバーからのリプライコードがエラーを示しています

FTPサーバーの確認内容

- **FTPサーバーが接続を切断しました。**
  - FTPサーバーを再起動してください。
- **FTPサーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？**
  - FTPサーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- **FTPサーバーの保存先フォルダにアクセス権を設定していませんか？**
  - カメラから転送された画像が保存できるよう、FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定してください。
- **FTPサーバーの電源は入っていますか？**
  - FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
- **FTPサーバーのハードディスクがいっぱいになっていませんか？**
  - ハードディスクの空き容量を増やしてください。

47：FTPサーバーから、画像ファイルの転送完了通知を取得できませんでした

- **FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかったときに表示されるエラーです。**
  - FTPサーバーとカメラの電源を入れなおし、画像を再度転送してください。

48：送信先サーバーとの接続の安全性を確認できません。このサーバーを信頼して接続する場合は、［送信先サーバーを信頼］を［する］に設定してください

- **FTPS接続時に送信先サーバーとの接続の安全性を確認できなかったときに表示されるエラーです。**
  - 証明書が正しく設定されているか確認してください。
  - 証明書設定に関わらず送信先サーバーを信頼する場合は、［**送信先サーバーを信頼**］設定を［**する**］に変更してください。

61：同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

カメラの確認内容

- **カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？**
  - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください（）。

アクセスポイントの確認内容

- **アクセスポイントの電源は入っていますか？**
  - アクセスポイントの電源を入れてください。
- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください（）。

63：無線LANの認証に失敗しました

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
  - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください（）。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
  - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - カメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（）。

64：無線LAN端末に接続できません

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**
  - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです（ ）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
    MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（ ）。

65：無線LANの接続が切れました

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

- **何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。**
  - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11n/g/b（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます。

66：無線LANのパスワードが違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
  - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラとアクセスポイントに設定してください（ ）。
    なお、暗号化の認証方式が［**オープン**］の場合は、エラー41が表示されます（ ）。

67：無線LANの暗号方式が違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**
  - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです（ ）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。
    MACアドレスは［**MACアドレス**］画面で確認できます（ ）。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- **アクセスポイントのWPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押しつづけましたか？**
  - WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押しつづけてください。

- **アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？**
  - 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- **ほかのアクセスポイントがWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。**
  - しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- **エラー11～83以外の異常が発生しました。**
  - カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- **送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。**
  - Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- **ネットワークが接続されていますか？**
  - ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

- **image.canonがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。**
  - しばらくしてから接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

- **Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。**
  - image.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

151：送信を中止しました

- **何らかの理由で、画像の自動送信が中断されました。**
  - カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- **カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？**
  - カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用について

- カメラとスマートフォンがBluetooth接続されているときは、BR-E1を使用することはできません。［((ᛘ)) : **Wi-Fi/Bluetooth接続**］の［**ワイヤレスリモコンと接続**］で、カメラの接続先をワイヤレスリモコンに変更してください。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
  悪意ある第三者によって無線LANの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

Windowsの場合

Windowsの［**コマンドプロンプト**］を開き、ipconfig /all と入力して〈Enter〉キーを押します。
パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

macOSの場合

macOSの［**ターミナル**］を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。［**enX**］（Xは数字）項目［**inet**］の***.***.***.***がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。
［**ターミナル**］については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、IPアドレスの手動設定でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。
例）192.168.1.**10**

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

クイック設定画面
再生時の情報表示画面

(1)Wi-Fi機能
(2)Bluetooth機能
(3)電波強度

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない	OFF	消灯
	Wi-Fi：使う	OFF	
接続開始		（点滅）	
接続中			
送信中			
接続エラー		（点滅）	

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
［使わない］以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
［使わない］	Bluetooth未接続	非表示

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。
タイトル右の 応用 は、［Fv］［P］［Tv］［Av］［M］［BULB］モード限定の機能であることを示しています。

- メニュー目次：機能設定タブ
- 記録・再生するカードを選択する
- フォルダの設定
- 画像番号
- ファイル名の設定
- カード初期化
- 縦位置画像回転表示
- 動画縦位置情報の付加
- 日付／時刻／エリア
- 言語
- ビデオ方式
- ヘルプ機能
- 電子音
- ヘッドフォン音量
- 節電
- エコモード
- 画面の表示先設定
- モニターの明るさ
- ファインダーの明るさ
- モニター／ファインダーの色調
- ファインダーの色調微調整
- メニュー画面の拡大
- HDMI出力解像度
- タッチ操作
- マルチ電子ロック
- 電源オフ時のシャッター状態
- センサークリーニング
- カメラの初期化 応用
- カスタム撮影モード（C1-C3） 応用
- バッテリー情報
- 著作権情報 応用
- その他の情報

メニュー目次：機能設定タブ

機能設定1

（1）記録機能とカード・フォルダ選択
- 記録・再生するカードを選択する
- フォルダの作成

（2）画像番号

（3）ファイル名の設定

（4）カード初期化

（5）縦位置画像回転表示

（6）縦位置情報の付加

（7）日付/時刻/エリア

機能設定2

（1）言語

（2）ビデオ方式

（3）ヘルプの文字サイズ

（4）電子音

（5）ヘッドフォン音量

（6）節電

（7）エコモード

● 機能設定3

(1) 画面の表示先設定
(2) モニターの明るさ
(3) ファインダーの明るさ
(4) モニター／ファインダーの色調
(5) ファインダーの色調微調整
(6) メニュー画面の拡大

● 機能設定4

(1) HDMI出力解像度
(2) タッチ操作
(3) マルチ電子ロック
(4) 電源オフ時のシャッター状態
(5) センサークリーニング

● 機能設定5

（1）カメラの初期化 応用

（2）カスタム撮影モード（C1-C3） 応用

（3）バッテリー情報

（4）著作権情報 応用

（5）使用説明書・ソフトウェア URL

（6）認証マーク表示 応用

（7）ファームウェア 応用

● ［A+］モードおよび［SCN］モードのときは、［5］は以下の画面が表示されます。

（1）バッテリー情報

（2）使用説明書・ソフトウェア URL

記録・再生するカードを選択する

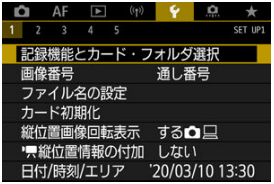
カードを2枚入れたときの記録方法の設定

カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

カメラにカード［1］、またはカード［2］のどちらかが入っていれば、撮影した画像を記録することができます（一部の条件を除く）。カードを1枚だけ入れたときは、このあとの操作を行う必要はありません。
カードを2枚入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

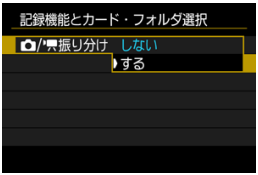
カードを2枚入れたときの記録方法の設定

1. **［：記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ**



2. 記録方法を設定する

● 📷/🎥振り分け



- ［**する**］に設定すると、静止画と動画の記録方法が自動設定されます。動画はカード［1］、静止画はカード［2］に記録されます。
- カード［1］が入っていないときや、空き容量がなくなったときは動画撮影はできません。
- カード[2]が入っていないときは、静止画撮影はできますが、保存することはできません。空き容量がなくなったときは、静止画撮影はできません。

注意

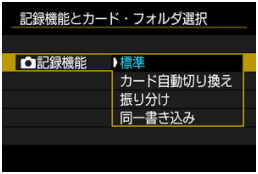
- ［**する**］に設定すると、［**📷記録機能**］、［**🎥記録機能**］、［**📷記録・再生**］、［**🎥記録・再生**］は、設定できません。

参考

- ［**する**］に設定すると、動画撮影状態で〈▶〉ボタンを押したときは、カード［1］内の動画が再生されます。静止画撮影状態で、〈▶〉ボタンを押したときは、カード［2］内の画像が再生されます。

● 記録機能

静止画撮影時の記録方法を設定します。



- **標準**

  ［**記録・再生**］で選択したカードに静止画が記録されます。

- **カード自動切り換え**

  ［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると撮影が終了します。再度撮影を開始すると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。このとき、新しいフォルダが作成されます。

- **振り分け**

  カードごとに記録する画像サイズを設定することができます（）。
  1回の撮影でカード1とカード2に、設定した記録画質の静止画が記録されます。
  なお、RAW画像のときは、RAWとCRAWを振り分けることはできません。

- **同一書き込み**

  1回の撮影でカード1とカード2に同じ静止画が記録されます。

注意

- ［**振り分け**］設定時に、カード1とカード2の画像サイズの設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります（）。

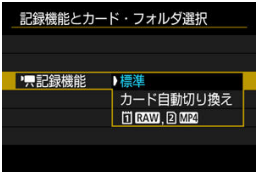
参考

振り分け／同一書き込み

- カード1とカード2に同じ画像番号で記録されます。
- ファインダー内とクイック設定画面には、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。
- どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード*がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときはカードを交換するか、［**記録機能**］を［**標準**］にして空き容量のあるカードを選ぶと、撮影することができます。
- ［**：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**フォルダ**］についてはフォルダの設定を参照してください。

● 記録機能

動画撮影時の記録方法を設定します。



- **標準**

  ［**記録・再生**］で選択したカードに動画が記録されます。

- **カード自動切り換え**

  ［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、動画撮影は終了します。再度、動画撮影を開始するともう一方のカードに切り換わり記録されます。切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

- **RAW, MP4**

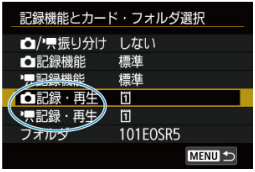
  1回の撮影でRAW形式の動画がカード1、MP4形式の動画がカード2に、同じ画像番号で記録されます。どちらかのカードの空き容量がなくなると、それ以上は撮影できません。

カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

［**記録機能**］［**記録機能**］を［**標準**］［**カード自動切り換え**］に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。
［**記録機能**］を［**振り分け**］［**同一書き込み**］、または［**記録機能**］を［1 RAW, 2 MP4］に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

メニュー画面で設定

● 標準／カード自動切り換え



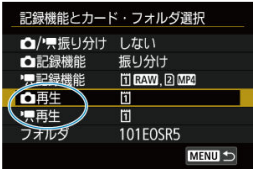
［記録・再生］を選ぶ

- 静止画の設定をするときは［**記録・再生**］、動画の設定をするときは［**記録・再生**］を選びます。

  1：カード1に記録、カード1の画像を再生

  2：カード2に記録、カード2の画像を再生

● 振り分け／同一書き込み／1 RAW, 2 MP4



［再生］を選ぶ

- 静止画の設定をするときは［**再生**］、動画の設定をするときは［**再生**］を選びます。
- 静止画撮影状態で、〈▶〉ボタンを押したときは、［**再生**］で選択したカード内の画像が再生されます。
- 動画撮影状態で、〈▶〉ボタンを押したときは、［**再生**］で選択したカード内の画像が再生されます。

参考

- ［**を優先設定**］を設定すると、カードの抜き差しが行われたとき、優先設定したカードに切り換わります。

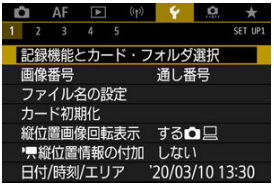
フォルダの設定

- フォルダの作成
- フォルダ名の変更
- フォルダの選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。またフォルダ名を変更することもできます。

フォルダの作成

1. **［：記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ**



2. **［フォルダ］を選ぶ**

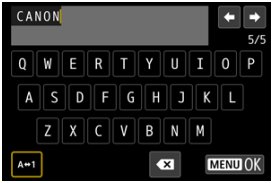
3. ［フォルダ作成］を選ぶ

4. ［OK］を選ぶ

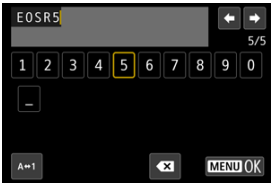
- フォルダ名を変更したいときは［**フォルダ名変更**］を選びます。

フォルダ名の変更

1. 任意の英数字を入力する



- 5文字入力できます。
- ［A↔1］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- ［⌫］を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

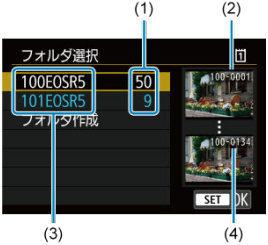


- 〈◎〉〈✲〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。

2. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

フォルダの選択



(1) フォルダ内画像数

(2) 最小番号画像

(3) フォルダ名

(4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- フォルダ名は、「**100EOSR5**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「 _ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

画像番号

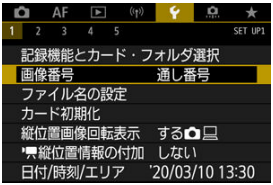
- 通し番号
- オートリセット
- 強制リセット

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

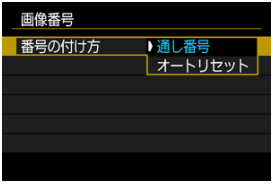
（例）
IMG_0001.JPG
（1）

（1）画像番号

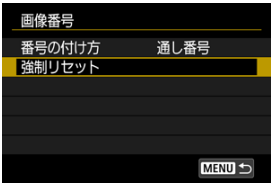
1. ［：画像番号］を選ぶ



2. 項目を設定する



- ［**番号の付け方**］を選びます。
- ［**通し番号**］［**オートリセット**］のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、［**強制リセット**］を選びます（）。

- ［**OK**］を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

注意

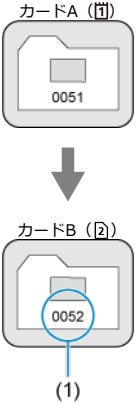
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

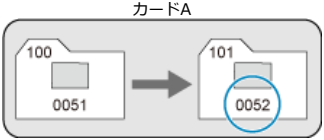
カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1→2）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。
ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合



(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

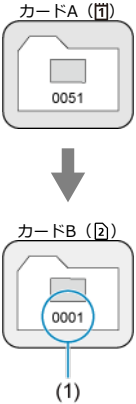


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

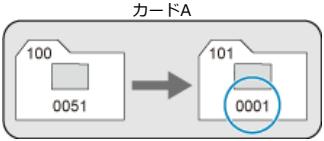
カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1→2）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。
ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合



(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

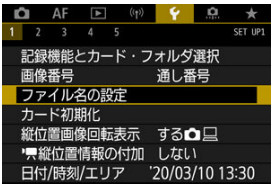
ファイル名の設定

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

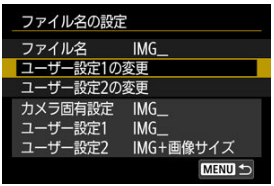
（例）
IMG_0001.JPG

ファイル名の登録・変更

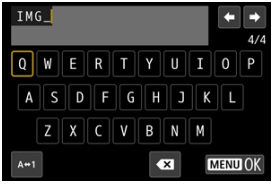
1. **［：ファイル名の設定］を選ぶ**



2. **［ユーザー設定*の変更］を選ぶ**



3. 任意の英数字を入力する



- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- ［A↔1］を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- ［⌫］を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

- 〈◎〉〈✲〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

5. 登録したファイル名を選ぶ

- ［**ファイル名**］を選び、登録したファイル名を選びます。

注意

- 「 _ 」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

参考

ユーザー設定2について

- ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。
  「***L」＝◢L/▟L/RAW/HEIF
  「***M」＝◢M/▟M
  「***S」＝◢S1/▟S1
  「***T」＝S2
  「***C」＝CRAW
  パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像、HEIF画像は、拡張子から判別することができます。
- ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「 _ 」（アンダーバー）になります。

カード初期化

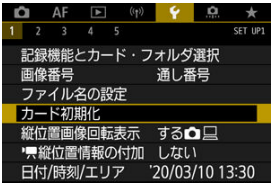
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

注意

- **カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**

---

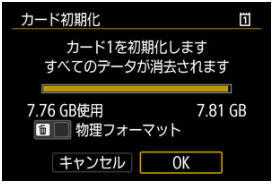
1. ［：カード初期化］を選ぶ



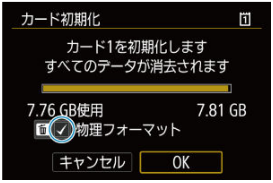
2. カードを選ぶ

- ［1］はカード1、［2］はカード2です。
- カードを選びます。

3. 初期化する



- ［**OK**］を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［**OK**］を選びます。

カードの初期化が必要な場合

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき**
- **画像やデータでカードがいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき（🔗）**

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

- CFexpressカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

注意

- このカメラで初期化したカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

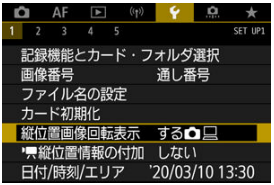
参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

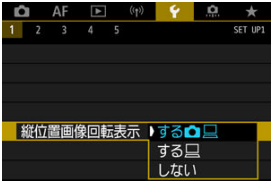
縦位置画像回転表示

縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. ［：縦位置画像回転表示］を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **する**
  カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **する**
  パソコンでの表示で自動回転表示を行います。

- **しない**
  自動回転しません。

注意

- ［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

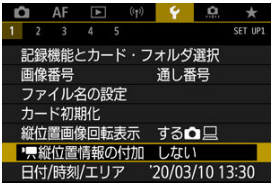
参考

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

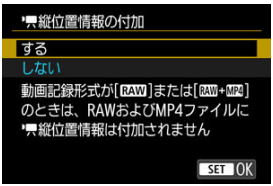
動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。

1. ［：縦位置情報の付加］を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **する**
  スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。

- **しない**
  スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

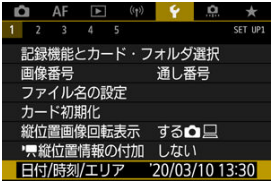
注意

- 動画記録形式がRAWまたは、RAW＋MP4のときは、RAWおよびMP4ファイルに［**縦位置情報の付加**］は設定できません。
- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、設定に関わらず、横位置で再生されます。

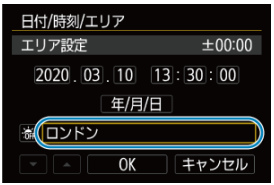
日付／時刻／エリア

初めて電源を入れたときや、日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておくと、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付／時刻に変更されます。
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

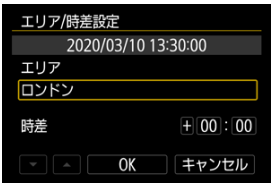
1. ［：日付/時刻/エリア］を選ぶ



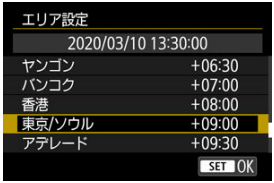
2. エリアを設定する



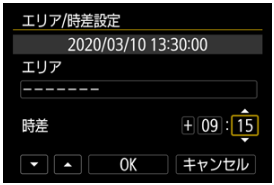
- 〈◎〉を回して［**エリア設定**］を選びます。



- 〈SET〉を押します。

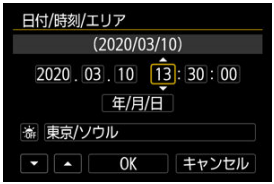


- 〈◎〉を回してエリアを選び、〈SET〉を押します。
- 該当するエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押して［**時差**］（協定世界時との時差）で設定します。



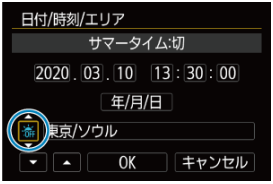
- 〈◎〉を回して［**時差**］の項目（+–/時/分）を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します。
- エリア／時差の設定が終わったら、〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。

3. 日付／時刻を設定する



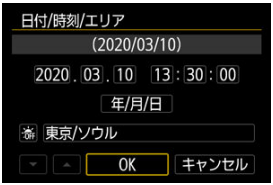
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して設定し、〈SET〉を押します。

4. サマータイムを設定する



- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［☀off］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［☀］を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。［☀off］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する



- 〈◎〉を回して［**OK**］を選びます。

注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付／時刻／エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- ［**エリア/時差設定**］の内容を変更したときは、日付／時刻が正しく設定されているか確認してください。

参考

- ［**：日付/時刻/エリア**］の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

言語

1. **[: 言語] を選ぶ**

2. **言語を設定する**

ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. **［：ビデオ方式］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**

- **NTSC**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

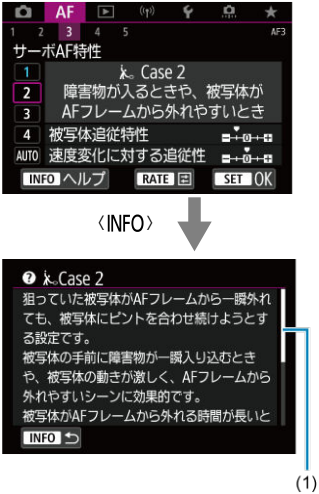
- **PAL**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

ヘルプ機能

ヘルプの文字サイズの変更

［INFO **ヘルプ**］が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈◎〉を回します。

- **［AF：Case 2］の例**



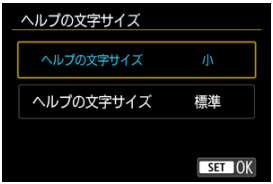
● ［🔧：マルチ電子ロック］の例

マルチ電子ロック
メイン電子ダイヤル
OK
キャンセル
INFO ヘルプ
〈INFO〉
マルチ電子ロック
マルチ電子ロックボタンでロック操作をしたときに、操作を禁止する対象に✓マークを付けます。
不用意な設定変更を防止することができます
INFO

ヘルプの文字サイズの変更

1. **［：ヘルプの文字サイズ］を選ぶ**

2. **項目を選ぶ**



電子音

1. [: 電子音] を選ぶ

2. 項目を選ぶ

- **入**
  ピントが合ったときや、タッチ操作時に電子音が鳴ります。

- **タッチ音切**
  タッチ操作時の電子音を消します。

- **切**
  ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作時の電子音を消します。

ヘッドフォン音量

1. ［：ヘッドフォン音量］を選ぶ

2. 音量を調節する

- 〈◎〉を回して音量を調節し、〈SET〉を押します。

参考

- ［：**録音**］が［**しない**］以外、［**ハイフレームレート**］が［**切**］のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

節電

カメラを操作しない状態で画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）やファインダーの表示が消えるまでの時間（ファインダーオフ）を変えることができます。

1. ［：節電］を選ぶ

2. 項目を選ぶ

参考

- ［**オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定しても、［**ディスプレイオフ**］の設定時間後にモニターの表示が消えます。
- ［：**エコモード**］を［**入**］にしているときは、［**ディスプレイオフ**］と［**オートパワーオフ**］の設定は無効になります。

エコモード

撮影モードでのバッテリーの消耗をおさえる機能です。カメラを操作していないときに画面が暗くなり、消費電力が抑えられます。

1. ［：エコモード］を選ぶ

2. ［入］を選ぶ

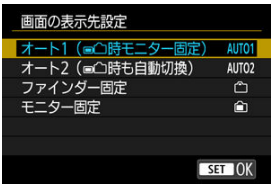
- カメラを操作しないと約2秒後に画面が暗くなります。その約10秒後に画面が消えます。
- 画面が消えている状態のときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

画面の表示先設定

ディスプレイを開いているときに、意図せず接眼センサーが反応してしまうことを防ぐために、画面の表示先を設定することができます。

1. ［：画面の表示先設定］を選ぶ

2. 項目を選ぶ



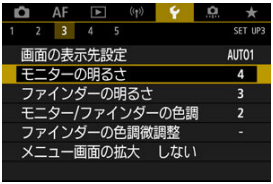
- **AUTO1：オート1（時モニター固定）**
  バリアングルが開いているときは、常にモニター表示になります。
  バリアングルを閉じて、ディスプレイが開いているときは、通常はモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。
- **AUTO2：オート2（時も自動切換）**
  常にモニター表示を行い、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換わります。
- **：ファインダー固定**
  常にファインダー表示になります。
- **：モニター固定**
  ディスプレイを開いているときは常にモニター表示になります。

参考

- ボタンカスタマイズで登録した切換ボタンを押してファインダー表示、モニター表示を切り換えることもできます。［**AUTO1**］、［**AUTO2**］設定時は接眼センサーの反応があった場合はその状態に従って動作します。
- ［**AUTO1**］設定時、バリアングルを閉じているときは、接眼センサーは反応しますが、開いているときは反応しません。

モニターの明るさ

1. **［：モニターの明るさ］を選ぶ**



2. **調整する**

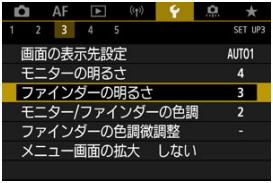
- グレーチャートを参考にして〈◎〉を回し、〈SET〉を押します。効果はモニターで確認してください。

参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（）で確認することをおすすめします。

ファインダーの明るさ

1. **［：ファインダーの明るさ］を選ぶ**

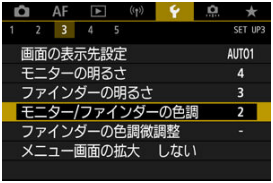


2. **調整する**

- グレーチャートを参考にして〈◎〉を回し、〈SET〉を押します。効果はファインダーで確認してください。

モニター／ファインダーの色調

1. **［🔧：モニター/ファインダーの色調］を選ぶ**

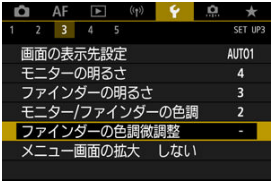


2. **調整する**

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

ファインダーの色調微調整

1. **［：ファインダーの色調微調整］を選ぶ**



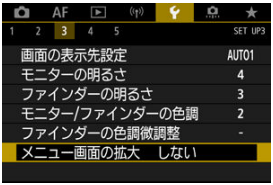
2. **調整する**

- グレーチャートを参考にして〈✲〉を動かし、〈SET〉を押します。効果はファインダーで確認してください。

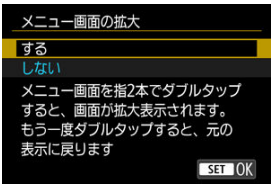
メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。

1. ［：メニュー画面の拡大］を選ぶ



2. ［する］を選ぶ



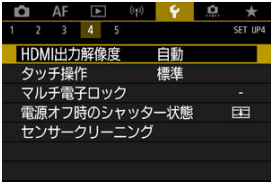
注意

- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

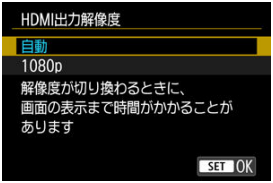
HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. **［：HDMI出力解像度］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**

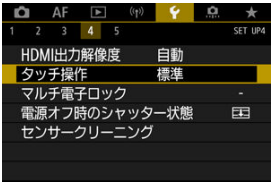


- **自動**
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- **1080p**
  1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

タッチ操作

1. ［：タッチ操作］を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- ［**敏感**］に設定すると、［**標準**］に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、［**しない**］を選びます。

注意

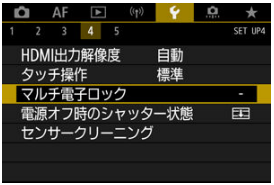
タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- ［**敏感**］設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

マルチ電子ロック

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。

1. ［：マルチ電子ロック］を選ぶ



2. 操作を禁止する操作部材を選ぶ

- 〈SET〉を押すと、［✓］が表示されます。
- ［**OK**］を選びます。
- 〈LOCK〉ボタンを押すと、［✓］をつけた操作部材がロックされます。

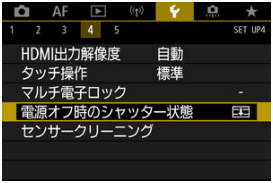
参考

- 初期状態から設定が変更されているときは、［：**マルチ電子ロック**］の右端に「＊」が表示されます。

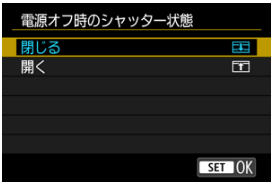
電源オフ時のシャッター状態

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、シャッターを閉じるか閉じないかの設定をすることができます。

1. **［：電源オフ時のシャッター状態］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



- **：閉じる**
  シャッターを閉じます。レンズ交換時、センサーへのゴミの付着を防止するため通常は閉じるに設定します。

- **：開く**
  シャッターを開いたままにします。カメラの電源スイッチを〈ON〉〈OFF〉したときの音を抑えます。静かに撮影したいときに有効です。

参考

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずシャッターは動作しません。

センサークリーニング

今すぐクリーニング

自動クリーニング

手作業での清掃 応用

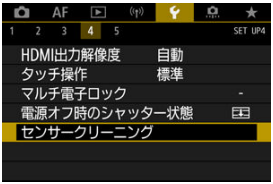
このカメラは、撮像素子前面を清掃する、センサークリーニング機能を備えています。

参考

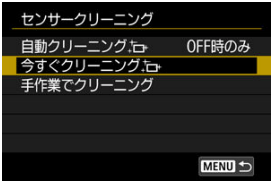
- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。

今すぐクリーニング

1. **[: センサークリーニング] を選ぶ**



2. ［今すぐクリーニング］を選ぶ



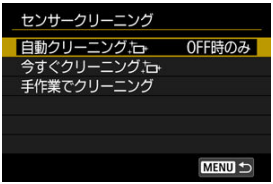
- 確認画面で［**OK**］を選びます。

参考

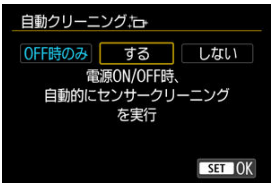
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が選べないことがあります。

自動クリーニング

1. **［自動クリーニング］を選ぶ**



2. **項目を選ぶ**



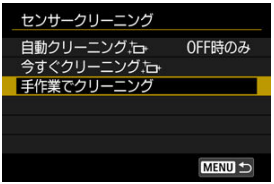
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

手作業での清掃

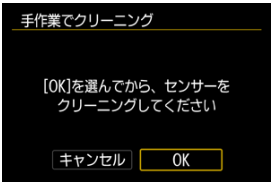
応用

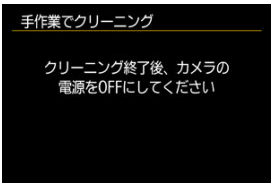
自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。
必ずフル充電したバッテリーを使用してください。
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。

1. ［手作業でクリーニング］を選ぶ



2. ［OK］を選ぶ





3. レンズを取り外して撮像素子を清掃する

4. 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

参考

- 家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

注意

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じるため、撮像素子やシャッター幕が損傷する恐れがあります。**
  - **電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **バッテリーを取り出す／入れる**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕を破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

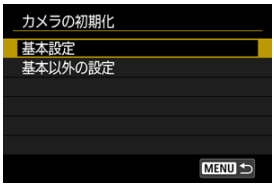
カメラの初期化

応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1. ［：カメラの初期化］を選ぶ

2. 項目を選ぶ



- **基本設定**
  カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定内容を初期状態に戻します。

- **基本以外の設定**
  選択した項目の設定内容を初期化することができます。

3. 初期化する

- 確認画面で［**OK**］を選びます。

参考

- ［**基本以外の設定**］の［**カスタム撮影モード（C1-C3）**］を選択したとき、静止画撮影状態のときは静止画のカスタム撮影モード、動画撮影状態のときは動画のカスタム撮影モードが、初期化されます。

カスタム撮影モード（C1-C3）

応用

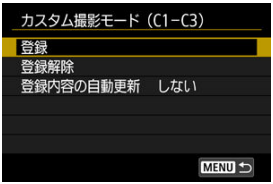
登録内容の自動更新

カスタム撮影モードの登録解除

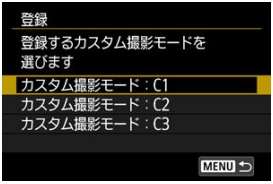
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの［C1P］～［C3P］にカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。

1. ［：カスタム撮影モード（C1-C3）］を選ぶ

2. ［登録］を選ぶ



3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、［**登録**］の画面で［**OK**］を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で［**登録内容の自動更新**］を［**する**］に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

参考

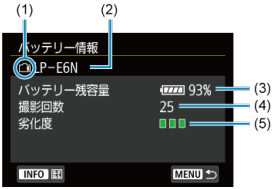
- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

バッテリー情報

- バッテリーをカメラに登録する
- バッテリーのシリアル番号が一目でわかるようにする
- 登録済みで使用していないバッテリーの残量の確認方法
- 登録したバッテリー情報を消去する

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。また、複数のバッテリーをカメラに登録しておくと、登録済みのバッテリーのおおよその残量や、使用履歴を確認することができます。

1. ［：バッテリー情報］を選ぶ



(1) バッテリー位置
(2) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。
(3) バッテリー残量表示（）とともに、残量が1%単位で表示されます。
(4) 使用しているバッテリーで撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。
(5) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

■■■（緑）：劣化していません
■■□（緑）：少し劣化しています
■□□（赤）：バッテリーの買い換えをおすすめします

注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6NH/LP-E6Nの使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

参考

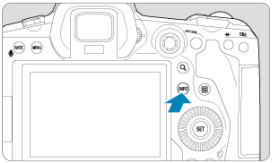
- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-R10（別売）使用時もバッテリー情報が表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

バッテリーをカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数のバッテリーを登録するときは、バッテリーごとに以下の操作を行ってください。

1. 〈INFO〉ボタンを押す

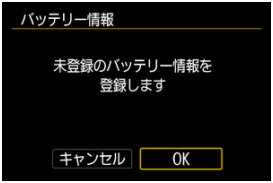
- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO〉ボタンを押します。
- 登録されていないバッテリーは灰色で表示されます。



2. ［登録］を選ぶ

3. ［OK］を選ぶ

- バッテリーの表示が白色に変わります。



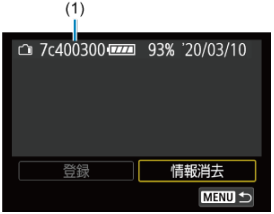
参考

- 家庭用電源アクセサリー（別売／）使用時は、バッテリーの登録はできません。

バッテリーのシリアル番号が一目でわかるようにする

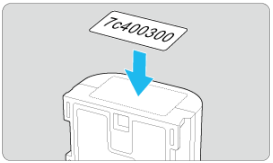
登録したバッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに記載して、バッテリーに貼っておくと便利です。

1. シリアル番号（1）をシール（25mm×15mm程度）に記載する



2. シールを貼る

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- カメラからバッテリーを取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼ります。



注意

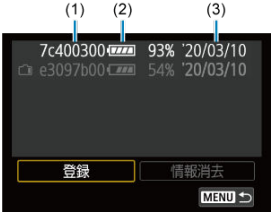
- 手順2の図以外の位置にシールを貼らないでください。バッテリーが入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-R10（別売）使用時は、バッテリーマガジンへのバッテリーの取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していないバッテリーの残量の確認方法

現在使用していないバッテリーの残量や前回使用した日を、確認することができます。

1. シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、バッテリーに貼ってあるシールのシリアル番号（1）を照合します。
- 手元にあるバッテリーのおおよその残量（2）や、前回使用した日（3）を確認することができます。



登録したバッテリー情報を消去する

1. ［情報消去］を選ぶ

- バッテリーをカメラに登録するの手順2で［**情報消去**］を選びます。

2. 消去するバッテリーを選ぶ

- ［✓］が表示されます。

3. 〈🗑〉ボタンを押す

- 確認画面で［**OK**］を選びます。

著作権情報

応用

著作権情報の確認

著作権情報の消去

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

注意

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、［**著作権情報の表示**］を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

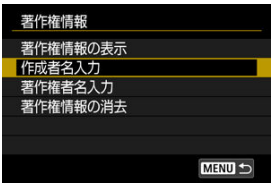
参考

- EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

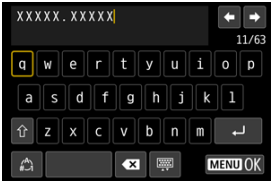
---

1. ［：著作権情報］を選ぶ

2. 項目を選ぶ



3. 文字を入力する



- 〈◎〉〈✲〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [⌂]を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [⌫]を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

著作権情報の確認

手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

● 使用説明書・ソフトウェア URL

［**：使用説明書・ソフトウェア URL**］を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示 応用

［**：認証マーク表示**］を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア 応用

［**：ファームウェア**］を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリーのファームウェアをアップデートすることができます。

カスタム機能／マイメニュー

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

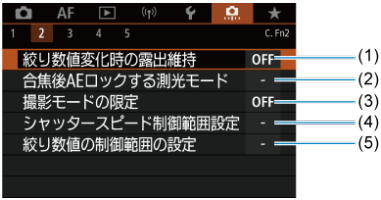
- メニュー目次：カスタム機能タブ
- カスタム機能で変更できる内容
- メニュー目次：マイメニュータブ
- マイメニューの登録

メニュー目次：カスタム機能タブ

● カスタム機能1

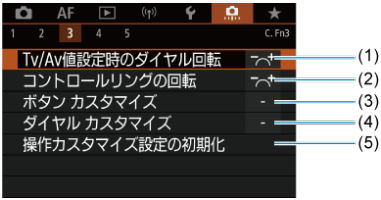
(1) 露出設定ステップ
(2) ISO感度設定ステップ
(3) ISOオートで測光中にISO感度変更
(4) ブラケティング自動解除
(5) ブラケティング順序
(6) ブラケティング時の撮影枚数
(7) セイフティシフト

● カスタム機能2



(1) 絞り数値変化時の露出維持
(2) 合焦後AEロックする測光モード
(3) 撮影モードの限定
(4) シャッタースピード制御範囲設定
(5) 絞り数値の制御範囲の設定

カスタム機能3



(1) Tv/Av値設定時のダイヤル回転
(2) コントロールリングの回転
(3) ボタン カスタマイズ
(4) ダイヤル カスタマイズ
(5) 操作カスタマイズ設定の初期化

カスタム機能4

(1) トリミング情報の付加
(2) 音声圧縮
(3) 画像消去の初期設定
(4) レンズなしレリーズ
(5) 電源オフ時のレンズ収納
(6) IPTC情報の付加

● カスタム機能5

（1）カスタム機能(C.Fn)一括解除
［ : **カスタム機能(C.Fn)一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能で変更できる内容

- C.Fn1
- C.Fn2
- C.Fn3
- C.Fn4
- C.Fn5

撮影スタイルに応じて、[ ] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1

露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正、FEBのステップを1/2段ステップに設定することができます。

- **1/3：1/3段**
- **1/2：1/2段**

参考

- ［**1/2段**］設定時は、図のように表示されます。

ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- **1/3：1/3段**
- **1/1：1段**

参考

- ［**1段**］に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

ISOオートで測光中にISO感度変更

［P］［Tv］［Av］［M］［B］モードで、ISO感度がオートのときに、測光中または測光タイマー中に、ISO感度を変更した場合に、測光タイマー完了後のISO感度の状態を設定することができます。

- **AUTO↺：測光タイマー後オートに戻す**
- **AUTO⊘：測光タイマー後オートに戻さない**

ブラケティング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケティングの解除を設定することができます。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- **0−＋：0→−→＋**
- **−0＋：−→0→＋**
- **＋0−：＋→0→−**

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
＋ ：プラス補正	＋ ：アンバー寄りに補正	＋ ：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を変更することができます。
なお、［**ブラケティング順序**］を［**0→–→+**］に設定したときは、下表のように撮影されます。

- **3：3枚**
- **2：2枚**
- **5：5枚**
- **7：7枚**

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	–1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	–2	–1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	–3	–2	–1	+1	+2	+3

参考

- ［**2枚**］設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または–）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向のマイナス補正になります。

セイフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。[**Tv値/Av値**] は [Tv]、[Av] モードで機能します。[**ISO感度**] は [P]、[Tv]、[Av] モードで機能します。

- **OFF : しない**
- **Tv/Av : Tv値/Av値**
- **ISO : ISO感度**

参考

- [: **ISO感度に関する設定**] で、[**ISO感度の範囲**] [**オートの低速限界**] が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、[**オートの範囲**] の設定によります ( )。ただし、手動設定されているISO感度が [**オートの範囲**] を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持

[M] モード（マニュアル露出撮影）＋ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッタースピード（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。
[**ISO感度/Tv値**] は、ISO感度設定範囲内でISO感度を自動的に変更します。ISO感度を変更しても露出が維持できないときは、シャッタースピード（Tv値）を自動的に変更します。

- **OFF : しない**
- **ISO : ISO感度**
- **ISO/Tv : ISO感度/Tv値**
- **Tv : Tv値**

注意

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- [**ISO感度**] 設定時に、[**ISO感度の範囲**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- [**Tv値**] 設定時に、[: **シャッタースピード制御範囲設定**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。

参考

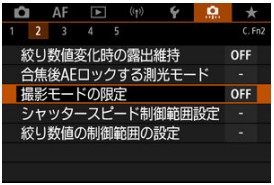
- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- [**ISO感度**] [**ISO感度/Tv値**] [**Tv値**] の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- [**ISO感度**] 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッタースピードが変化することがあります。

合焦後AEロックする測光モード

ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。AEロックする測光モードを選び、［✓］を付けます。［**OK**］を選ぶと設定されます。

撮影モードの限定

1. **［：撮影モードの限定］を選ぶ**



2. **［する］を選ぶ**

3. **〈Q〉ボタンを押す**

4. 撮影モードを選ぶ

- 〈◎〉を回して、撮影モードを選び〈SET〉を押して［✓］を付けます。

注意

- 撮影モードの限定で設定した内容は、［C1P］［C2P］［C3P］には登録されません。
- ［📷：**撮影モードの限定**］を［**する**］にすると、［A+］は使用できなくなります。
- 9項目すべての［✓］を外すことはできません。

シャッタースピード制御範囲設定

シャッタースピードの制御範囲を設定することができます。［Fv］［Tv］［M］モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードを手動設定することができます。［P］［Av］モードのときや、［Fv］モードでシャッタースピードを［**AUTO**］にしたときは、設定した範囲でシャッタースピードが自動設定されます（動画撮影時を除く）。［**OK**］を選ぶと設定されます。

- **低速側**
  30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。
- **高速側**
  1/8000～15秒の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。［Fv］［Av］［M］［BULB］モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。［P］［Tv］モードのときや、［Fv］モードで絞り数値を［**AUTO**］にしたときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。［**OK**］を選ぶと設定されます。

- **開放側**
  F1.0～F64の範囲で設定することができます。
- **小絞り側**
  F91～F1.4の範囲で設定することができます。

参考

- 絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

C.Fn3

Tv/Av値設定時のダイヤル回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが［M］のときは〈 〉〈 〉〈 〉、それ以外の撮影モードでは〈 〉の設定方向が反転します。［M］モード時に〈 〉〈 〉を操作したときの設定方向と、［P］［Tv］［Av］モード時に〈 〉〈 〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

- **：通常**
- **：設定方向を反転**

コントロールリングの回転

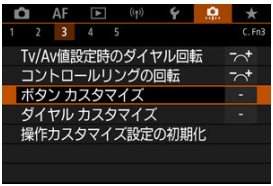
シャッタースピード、絞り数値設定時のRFレンズやマウントアダプターのコントロールリングによる設定方向を反転させることができます。

- **：通常**
- **：設定方向を反転**

ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。

1. ［ ：ボタン カスタマイズ］を選ぶ



2. 操作部材を選ぶ

3. 割り当てる機能を選ぶ

- 〈SET〉を押すと設定されます。
- 画面左下に［INFO］が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- ［：**ボタン カスタマイズ**］の設定は、［：**カスタム機能(C.Fn)一括解除**］を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、［：**操作カスタマイズ設定の初期化**］を選んでください。

割り当て可能な機能一覧

AF

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能			MODE	AF-ON				LENS	M-Fn		SET	
AF 測光・AF開始	●			●	○	○	○	○				
AF-OFF AF停止		○	○	○	○	○	○	●	○	○		
AFフレーム選択		○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	
AFフレームダイレクト選択												○
AFフレーム中央戻し		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	
AF↔ 登録AF機能に切り換え*1				○	○	○	○	○				
AF方式ダイレクト選択*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ONE SHOT SERVO ワンショットAF ⇄サーボAF*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
AF 瞳AF*1				○	○	○	○	○				
タッチ&ドラッグAF		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
瞳検出		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
PEAK ピーキング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

フォーカスガイド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドライブモード*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。

露出補正

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能			MODE	AF-ON		FEB		LENS	M-Fn		SET	
AF-OFF AEロック・AF停止		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
測光開始	○											
AEロック		○	○	○	●*3	○	○	○	○	○		
AEロック（ホールド）		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
AEロック（押している間）*1	○											
AEL FEL AEロック/FEロック*1		○	○	○	●*4	○	○	○	○	○		
露出補正（押しながら）				○	○	○	○	○			○	
ISO ISO感度設定（押しながら）				○	○	○	○	○			○	
FEL FEロック*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○		

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。
＊3：動画撮影時の初期値
＊4：静止画撮影時の初期値

画像

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能			MODE	AF-ON		E-B		LENS	M-Fn		SET	
記録画質選択*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
RAW JPEG ワンタッチ記録画質切換*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
RAW JPEG H ワンタッチ記録画質切換（ホールド）*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
静止画クロップ/アスペクト		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
オートライティングオプティマイザ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ピクチャースタイル選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
プロテクト		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
★ レーティング		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
記録機能とカード・フォルダ選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。

動画

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能			MODE	AF-ON				LENS	M-Fn		SET	
ゼブラ選択*2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
動画撮影		●	○	○	○		○	○	○	○		
SERVO AF 動画サーボAF一時停止			○	○	○	○	○	○	○	○	○	

＊2：静止画撮影の設定では割り当てできません。

操作

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能			MODE	AF-ON				LENS	M-Fn		SET	
ストロボ機能設定 *1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DIAL FUNC ダイヤルファンクション設定		○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	
短押し：表示パネル照明 長押し：表示パネル情報切り換え										○		
短押し：表示パネル情報切り換え 長押し：表示パネル照明										●		
表示パネル照明		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
表示パネル情報切り換え		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
MODE 撮影モード設定		○	●	○	○	○	○	○	○	○		

C カスタム撮影モードに切り換え									○		
静止画⇔動画の切り換え									○		
絞り込み*1		○	○	○	○	○	●*4	○	○	○	○	
AUTO Fvモード時、選択項目をリセット*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
AUTO Fvモード時、Tv、Av、、ISOをリセット*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
クイック設定画面		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
拡大/縮小		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
画像の再生											○	
再生画像の拡大		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
撮影機能の登録と呼出*1				○	○	○	○	○				
MENU メニュー表示		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
タッチシャッター*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フォルダ作成*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
モニターを一時的に明るくする		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ディスプレイオフ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

画面の表示先切り換え		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ECO エコモード		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Wi-Fi機能		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
OFF 無効		○	○	○	○	○	○*3	○	○	○	○	●

＊1：動画撮影の設定では割り当てできません。
＊3：動画撮影時の初期値
＊4：静止画撮影時の初期値

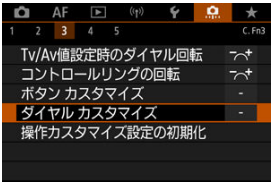
参考

- ［LENS］は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

ダイヤル カスタマイズ

〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉に、よく使う機能を割り当てることができます。

1. ［ ：ダイヤル カスタマイズ］を選ぶ



2. 操作部材を選ぶ

3. 割り当てる機能を選ぶ

- 〈SET〉を押すと設定されます。
- 画面左下に［INFO］が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- ［ : **ダイヤル カスタマイズ**］の設定は、［ : **カスタム機能(C.Fn)一括解除**］を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、［ : **操作カスタマイズ設定の初期化**］を選んでください。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

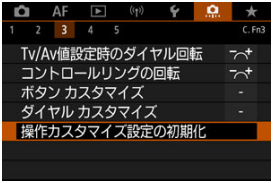
	機能名				
AF□	AF方式選択		○	○	○
	AFフレームダイレクト選択		○	○	
AF□	AF方式(測光するボタン押しながら)				○
Tv	Tv値変更				○
Av	Av値変更				○
	露出補正		○	○	○
ISO	ISO感度設定		●	○	○
Tv	Tv値変更(測光するボタン押しながら)				○
Av	Av値変更(測光するボタン押しながら)				○
	調光補正(測光するボタン押しながら)				●
ISO	ISO感度(測光するボタン押しながら)				○
	露出補正(測光するボタン押しながら)				○
Tv	Mモード時、シャッタースピード変更	●	○	○	
Av	Mモード時、絞り数値変更	○	○	●	
WB	ホワイトバランス選択		○	○	○
K	色温度選択		○	○	○
	ピクチャースタイル選択		○	○	○
WB	WB選択(測光するボタン押しながら)				○
K	色温度(測光するボタン押しながら)				○
	選択(測光するボタン押しながら)				○
OFF	無効	○	○	○	○

参考

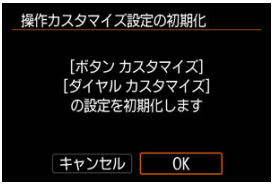
- ［Fv］モード時、〈 〉 〈 〉はカスタマイズできません。
- 〈 〉は、RFレンズとマウントアダプターに装備されている「コントロールリング」を表しています。

操作カスタマイズ設定の初期化

1. **［ ：操作カスタマイズ設定の初期化］を選ぶ**



2. **［OK］を選ぶ**



- ［**ボタン カスタマイズ**］と［**ダイヤル カスタマイズ**］の設定を初期化します。

C.Fn4

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。
撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。
パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

- **OFF : しない**
- **6:6 : 比率6:6**
- **3:4 : 比率3:4**
- **4:5 : 比率4:5(六切)**
- **6:7 : 比率6:7**
- **5:6 : 比率5:6(四切)**
- **5:7 : 比率5:7**

注意

- ［**静止画クロップ/アスペクト**］が［**フルサイズ**］以外に設定されているときは、トリミング情報は設定できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても（）、JPEG/HEIF画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG/HEIF画像が保存されます。

参考

- 設定した比率に応じた縦線が画面に表示されます。

音声圧縮

動画撮影時の音声データの圧縮に関する設定です。［**しない**］を選ぶと、音声データを圧縮時よりも高音質で記録することができますが、ファイルサイズは大きくなります。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

注意

- ［**しない**］で撮影した動画ファイルを編集して圧縮保存すると、音声データも圧縮されます。
- ［**動画記録画質**］が FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のときは［**しない**］を選んでも音声データは圧縮されます。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（✎）、そのときにどの項目が選択されているかを設定することができます。
［**キャンセル**］以外に設定したときは、〈SET〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

- **：[キャンセル]を選択**
- **：[消去]を選択**
- **RAW：［RAWのみ消去］を選択**
- **J/H：［RAW以外を消去］を選択**

注意

- ［**キャンセル**］以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

レンズなしレリーズ

レンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

- **OFF：しない**
- **ON：する**

電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- **ON：する**
- **OFF：しない**

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

- ［**する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

IPTC情報の付加

EOS用ソフトウェアのEOS UtilityからカメラにIPTC（International Press Telecommunications Council）情報を登録すると、静止画（JPEG/HEIF/RAW画像）撮影時に、IPTC情報を画像に記録（付加）することができます。**IPTC情報を活用してファイル管理を行うときなどに有効です。**
なお、**IPTC情報のカメラへの登録方法や、登録できる内容については、EOS Utility使用説明書を参照してください。**

- **OFF：しない**
- **ON：する**

注意

- 動画撮影時にIPTC情報は付加されません。

参考

- 再生時にIPTC情報の有無を確認することができます。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用すると、画像に記録されたIPTC情報の内容を確認することができます。
- ［：**カスタム機能(C.Fn)一括解除**］を選んでも（）、カメラに登録されているIPTC情報は消去されませんが、設定は［**しない**］になります。

カスタム機能(C.Fn)一括解除

[: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**] を選ぶと、[**ボタン カスタマイズ**] と [**ダイヤル カスタマイズ**] 以外のカスタム機能の設定を一括で解除することができます。

参考

- [: **カスタム機能(C.Fn)一括解除**] を行っても、[: **ボタン カスタマイズ**] [: **ダイヤル カスタマイズ**] で設定した内容は解除されません。設定した内容を解除するときは、[: **操作カスタマイズ設定の初期化**] を選んでください。また、[: **IPTC情報の付加**] の登録内容も消去されませんが、設定は [**しない**] になります。

メニュー目次：マイメニュータブ

(1) マイメニュータブの追加

(2) マイメニュータブの全削除

(3) 全項目削除

(4) メニュー表示

マイメニューの登録

- マイメニュータブの追加（作成）
- マイメニュータブに項目を登録
- マイメニュータブの設定
- マイメニュータブの全削除／全項目削除
- メニュー表示の設定

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブの追加（作成）

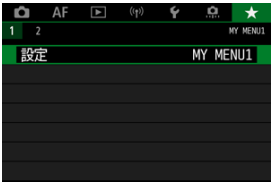
1. **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

2. **［OK］を選ぶ**

- 手順1、2を繰り返すと、［**MY MENU5**］まで作成することができます。

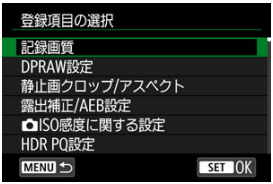
マイメニュータブに項目を登録

1. **［MY MENU＊：設定］を選ぶ**



2. **［登録項目の選択］を選ぶ**

3. **項目を登録する**



- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**
  登録した項目の並び順を変えることができます。[**登録項目の並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[⬍] が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**
  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**タブ内の全項目削除**] を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

- **タブの削除**
  現在設定しているタブを削除することができます。[**タブの削除**] を選ぶと、[**MY MENU ＊**] のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**

タブの名称を［**MY MENU＊**］から任意の名称に変更することができます。

1. ［タブ名の変更］を選ぶ

2. 文字を入力する

- ［⌫］を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。
- 〈◎〉〈⊙〉〈✳〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- ［⌂］を選ぶと、入力モードが切り換わります。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

  作成したタブをすべて削除することができます。［**マイメニュータブの全削除**］を選ぶと、［**MY MENU1**］～［**MY MENU5**］のタブがすべて削除され、［★］タブが初期状態に戻ります。

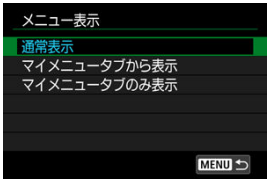
- **全項目削除**

  ［**MY MENU1**］～［**MY MENU5**］タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。［**全項目削除**］を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

注意

- ［**タブの削除**］［**マイメニュータブの全削除**］を行うと、［**タブ名の変更**］で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



［**メニュー表示**］を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［AF］［▶］［((ψ))］［🔧］［📷］タブは表示されません。）

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- パソコンへの画像の取り込み
- USB電源アダプターを使って充電／給電する
- バッテリーグリップを使う
- 故障かな？と思ったら
- エラー表示
- システム図
- 動画撮影時のISO感度
- 情報表示
- 12コマ／秒の連続撮影が可能なEFレンズ
- 主な仕様

パソコンへの画像の取り込み

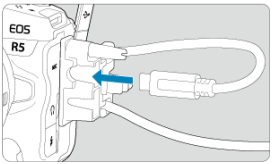
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する
- カードリーダーを使う
- カメラとパソコンをWi-Fi接続する

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、3通りあります。

カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

1. **EOS Utilityをインストールする（）**

2. **カメラとパソコンを接続する**



- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（）、プラグをデジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子（Type-C）にプラグを差し込みます。

3. **EOS Utilityを使って画像を取り込む**

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーを使う

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. **Digital Photo Professionalをインストールする（）**

2. **カードリーダーにカードを差し込む**

3. **Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む**

   - Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

カメラとパソコンをWi-Fi接続する

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます（ ）。

参考

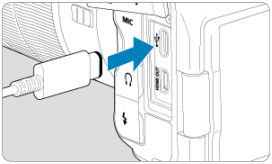
- FTPサーバーに接続して、カメラ内の画像をパソコンに転送することができます（ ）。

USB電源アダプターを使って充電／給電する

USB電源アダプター PD-E1（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパック LP-E6NHまたはLP-E6Nを充電することができます。また、カメラへの給電を行うことができます。**バッテリーパック LP-E6は充電できません。**

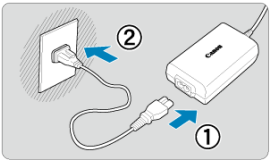
充電

1. **USB電源アダプターを接続する**

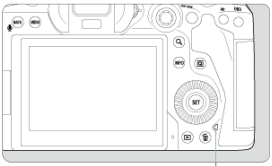


- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、デジタル端子にしっかりと差し込みます。

2. 電源コードを接続する



- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 充電が始まり、アクセスランプ（1）が緑色に点灯します。
- 表示パネルに[ ]が表示されます。



- 充電が完了すると、アクセスランプが消灯します。

給電

カメラの電源スイッチを〈ON〉にすると給電のみを行い、充電はされません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
給電中は表示パネルとモニターに[ ]が表示されます。
カメラの電源スイッチを〈OFF〉にすると給電から充電に切り換わります。

注意

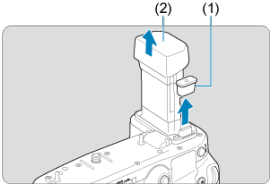
- カメラ内にバッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（アクセスランプが緑色に点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。インターバル撮影のときは、撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。

バッテリーグリップを使う

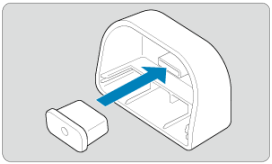
- バッテリーの取り付け
- 家庭用電源を使用する
- ボタンやダイヤルの操作
- USB電源アダプターを使って充電／給電する

バッテリーグリップBG-R10（別売）は、縦位置撮影用のボタンやダイヤル、バッテリー2個による電力供給機能などを備えた、カメラ用アクセサリーです。

1. 接点カバーを外す

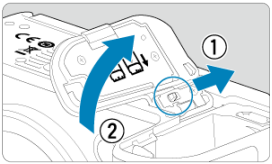


- バッテリーグリップの接点カバー（1）、（2）を取り外します。

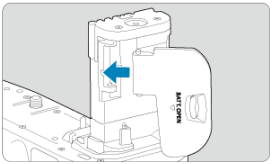


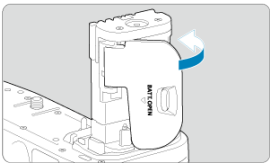
- バッテリーグリップの接点カバー（1）を（2）に取り付けて保管します。

2. バッテリー収納部ふたを外す

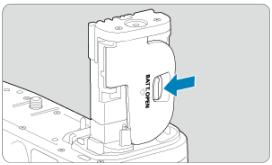


- カメラの電源を切ってからバッテリーを取り出します。
- カメラのバッテリー収納部ふたを取り外します。



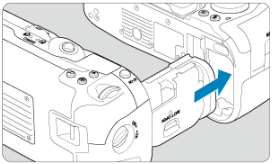


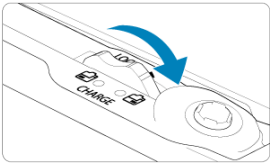
- 取り外したふたはバッテリーグリップに取り付けます。



- ふたを取り外すときは、レバーをスライドさせて固定を解除して、取り付けと逆の手順で行います。

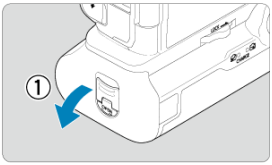
3. バッテリーグリップを固定する

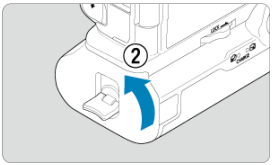


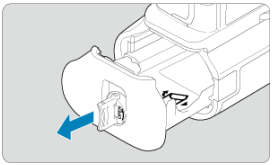


- バッテリーグリップをカメラに挿入し、着脱ダイヤルを回して固定します。

4. バッテリーマガジンを取り出す





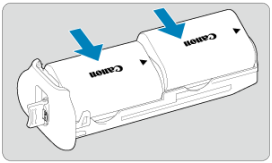


注意

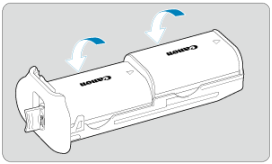
- バッテリー収納部ふたをカメラに取り付け直すときは、ふたを90°以上開いた状態で取り付けてください。
- カメラやバッテリーグリップの接点に触れないでください。

バッテリーの取り付け

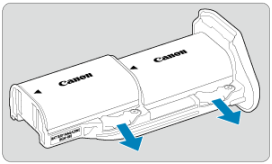
1. バッテリーを取り付ける



- バッテリーを図のように挿入します。
- バッテリー1個のときは、どちらに取り付けても使用できます。

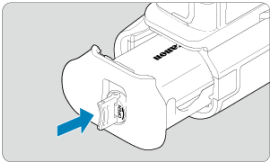


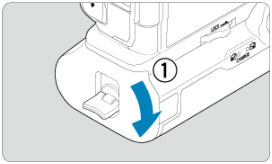
- 矢印の部分をカチッと音がするまで押し、バッテリーを固定します。

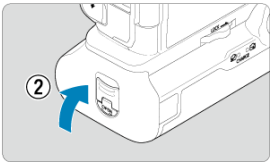


- バッテリーを外すときは、バッテリーマガジンの取り外しレバーを矢印の方向に操作します。

2. バッテリーマガジンを取り付ける







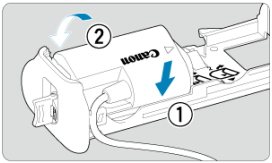
- バッテリーマガジンを奥まで入れて固定します。

注意

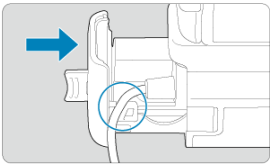
- バッテリーを取り付けるときは、バッテリーの接点が汚れていないかどうか確認してください。接点が汚れているときは、柔らかい布などで拭いてください。
- バッテリーの取り付けは、バッテリーグリップをカメラに取り付けてから行ってください。バッテリーが取り付けられた状態でバッテリーグリップをカメラに取り付けると、バッテリーチェックの結果が正しく表示されないことがあります。
- バッテリーグリップの取り外しは、カメラの電源を切り、バッテリーを取り外してから行ってください。
- バッテリーグリップを取り外したときは、カメラとバッテリーグリップの接点に保護カバーを取り付けてください。また、長期間バッテリーグリップを使用しないときは、バッテリーを取り外してください。
- バッテリーグリップをカメラに取り付けたときに、バッテリー通信エラーのメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。また、カメラの電源が切れたら、バッテリーマガジンの出し入れを行って、電源を入れなおしてください。

家庭用電源を使用する

1. DCカプラーを取り付ける

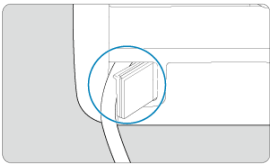


- DCカプラー DR-E6（別売）を、バッテリーと同じ手順でバッテリーマガジンに取り付けます。



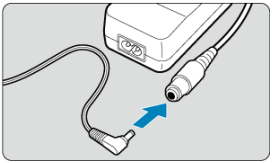
- DCカプラーのコードをバッテリーマガジンの通し溝に通します。
- バッテリーマガジンを奥まで入れて固定します。

2. バッテリーマガジンを取り付ける



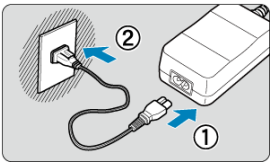
- コードは通し部から出します。

3. DCカプラーとACアダプターを接続する



- DCカプラーのプラグをACアダプターAC-E6N（別売）のソケットにしっかりと接続します。

4. 電源コードを接続する

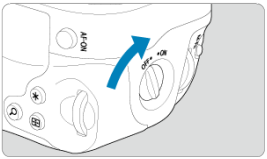


- 電源コードをACアダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

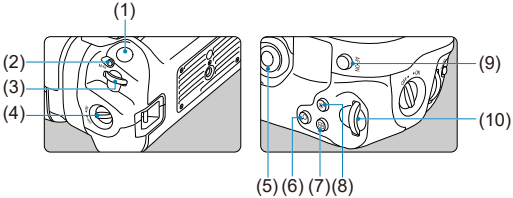
注意

- カメラの電源が入った状態で、電源コードやソケットの抜き差し、バッテリーマガジンの取り外しを行わないでください。
- DCカプラーのコードを、バッテリーグリップとバッテリーマガジンの間にはさまないようにしてください。

ボタンやダイヤルの操作



- 縦位置操作スイッチ（4）をON にすると、ボタンやダイヤルが操作できます。
- 各ボタンやダイヤルの操作方法は、カメラ本体と同じです。



(1)	シャッターボタン
(2)	〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
(3)	〈⚙〉メイン電子ダイヤル
(4)	縦位置操作スイッチ
(5)	〈✻〉マルチコントローラー
(6)	〈🔍〉拡大／縮小ボタン
(7)	〈⊞〉AFフレーム選択ボタン
(8)	〈✱〉AEロック／FEロックボタン
(9)	〈AF-ON〉AFスタートボタン
(10)	〈⚙〉サブ電子ダイヤル2

USB電源アダプターを使って充電／給電する

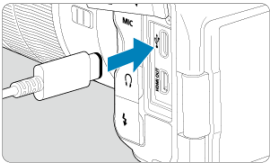
USB電源アダプター PD-E1を使用して、バッテリーグリップ内のLP-E6NHまたはLP-E6Nを充電します。また、カメラへの給電を行うことができます。

注意

- LP-E6NHとLP-E6Nを組み合わせて充電できます。
- LP-E6NHまたはLP-E6Nは1個でも充電できます。
- LP-E6は充電できません。また、LP-E6NHまたはLP-E6NとLP-E6が取り付けられているときは、どちらも充電できません。
- LP-E6NHまたはLP-E6NとDCカプラー DR-E6が取り付けられているときは、充電できません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電が中断されます。
- バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。

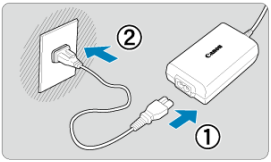
充電

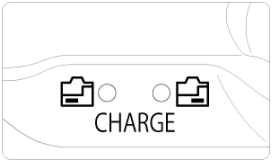
1. **USB電源アダプターを接続する**



- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、カメラのデジタル端子にしっかりと差し込みます。

2. 充電する





- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 充電が始まり、充電ランプが点灯します。
- 表示パネルに[ ]が表示されます。
- 充電が完了すると、充電ランプは消灯します。

給電

カメラの電源スイッチを〈ON〉にすると給電のみを行い、充電はされません。
給電中は表示パネルとモニターに[ ]が表示されます。
カメラの電源スイッチを〈OFF〉にすると給電から充電に切り換わります。

注意

- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（受電ランプが点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。インターバル撮影のときは、撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。

故障かな？と思ったら

- 電源関連
- 撮影関連
- 無線通信機能関連
- 操作関連
- 表示関連
- 再生関連
- センサークリーニング関連
- パソコン接続関連

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器でバッテリーが充電できない

- バッテリー残量（）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- 充電、または充電器に関する不具合は、バッテリーを充電するを参照してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉のときは充電は行われません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
- バッテリーパック LP-E6は充電できません。
- バッテリー残量が約94%以上のときは、充電は行われません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

USB電源アダプターで給電できない

- バッテリー収納部を確認してください。バッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください（）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（）。
- バッテリーを充電してください（）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？] と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください（）。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[：**バッテリー情報**] でバッテリーの劣化状態を確認してください（）。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使う
  - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[：**節電**] の [**オートパワーオフ**] を [**しない**] にしてください（）。
- [**オートパワーオフ**] を [**しない**] に設定していても、[**ディスプレイオフ**] や [**ファインダーオフ**] で設定した時間放置すると、モニターやファインダーの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- [：**エコモード**] を [**切**] に設定してください。

撮影関連

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、EF-Mレンズは使用できません（）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（、）。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（、）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードを入れる／取り出す、エラー表示を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください（）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（）、ISO感度を上げる（）、ストロボを使用する（）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- ブレの少ない画像を撮影するには を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（）。サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません（）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります。詳しくはドライブモードの選択または、静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数を参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

高速連続撮影時に高速表示が行われない

- 高速表示を参照して、高速表示が行われる条件を確認してください。

クロップ撮影時に一部の記録画質が選択できない

- ［**1.6倍（クロップ）**］設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、記録画質◢M/◢M/◢S1/◢S1は選択できません。

アスペクト比が設定できない

- EF-Sレンズ使用時は、アスペクト比の設定はできません（［**1.6倍（クロップ）**］に自動設定されます）。
- ［📷：**トリミング情報の付加**］が［**しない**］以外に設定されているときは、アスペクト比の設定はできません。

静止画撮影時にISO100に設定できない

- ［📷：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- ［**：ISO感度に関する設定**］で［**ISO感度の範囲**］の設定を確認してください。
- ［**：高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。
- ［**：HDR PQ設定**］の［**HDR撮影HDR PQ**］が［**する**］に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- ［**：オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください（）。［**弱め**］［**標準**］［**強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- M：マニュアル露出を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］が［**標準**］または［**強め**］に設定されているときは、［**色収差補正**］［**回折補正**］は表示されませんが、ともに［**する**］の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に［**デジタルレンズオプティマイザ**］の項目は表示されません。

多重露出撮影時に撮影画像が表示されない

- ［**連続撮影優先**］設定時は、撮影途中に「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません（）。

［Av］［P］モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- ［**：外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を、［**1/250-1/60秒自動**］（または［**1/200-1/60秒自動**］）または［**1/250秒固定**］（または［**1/200秒固定**］）に設定してください（）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ストロボがいつもフル発光する

- EL／EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します（）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL**］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

［Av］［Fv］モードでハイスピードシンクロができない

- ［：**外部ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を、［**1/250秒固定**］（または［**1/200秒固定**］）以外に設定してください（）。

リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを［］または［］に設定してください（）。動画撮影を行うときは、［：**リモコン撮影**］を［**する**］に設定してください（）。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、リモコン撮影またはワイヤレスリモコンと接続を参照してください。
- カメラとスマートフォンまたはワイヤレスリモートコントローラーがBluetooth接続されているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。［**Bluetooth設定**］を［**使わない**］に設定してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、タイムラプス動画を参照してください。

撮影時に白い［］と赤い［］が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い［］が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い［］が表示されたときは、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています（）。

動画撮影時に赤い［］が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い［］が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（）。

動画撮影時に［🌡］が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。［🌡］が表示された状態では、動画撮影を行うことはできません。また、動画撮影中に［🌡］が表示されたときは、約3分後に撮影が終了します（⏱）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、要求カード性能を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください（⏱）。
- 動画撮影を開始してから29分59秒（ハイフレームレート動画撮影時は7分29秒）経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが［🎥］のときはISO感度が自動設定されます。［🎥M］モードのときはISO感度を任意に設定することができます（⏱）。
- ［📷：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- ［📷：🎥**ISO感度に関する設定**］で［**ISO感度の範囲**］の設定を確認してください。
- ［📷：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］［**強**］に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。［🎥M］モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画に音声が記録されない

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

タイムコードが付加されない

- ハイフレームレート動画撮影時に、［📷：**タイムコード**］の［**カウントアップ**］が［**フリーラン**］に設定されているときは（🔗）、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません（🔗）。

タイムコードのカウントが早い

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で4秒分カウントアップします（🔗）。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

静止画撮影時に動画撮影ができない

- ライブビュー状態を長時間続けるなどして、カメラ内部の温度が上昇しているときは、静止画撮影時からの動画撮影ができないことがあります。カメラの電源を切るなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- 撮影モードが［A+］のときは、［A+］の動画記録画質を下げると、動画撮影が可能になることがあります。
- 撮影モードが［A+］以外のときは、［▶🎥］の動画記録画質を下げると、動画撮影が可能になることがあります。

動画撮影ができない

- 使用するカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（🔗）。
- 動画撮影時の記録方法を［RAW］、［MP4］に設定したときは、カード［2］にはSDXCカードを使用してください。

カメラが振動する

- 手ブレ補正機能の作動が、振動として感じられることがあります。故障ではありません。

無線通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください（🔗）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（🔗）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（🔗）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉ボタンを押して、電子ロックを解除してください（ ）。
- ［ : **マルチ電子ロック**］の設定内容を確認してください（ ）。

タッチ操作ができない

- ［ : **タッチ操作**］が［**標準**］または［**敏感**］に設定されているか確認してください（ ）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は［ : **動画撮影時シャッターボタンの機能**］の設定を確認してください（ ）。
- ［ : **ボタン カスタマイズ**］または［ : **ダイヤル カスタマイズ**］の設定内容を確認してください（ ）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 撮影モードが［A+］のときは、一部のタブや項目は表示されません。また、メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

［★］マイメニュータブから表示される／［★］タブしか表示されない

- ［★］タブの［**メニュー表示**］が［**マイメニュータブから表示**］または［**マイメニュータブのみ表示**］に設定されています。［**通常表示**］に設定してください（）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- ［：**色空間**］を［**sRGB**］に設定してください。［**Adobe RGB**］に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（）。

ファイル名の4文字目が変化する

- ［：**ファイル名の設定**］が［*****+画像サイズ**］に設定されています。カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付／時刻が正しく設定されているか確認してください（）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付／時刻を入れることができます（）。

［＃＃＃］が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［＃＃＃］と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ［▶：**ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（）。

画像に赤い枠が表示される

- ［▶：**AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
  - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
  - トリミングを行った画像
  - HDR撮影で［**画像位置自動調整：する**］に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（）。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- ［▶：**画像検索の条件設定**］で再生する画像の絞り込みが行われています（）。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。

動画再生が勝手に終了する

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。
  そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[M] モードで撮影してください（）。

動画がスローモーションで再生される

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

テレビに映像が表示されない

- ［：**ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（）を使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGのS2、RAW画像、8Kまたは4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません（）。
- RAW画像、［：**HDR PQ設定**］の［**HDR撮影HDR PQ**］を［**する**］で撮影した画像、8Kまたは4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません（）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。［：**センサークリーニング**］の［**今すぐクリーニング**］を行うと（）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［**今すぐクリーニング**］を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、［］が表示されないことがあります（）。

パソコン接続関連

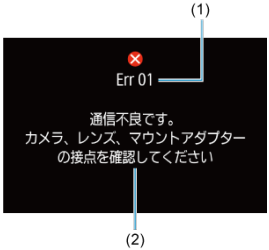
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（🔗）。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- アプリケーションのバージョンを確認してください。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、［📷：**タイムラプス動画**］を［**しない**］に設定してください（🔗）。

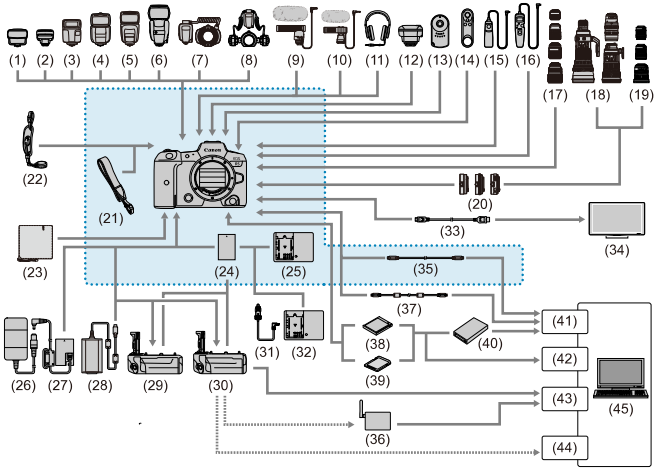
エラー表示



(1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。
問題が解決しないときは、エラー番号（Errxx）を控えて、修理をご依頼ください。

システム図


(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
(12)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(19)
(20)
(21)
(22)
(23)
(24)
(25)
(26)
(27)
(28)
(29)
(30)
(31)
(32)
(33)
(34)
(35)
(36)
(37)
(38)
(39)
(40)
(41)
(42)
(43)
(44)
(45)

：主な付属品

(1)　スピードライトトランスミッターST-E2
(2)　スピードライトトランスミッターST-E3-RT
(3)　スピードライトEL-100
(4)　スピードライト430EX III-RT/430EX III
(5)　スピードライト470EX-AI
(6)　スピードライト600EX II-RT
(7)　マクロリングライト MR-14EX II
(8)　マクロツインライト MT-26EX-RT
(9)　指向性ステレオマイクロホン DM-E1
(10)　ステレオマイクロホン DM-E100
(11)　ヘッドフォン
(12)　GPSレシーバー GP-E2
(13)　リモートコントローラー RC-6
(14)　ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1
(15)　リモートスイッチ RS-80N3
(16)　タイマーリモートコントローラー TC-80N3
(17)　RFレンズ
(18)　EFレンズ
(19)　EF-Sレンズ
(20)　マウントアダプター
(21)　ストラップ
(22)　ハンドストラップ E2
(23)　プロテクティングクロス PC-E1/E2
(24)　バッテリーパック LP-E6NH*1
(25)　バッテリーチャージャー LC-E6
(26)　ACアダプター AC-E6N*2
(27)　DCカプラー DR-E6*2
(28)　USB電源アダプター PD-E1*3
(29)　バッテリーグリップ BG-R10
(30)　ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10
(31)　カーバッテリーケーブル CB-570
(32)　カーバッテリーチャージャー CBC-E6
(33)　HDMIケーブル*7
(34)　テレビ／モニター
(35)　インターフェースケーブル IFC-100U（約1m）*4,5
(36)　無線LANアクセスポイント
(37)　インターフェースケーブル IFC-400U（約4m）*4,6
(38)　CFexpressカード
(39)　SD/SDHC/SDXCメモリーカード
(40)　カードリーダー
(41)　USBポート

(42) カードスロット

(43) Ethernet端子

(44) 無線LANアダプター

(45) パソコン

* 1：バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用することもできます。
* 2：ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。
* 3：USB電源アダプター PD-E1接続時は、LP-E6NH/LP-E6Nのみ充電できます（LP-E6は充電できません）。
* 4：カメラ側／パソコン側の端子はともにUSB Type-C
* 5：IFC-100U使用時は、通信速度がSuperSpeed USB（USB 3.1 Gen 1）相当になります。
* 6：IFC-400U使用時は、通信速度がHi-Speed USB（USB 2.0）相当になります。
* 7：長さ2.5m以下の市販品をお使いください。カメラ側の端子はタイプDです。

動画撮影時のISO感度

[ ] [ ] [ ] [ ] モード時

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- [: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] を [**H(51200)**] に設定すると ( )、自動設定範囲の上限がH（51200相当）まで拡張されます。
- [: **高輝度側・階調優先**] を [**する**] [**強**] に設定したときは ( )、ISO感度の自動設定範囲の下限がISO200になります。また [**オートの上限**] を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [: **Canon Log設定**] を [**入**] に設定したときは ( )、ISO感度の自動設定範囲の下限が、ISO400になります。

[ ] モード時

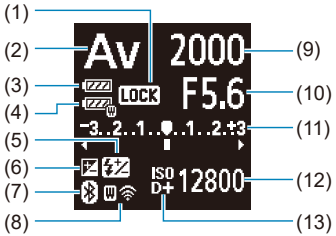
- ISO感度を [**AUTO**] に設定したときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、[: **ISO感度に関する設定**] の [**オートの上限**] を [**H(51200)**] に設定すると ( )、自動設定範囲の上限がH（51200相当）まで拡張されます。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で設定することができます。なお、[: **ISO感度に関する設定**] の [**ISO感度の範囲**] を [**H(51200)**] に設定すると ( )、手動設定範囲の上限がH（ISO51200相当）まで拡張されます。
- [: **高輝度側・階調優先**] を [**する**] [**強**] に設定したときは ( )、ISO感度の自動／手動設定範囲の下限がISO200になります。また、ISO感度を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。
- [: **Canon Log設定**] を [**入**] に設定したときは ( )、ISO感度の自動設定範囲の下限が、ISO400になります。また、ISO100～200は拡張ISO感度（L）になります。

情報表示

- 表示パネル
- 静止画撮影画面
- 動画撮影画面
- シーン判別アイコン
- 再生画面

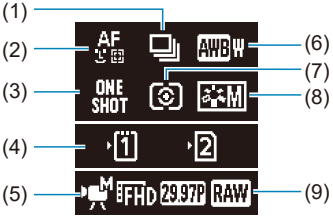
表示パネル

静止画／動画待機画面1



(1)	マルチ電子ロック
(2)	撮影モード
(3)	バッテリー残量
(4)	WFTバッテリー残量
(5)	ストロボ調光補正
(6)	露出補正
(7)	Bluetooth機能
(8)	Wi-Fi機能／WFTステータス（無線）／WFTステータス（有線）
(9)	シャッタースピード
(10)	絞り数値
(11)	露出レベル表示／露出補正量／AEBレベル
(12)	ISO感度
(13)	高輝度側・階調優先

静止画待機画面2



(1)	ドライブモード
(2)	AF方式
(3)	AF動作
(4)	カードスロット
(5)	動画撮影モード
(6)	ホワイトバランス
(7)	測光モード
(8)	ピクチャースタイル
(9)	動画記録画質

動画待機画面2

(1)	AF方式
(2)	手ブレ補正（IS機能）
(3)	カードスロット
(4)	ホワイトバランス
(5)	Canon Log
(6)	動画撮影可能時間

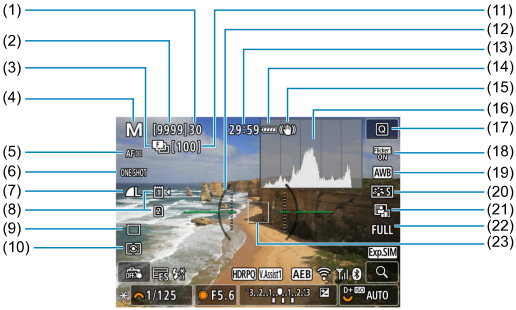
動画撮影中

(1)	撮影経過時間
(2)	動画撮影中／HDMI 10bit出力外部記録中

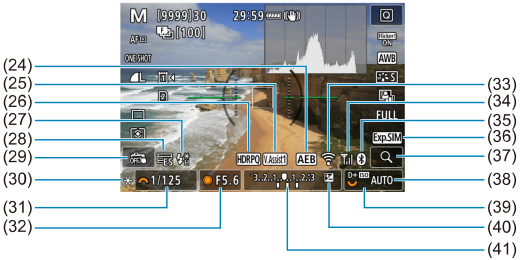
静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

● 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1)	連続撮影可能枚数
(2)	撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(3)	フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／多重露出撮影／マルチショットノイズ低減／バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影
(4)	撮影モード
(5)	AF方式
(6)	AF動作
(7)	記録画質
(8)	カード
(9)	ドライブモード
(10)	測光モード
(11)	フォーカスブラケット撮影残り枚数／多重露出残り枚数／インターバルタイマー残り枚数
(12)	水準器
(13)	動画撮影可能時間
(14)	バッテリー残量
(15)	手ブレ補正（IS機能）
(16)	ヒストグラム（輝度／RGB）
(17)	クイック設定ボタン
(18)	フリッカーレス撮影
(19)	ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(20)	ピクチャースタイル
(21)	オートライティングオプティマイザ
(22)	静止画クロップ／アスペクト
(23)	AFフレーム（1点AF）



(24)	AEB撮影／FEB撮影
(25)	ビューアシスト
(26)	HDR PQ
(27)	ストロボ充電完了／FEロック／ハイスピードシンクロ
(28)	電子シャッター
(29)	タッチシャッター／フォルダ作成
(30)	AEロック
(31)	シャッタースピード／マルチ電子ロック警告
(32)	絞り数値
(33)	Wi-Fi機能
(34)	Wi-Fi電波強度
(35)	Bluetooth機能
(36)	露出シミュレーション
(37)	拡大ボタン
(38)	ISO感度
(39)	高輝度側・階調優先
(40)	露出補正
(41)	露出レベル表示

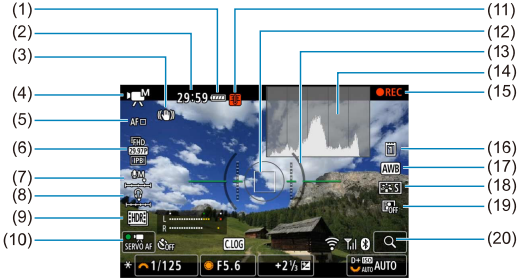
参考

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（）。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

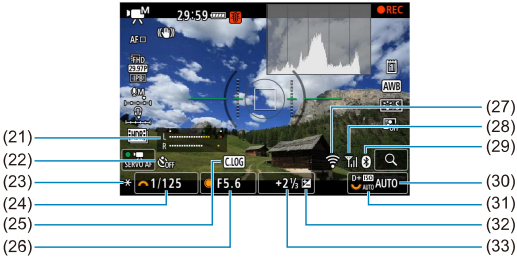
動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

● 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1)	バッテリー残量
(2)	動画撮影可能時間／撮影経過時間
(3)	手ブレ補正（IS機能）
(4)	撮影モード
(5)	AF方式
(6)	動画記録サイズ
(7)	録音レベル（マニュアル／ライン入力）
(8)	ヘッドフォン音量
(9)	HDR動画
(10)	動画サーボAF
(11)	温度上昇警告
(12)	AFフレーム（1点AF）
(13)	水準器
(14)	ヒストグラム（輝度／RGB）
(15)	動画撮影中
(16)	記録・再生カード
(17)	ホワイトバランス／WB補正
(18)	ピクチャースタイル
(19)	オートライティングオプティマイザ
(20)	拡大ボタン



(21)	録音レベルメーター（マニュアル／ライン入力）
(22)	動画セルフタイマー
(23)	AEロック
(24)	シャッタースピード
(25)	Canon Log
(26)	絞り数値
(27)	Wi-Fi機能
(28)	Wi-Fi電波強度
(29)	Bluetooth機能
(30)	ISO感度
(31)	高輝度側・階調優先
(32)	露出補正
(33)	露出レベル表示（測光値）

注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（）。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「1回の撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン

撮影モードが［A+］や［A+］のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物*1		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき*2	自然や屋外シーン	動いているとき*2	近いとき*3	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*4				*4	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*1	*5*6	*4	*5*6	*4		

＊1：タイムラプス動画撮影時は、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。
＊2：動画撮影中は表示されません。
＊3：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
＊4：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
＊5：下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
＊6：下記のレンズを使用したときに表示されます。

- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

＊*5 と*6 の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

参考

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

再生画面

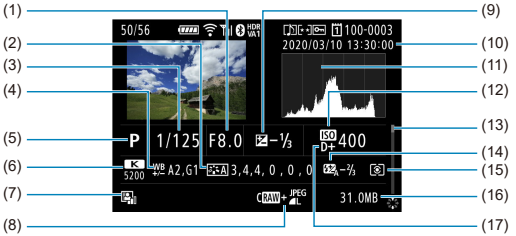
静止画の簡易情報表示

(1)	HDR出力状態／ビューアシスト
(2)	Bluetooth機能
(3)	Wi-Fi電波強度
(4)	Wi-Fi機能
(5)	バッテリー残量
(6)	再生番号／総記録画像数／検索結果画像数
(7)	シャッタースピード
(8)	絞り数値
(9)	露出補正量
(10)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(11)	音声メモ
(12)	レーティング
(13)	画像プロテクト
(14)	カード番号
(15)	フォルダ番号–画像番号
(16)	記録画質／画像加工済み／トリミング／フレーム切り出し
(17)	ISO感度
(18)	高輝度側・階調優先

注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示



(1)	絞り数値
(2)	ピクチャースタイル／設定内容
(3)	シャッタースピード
(4)	WB補正／BKT設定
(5)	撮影モード／多重露出／フレーム切り出し
(6)	ホワイトバランス
(7)	オートライティングオプティマイザ
(8)	記録画質／画像加工済み／トリミング
(9)	露出補正量
(10)	撮影日時
(11)	ヒストグラム（輝度／RGB）
(12)	ISO感度
(13)	スクロールバー
(14)	ストロボ調光補正量／バウンス／HDR撮影／マルチショットノイズ低減
(15)	測光モード
(16)	ファイルサイズ
(17)	高輝度側・階調優先

* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（）、撮影範囲が線で表示されます。
* トリミング情報が付加された画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、［］が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、［］が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、仕上がり効果のマーク（）とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。

* 多重露出撮影を行った画像は、［］が表示されます。

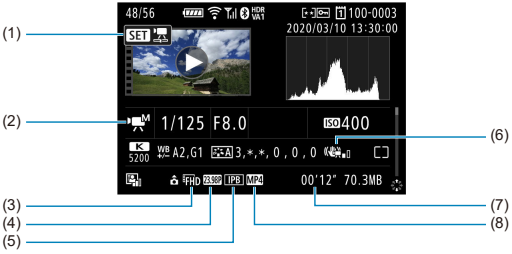
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、［］が表示されます。

* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、［］が表示されます。

* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、［］が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、［］が表示されます。

動画の詳細情報表示



(1)	動画再生
(2)	動画撮影モード／ハイフレームモード
(3)	画像サイズ
(4)	フレームレート
(5)	圧縮方式
(6)	手ブレ補正（IS機能）
(7)	記録時間／タイムコード
(8)	動画記録形式

* 記載のない項目は静止画の簡易情報表示、静止画の詳細情報表示と共通のため、説明を省いています。

参考

- 動画再生時、［**ピクチャースタイル**］の［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、「*, *」と表示されます。

12コマ／秒の連続撮影が可能なEFレンズ

ドライブモード ［□］で、12コマ／秒の連続撮影が可能なEFレンズは、以下の通りです。

EF24mm F2.8 IS USM
EF28mm F2.8 IS USM
EF35mm F1.4L II USM
EF35mm F2 IS USM
EF40mm F2.8 STM
EF50mm F1.8 STM
EF85mm F1.4L IS USM
EF200mm F2.8L II USM
EF300mm F2.8L IS II USM
EF400mm F2.8L IS III USM
EF500mm F4L IS II USM
EF600mm F4L IS II USM
EF600mm F4L IS III USM
EF8-15mm F4L Fisheye USM
EF11-24mm F4L USM
EF16-35mm F2.8L III USM
EF16-35mm F4L IS USM
EF24-70mm F2.8L II USM
EF24-70mm F4L IS USM
EF24-105mm F4L IS II USM
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM
EF70-200mm F2.8L IS III USM
EF70-200mm F4L IS USM
EF70-200mm F4L IS II USM
EF70-300mm F4-5.6L IS USM
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4X

EF-S24mm F2.8 STM
EF-S35mm F2.8
EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM
EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM

主な仕様

形式

型式：デジタル一眼ノンレフレックスAF・AEカメラ
レンズマウント：キヤノンRFマウント
使用レンズ：キヤノンRFレンズ群
＊マウントアダプター EF-EOS R使用時：キヤノンEF／EF-Sレンズ（EF-Mレンズを除く）
レンズ焦点距離：レンズ表記焦点距離と同じ
＊EF-Sレンズ使用時：表記焦点距離の約1.6倍に相当

撮像素子

型式：CMOSセンサー

画面サイズ	約36.0×24.0mm
カメラ部有効画素数*1*2	最大約4500万画素
デュアルピクセルCMOS AF	対応

＊1：1万の位を四捨五入
＊2：RF、EFレンズ使用時。使用するレンズまたは画像処理により、有効画素が減少することがある

記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif2.31*に準拠
＊時差情報に対応

記録画像タイプと拡張子

記録画像タイプ		拡張子
静止画	JPEG	JPG
	HEIF	HIF
	RAW	CR3
	DPRAW	
	C-RAW	
動画	ALL-I, IPB	MP4
	RAW	CRM

静止画記録

静止画・記録画素数

記録画質		記録画素数				
		アスペクト比				
		3：2	**[1.6倍（クロップ）]**[*1]	4：3	16：9	1：1
JPEG HEIF	L	約4480万（8192×5464）	約1730万（5088×3392）	約2980万（5456×5456）	約3980万（7280×5464）	約3770万（8192×4608）
	M	約2250万（5808×3872）		約1500万（3872×3872）	約1990万（5152×3872）	約1900万（5808×3264）
	S1	約1160万（4176×2784）		約780万（2784×2784）	約1030万（3712×2784）	約980万（4176×2344）
	S2	約380万（2400×1600）	約380万（2400×1600）	約260万（1600×1600）	約340万（2112×1600）	約320万（2400×1344）
RAW	RAW / CRAW	約4480万（8192×5464）	約1730万（5088×3392）	約4480万（8192×5464）		

＊記録画素数は、1万の位を四捨五入した値
＊RAWは、「3：2」の画像を生成して、設定したアスペクト比情報を画像に付加、JPEGは、設定したアスペクト比の画像を生成
＊1：約1.6倍焦点距離相当の画角となる

静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数

	記録画質	ファイルサイズ［約・MB］	撮影可能枚数［約・枚］*1	連続撮影可能枚数［約・枚］*5	
				SDカード*1	CFexpressカード*2
JPEG*4	◢L	13.5	2240	190	350
	▟L	6.8	4450	260	350
	◢M	7.8	3860	320	350
	▟M	4.1	7330	290	350
	◢S1	4.7	6420	330	350
	▟S1	2.6	11360	330	350
	S2	1.8	16790	340	350
HEIF*3	◢L	13.4	2240	190	280
	▟L	10.0	2970	210	330
	◢M	8.3	3580	310	310
	▟M	6.3	4730	350	360
	◢S1	5.1	5710	340	360
	▟S1	4.0	7330	360	350
	S2	1.8	14480	340	360
RAW*4	RAW	45.4	670	66	180
	CRAW	21.9	1440	130	260
RAW+JPEG*4	RAW + ◢L	45.4+13.5	520	64	160
	CRAW + ◢L	21.9+13.4	870	100	240
RAW+HEIF*3	RAW + ◢L	45.4+13.4	480	61	90
	CRAW + ◢L	21.9+13.4	780	110	140

＊1：撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（SDカード）は、キヤノン試験基準32GB SDカード使用時の枚数
＊2：撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（CFexpressカード）は、キヤノン試験基準325GB CFexpressカード使用時の枚数
＊3：HDR撮影［**HDR PQ**］［**する**］時に設定可能
＊4：HDR撮影［**HDR PQ**］［**しない**］時
＊5：メカシャッター・電子先幕、約12コマ／秒撮影時
＊ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（1.6倍クロップ／アスペクト、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

動画記録

動画・記録形式：MP4、RAW
記録時間と映像ビットレート、ファイルサイズの目安
Canon Log：OFF、HDR PQ：OFF

動画記録サイズ				カードごとの総記録時間（約）			映像ビットレート（約・Mbps）	ファイルサイズ（約・MB／分）
				64GB	256GB	1TB		
8K DCI		29.97fps 25.00fps 24.00fps 23.98fps	RAW	3分	13分	51分	2600	18668
			ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9309
			IPB	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
8K UHD		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9309
			IPB	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
4K DCI		59.94fps 50.00fps	ALL-I	9分	36分	2時間21分	940	6734
			IPB	36分	2時間27分	9時間35分	230	1656
4K DCI 4K DCI Fine		29.97fps 25.00fps 24.00fps 23.98fps	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
			IPB	1時間10分	4時間40分	18時間17分	120	869
4K DCI		119.88fps 100.00fps	ALL-I	4分	18分	1時間10分	1880	13447
4K UHD		59.94fps 50.00fps	ALL-I	9分	36分	2時間21分	940	6734
			IPB	36分	2時間27分	9時間35分	230	1656
4K UHD 4K UHD Fine		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
			IPB	1時間10分	4時間40分	18時間17分	120	869
4K UHD		119.88fps 100.00fps	ALL-I	4分	18分	1時間10分	1880	13447
フルHD		59.94fps 50.00fps	ALL-I	47分	3時間8分	12時間14分	180	1298
			IPB	2時間18分	9時間14分	36時間6分	60	440
		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	1時間33分	6時間12分	24時間16分	90	655
			IPB	4時間30分	18時間2分	70時間27分	30	226
		29.97fps 25.00fps	IPB（軽量）	11時間35分	46時間23分	181時間13分	12	88
タイムラプス動画	8K	29.97fps 25.00fps	ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9298
	4K			18分	1時間12分	4時間43分	470	3362
	フルHD			1時間34分	6時間19分	24時間41分	90	644

Canon Log：ON、HDR PQ：ON

動画記録サイズ				カードごとの総記録時間（約）			映像ビットレート（約・Mbps）	ファイルサイズ（約・MB／分）
				64GB	256GB	1TB		
8K DCI		29.97fps 25.00fps 24.00fps 23.98fps	RAW	3分	13分	51分	2600	18668
			ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9309
			IPB	12分	50分	3時間15分	680	4875
8K UHD		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9309
			IPB	12分	50分	3時間15分	680	4875
4K DCI		59.94fps 50.00fps	ALL-I	8分	34分	2時間13分	1000	7164
			IPB	24分	1時間39分	6時間30分	340	2443
4K DCI 4K DCI Fine		29.97fps 25.00fps 24.00fps 23.98fps	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
			IPB	49分	3時間18分	15時間57分	170	1227
4K DCI		119.88fps 100.00fps	ALL-I	4分	18分	1時間10分	1880	13447
4K UHD		59.94fps 50.00fps	ALL-I	8分	34分	2時間13分	1000	7164
			IPB	24分	1時間39分	6時間30分	340	2443
4K UHD 4K UHD Fine		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	18分	1時間12分	4時間42分	470	3373
			IPB	49分	3時間18分	15時間57分	170	1227
4K UHD		119.88fps 100.00fps	ALL-I	4分	18分	1時間10分	1880	13447
フルHD		59.94fps 50.00fps	ALL-I	36分	2時間27分	9時間35分	230	1656
			IPB	1時間33分	6時間12分	24時間16分	90	655
		29.97fps 25.00fps 23.98fps	ALL-I	1時間2分	4時間9分	16時間16分	135	977
			IPB	3時間3分	12時間13分	47時間45分	45	333
		29.97fps 25.00fps	IPB（軽量）	5時間1分	20時間7分	78時間37分	28	202
タイムラプス動画	8K	29.97fps 25.00fps	ALL-I	6分	26分	1時間42分	1300	9298
	4K			18分	1時間12分	4時間43分	470	3362
	フルHD			1時間3分	4時間12分	16時間27分	135	966

＊ビットレートの数値は、映像のみで、音声は含まない
＊1回の上限時間を29分59秒とし、上限時間を超えた場合、動画記録を中断する（ハイフレームレート動画は時間が異なる）
＊8K動画（RAW、DCI、UHD）は、カメラ内部の温度上昇に伴う撮影時間の上限があり、撮影可能時間は最大約20分となる（常温時）
＊4K 60p（クロップ：する）動画は、カメラ内部の温度上昇に伴う撮影時間の上限があり、撮影可能時間は最大約25分となる（常温時）

＊動画記録画質の圧縮方式がIPB、IPB（軽量）（音声：AAC記録）のとき、[：**音声圧縮**］が［**する**］のときは、最後の約2フレームには音声は記録されない。また、Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがある

要求カード性能

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2" rowspan="2">動画記録サイズ</th><th rowspan="2">CFexpressカード</th><th colspan="2">SDカード</th></tr>
<tr><th>8bit</th><th>10bit</th></tr>
<tr><td rowspan="3">8K</td><td>8K RAW</td><td>RAW</td><td rowspan="18">キヤノンのホームページを参照</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8K</td><td>ALL-I</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>IPB</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td><td>ビデオスピードクラス90以上</td></tr>
<tr><td rowspan="6">4K</td><td>119.88fps
100.00fps</td><td>ALL-I</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">59.94fps
50.00fps</td><td>ALL-I</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>IPB</td><td>ビデオスピードクラス30以上</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">上記以外</td><td>ALL-I</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td></tr>
<tr><td>IPB</td><td>UHSスピードクラス3以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">フルHD</td><td rowspan="2">59.94fps
50.00fps</td><td>ALL-I</td><td>SDスピードクラス3以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>IPB</td><td>SDスピードクラス10以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">上記以外</td><td>ALL-I</td><td>UHSスピードクラス3以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
<tr><td>IPB</td><td>SDスピードクラス6以上</td><td>SDスピードクラス6以上</td></tr>
<tr><td>IPB（軽量）</td><td>SDスピードクラス4以上</td><td>SDスピードクラス4以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">タイムラプス動画</td><td>8K</td><td rowspan="3">ALL-I</td><td colspan="2">ー</td></tr>
<tr><td>4K</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td><td>ビデオスピードクラス60以上</td></tr>
<tr><td>フルHD</td><td>UHSスピードクラス3以上</td><td>UHSスピードクラス3以上</td></tr>
</table>

＊動画クロップ撮影：［**しない**］、動画電子IS：［**しない**］設定時

内蔵・外部マイク
内蔵マイク：モノラルマイク
外部マイク：Φ3.5mm ステレオミニジャック

記録メディア

記録媒体：
CFexpressメモリーカード
SDメモリーカード
＊UHS-II対応

ファインダー

型式：OLEDカラー電子ビューファインダー
画面サイズ：0.5型
ドット数：約576万ドット
倍率／視野角：約0.76倍／約35.5°（50mmレンズ・∞、$-1m^{-1}$）
視野率：約100%（記録画質L、アスペクト3：2、アイポイント約23mm時）
アイポイント：約23mm（$-1m^{-1}$時／接眼レンズ最後尾から）
視度調整：約-4.0～$+2.0m^{-1}$（dpt）

モニター

型式：TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ：3.2型（画面比率3：2）
ドット数：約210万ドット
視野角：上下／左右ともに約170°
視野率：上下／左右とも約100%（記録画質L、アスペクト3:2）
モニターの明るさ：7段階に調整可能
色調調整：暖色／標準／寒色1／寒色2
タッチパネル仕様：静電容量方式

表示パネル

形式：反射型メモリー液晶
表示形式：ドットマトリクス表示
ドット数：128×128ドット

HDMI

HDMI映像／音声出力：HDMIマイクロ出力端子（タイプD）／CEC非対応
HDMI出力解像度：自動／1080p
＊8K動画のHDMI出力には非対応

オートフォーカス

フォーカス方式：デュアルピクセルCMOS AF

フォーカス動作

	静止画撮影	動画撮影
AF動作	• ワンショットAF • サーボAF • （AI フォーカスAF） ＊A+モード時に自動設定	• ワンショットAF • 動画サーボAF
手動ピント合わせ	対応	対応

測距エリアごとのレンズ対応：キヤノンのホームページを参照

自動選択時AFエリア分割数

測距エリア		横：約100%、縦：約100%
分割数	静止画	最大1053分割（39×27）
	動画	最大819分割（39×21）

＊設定によって異なることがある

AFフレーム選択可能ポジション

測距エリア		横：約90%、縦：約100%
ポジション数	静止画	最大5940ポジション（90×66）
	動画	最大4500ポジション（90×50）

＊マルチコントローラーによる選択時

測距輝度範囲（静止画撮影時）：EV –6～20（F1.2 レンズ使用時*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）

＊DS（Defocus Smoothing）コーティングを採用したRFレンズを除く

測距輝度範囲（動画撮影時）

8K	EV –3～20	＊F1.2レンズ使用時・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100 ＊DS（Defocus Smoothing）コーティングを採用したRFレンズを除く
4K／フルHD	EV –4～20	

露出制御

各撮影状態の測光機能

項目		静止画撮影	動画撮影
測光センサー		撮像素子の出力信号による 384分割測光（24×16）測光	
測光モード	評価測光	○	○ ＊［**+追尾優先AF**］で顔認識時
	部分測光	○：画面の約6.1%	
	スポット測光	○：画面の約3.1%	
	中央部重点平均測光	○	○ ＊顔認識していないとき
測光輝度範囲（常温・ISO100）		EV −3～20	EV −1～20

静止画撮影のISO感度（推奨露光指数）

静止画撮影のISO感度の手動設定

常用ISO感度	ISO100～51200（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度（相当）	L（50） H（102400）

＊［**：高輝度側・階調優先**］設定時のISO感度設定は、200～51200
＊HDRモードおよびHDR撮影時は拡張ISOの設定はできない

静止画撮影のISO感度の範囲設定

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	L（50）～51200（1段ステップ）
上限値	ISO100～H（102400）（1段ステップ）

＊拡張ISOは「相当」

静止画撮影のISOオートの範囲設定

オートの範囲	ISO感度
下限値	ISO100～25600（1段ステップ）
上限値	ISO200～51200（1段ステップ）

静止画撮影のISOオート詳細

撮影モード	ストロボなし	ストロボ使用時
[A]	ISO100～12800	ISO100～6400*4
P	ISO100*1*2～51200*2	ISO100*1*2～6400*2*4
Tv		
Av		
M		
B	ISO400*3	ISO400*3

＊1：高輝度側・階調優先を「する」「強」に設定時はISO200
＊2：［**オートの範囲**］の［**上限値**］・［**下限値**］による
＊3：設定範囲外の場合はISO400 に最も近い値に変更
＊4：「E-TTL ISOオート上限可変制御」非対応レンズ使用時はISO1600

E-TTL ISOオート上限可変制御：対応

動画撮影のISO感度

動画撮影のISO感度の手動設定

常用ISO感度	ISO100～25600（1/3段ステップ）
拡張ISO感度（相当）	H（51200）

＊［**：高輝度側・階調優先**］時のISO感度設定は、200～25600
＊RAW動画撮影時は拡張ISOの設定はできない
＊RAW動画でCanon Log設定時にはISO400未満の手動設定はできない
＊HDR PQ動画撮影時は拡張ISOの設定はできない
＊ハイフレームレート動画時はISO12800より大きなISO感度の手動設定はできない

動画撮影のISO感度の範囲設定

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	ISO100～25600（1段ステップ）
上限値	ISO200～H（51200）（1段ステップ）

＊拡張ISOは「相当」

動画撮影のISOオートの範囲上限設定

項目	ISO感度
オートの上限	ISO6400～H（51200）
（タイムラプス動画）オートの上限	ISO400～25600

＊拡張ISOは「相当」

シャッター

静止画撮影
型式：電子制御式フォーカルプレーンシャッター
シャッター方式

メカシャッター
電子先幕
電子シャッター

シャッタースピード

メカシャッター／電子先幕設定時	1/8000～30秒、バルブ
電子シャッター設定時	1/8000～0.5秒

X同調速度

メカシャッター	1/200秒
電子先幕設定時	1/250秒

動画撮影
型式：撮像素子によるローリングシャッター
シャッタースピード：
1/4000～1/25*秒
＊フレームレートによって変化する、詳細は露出制御詳細を参照
動画マニュアル／Tvモード撮影時：1/4000～1/8*秒
＊撮影モードやフレームレートによって変化する
＊1：［**ハイフレームレート**］入に設定時は1/125秒（NTSC）または1/100秒（PAL）

カメラ内手ブレ補正（IS機能）：あり

外部ストロボ

シンクロ接点：アクセサリーシュー部：X接点
＊最高同調シャッタースピード：1/250秒（電子先幕時）、1/200秒（メカシャッター時）

ドライブ

ドライブモードと連続撮影速度

<table>
<tr><th>ドライブモード</th><th>メカシャッター</th><th>電子先幕</th><th>電子シャッター</th></tr>
<tr><td>1枚撮影</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>高速連続撮影+</td><td colspan="2">最高約12コマ／秒</td><td rowspan="3">最高約20コマ／秒
＊EF-S以外のレンズ</td></tr>
<tr><td>高速連続撮影</td><td>最高約6.0コマ／秒</td><td>最高約8.0コマ／秒</td></tr>
<tr><td>低速連続撮影</td><td colspan="2">最高約3.0コマ／秒</td></tr>
<tr><td colspan="4">セルフタイマー：10秒／リモコン　○</td></tr>
<tr><td colspan="4">セルフタイマー：2秒／リモコン　○</td></tr>
</table>

再生機能

項目	静止画	動画
拡大表示	1.5～10倍（15段階）	
AFフレーム表示	○	
グリッド表示	表示しない／9分割／24分割／9分割+対角	
レーティング	OFF／★～★★★★★ 画像を選択／範囲指定／フォルダ内・全画像／カード内・全画像／検索結果・全画像	
画像検索	検索条件 レーティング／日付／フォルダ／プロテクト画像／ファイルの種類	
プロテクト	画像を選択／範囲指定／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除／検索結果・全画像	
カメラ内RAW現像	可能	
リサイズ	可能	
トリミング	可能	

8K／4K動画のフレーム切り出し

本機で撮影した8K／4K動画の1フレームを、静止画（JPEG）*1として保存

8K	DCI	約3540万画素（8192×4320）
	UHD	約3320万画素（7680×4320）
4K	DCI	約880万画素（4096×2160）
	UHD	約830万画素（3840×2160）

＊1：HDR PQ動画はHEIFとして保存される
＊切り出した静止画は、カメラ内でのリサイズ、トリミング不可

印刷指定（DPOF）：DPOF Version 1.1準拠

カスタマイズ機能（C.Fn）

カスタムファンクション：22種類を設定可能

外部インターフェース

デジタル端子
端子形状：USB Type-C
通信：SuperSpeed Plus USB（USB 3.1 Gen 2）相当
用途：
パソコン通信用
USB電源アダプター PD-E1による本体内充電・給電用
HDMIマイクロ出力端子：HDMIマイクロ端子（タイプD）
外部マイク入力端子：Φ3.5mmステレオミニプラグ対応
ヘッドフォン端子：Φ3.5mmステレオミニプラグ対応
リモコン端子：N3タイプ端子

電源関連

使用電池

対応バッテリーパック	LP-E6NH/LP-E6N/LP-E6
使用個数	1個

USB充電・給電：USB電源アダプター PD-E1使用

AC電源

ACアダプター	AC-E6N
DCカプラー	DR-E6

撮影可能枚数

形態	撮影方法	使用電池	温度	撮影可能枚数（約・枚）	
				なめらかさ優先	省電力優先
カメラ単体	モニター	LP-E6NH	23°C	320	490
			0°C	310	470
	ファインダー		23°C	220	320
			0°C	200	310
	エコモード（モニター）		23°C	550	700
バッテリーグリップ BG-R10使用時	モニター	LP-E6NHを2個	23°C	—	970
		LP-E6NHを1個	23°C	—	480
	ファインダー	LP-E6NHを2個	23°C	—	640
ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-R10使用時	モニター	LP-E6NHを1個	23°C	—	480
	ファインダー	LP-E6NHを1個	23°C	—	310

動作可能時間

<table>
<tr><th colspan="3">使用条件</th><th>温度</th><th>動作可能時間</th></tr>
<tr><td colspan="3">バルブ撮影可能時間</td><td>23°C</td><td>約4時間40分</td></tr>
<tr><td colspan="3">ライブビュー撮影可能時間</td><td>23°C</td><td>約3時間50分</td></tr>
<tr><td rowspan="5">動画撮影可能時間
＊動画サーボAF：しない</td><td colspan="2" rowspan="2">8K RAW動画（29.97fps）</td><td>23°C</td><td>約1時間20分</td></tr>
<tr><td>0°C</td><td>約1時間10分</td></tr>
<tr><td>8K DCI</td><td rowspan="3">• IPB（標準）
• 29.97fps/
25.00fps</td><td>23°C</td><td>約1時間10分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フルHD</td><td>23°C</td><td>約2時間20分</td></tr>
<tr><td>0°C</td><td>約2時間10分</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイムラプス動画
撮影可能時間</td><td rowspan="2">フルHD
撮影間隔：5秒</td><td>モニター：点灯</td><td>23°C</td><td>約5時間10分</td></tr>
<tr><td>モニター：消灯</td><td>23°C</td><td>約6時間40分</td></tr>
<tr><td colspan="3">連続再生可能時間</td><td>23°C</td><td>約2時間50分</td></tr>
</table>

＊フル充電のLP-E6NH使用時

バッテリー情報

バッテリー残容量	• 1% 単位 • マーク 5段階
撮影回数	対応
劣化度	3段階
電池の登録	可能（最大6個）
電池情報	シリアル番号、取り出し時の電池残量、日付

大きさ・質量

大きさ

（幅）×（高さ）×（奥行）	約138.5×97.5×88.0mm

＊CIPA ガイドラインによる

質量

本体（バッテリー、メモリーカードを含む）	約738g
本体のみ	約650g

＊測定時にボディキャップを含まない

動作環境

動作温度：0～+40°C
動作湿度：85%以下

Wi-Fi

準拠規格

Wi-Fi準拠規格	伝送方式	リンク速度（最高）
IEEE802.11b	DS-SS変調方式	11Mbps
IEEE802.11g	OFDM変調方式	54Mbps
IEEE802.11n		72.2Mbps
IEEE802.11a		54Mbps
IEEE802.11ac		86.7/200/433.3Mbps

送信周波数（中心周波数）

2.4GHz帯

周波数	2412～2462MHz
チャンネル	1～11ch

5GHz帯

周波数	5180～5825MHz
チャンネル	36～165ch

認証方式とデータ暗号化方式

接続方式	認証方式	暗号方式
カメラアクセスポイント	WPA2-PSK	AES
	オープン	しない
インフラストラクチャー	オープン	WEP
		しない
	共有キー	WEP
	WPA-PSK	TKIP AES
	WPA2-PSK	

Bluetooth

準拠規格：Bluetooth Specification Version 5.0 準拠
伝送方式：GFSK変調方式

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準／ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

- 商標について
- MPEG-4使用許諾について
- アクセサリーについて
- 修理対応について

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD (''AVC VIDEO'') AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

＊規定により英語で表記しています。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします
本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

注意

- バッテリーパック LP-E6NHは、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。